

フ名義ノ
宜不宜ヲ
論ス

最モ切要ナル者ハ幸福ヲ願フノ欲ニテ即チ屢稱號スル自愛ナリ此名
義ノ宜不宜ニ就テ爭案ヲ生シ士低瓦的氏ハ曰ク此表名ハ廢スヘシ蓋
シカノ道理ヲ知ル者ハ各其自己ノ幸福ヲ重ンスルコト己ム可ラサル
ニ出ツ然ルニ此愛ト云フ語ハ此貴重ト吾人同人ニ附スル所ノ仁愛ノ
情トノ間ニ類似ノ意ヲ(其實爰ニ一モ類似ナルコト無シ)徴スル故ナリ
然ルニ此二元ノ中ニテ前アル者ニ於テ愛戀ノ情ニ類似シタルコトハ
絶テ無キコト必セリ故ニ之ヲ呼フニ自愛ノ名稱ヲ以テスルハ其欲ノ
性ヲ目的トシテ一ノ考定ヲ立ルナリ而テ其實絶テ基礎ナキ考定ナレ
ハナリト

此疑問ノ
有ル所ヲ
論ス

余カ曉解ニ於テハ以謂ヘラク此表章ハ士低瓦的氏殊ニ其穿鑿ニ過キ
タリトソレ吾人自己ノ幸福ノ爲ニスル貴重ハ固ヨリ他人ノ幸福ノ爲
ニ存スル所ノ貴重トハ異ナルコト明カナリ何トナレハ孰レノ事例ニ

テモ其貴重ヲナス所ノ目的固ヨリ異ナレハナリ然モ其情ノ本體ニ於
テ同一ノ性質ニ非スト云フハ之ヲ性理ニ考徴シテ甚タ明確ナラス愛
即チ情款ハ既ニ前篇ニ於テ之カ定義ヲ示シタル如ク其目的タル物ノ
善ヲ欲シ善ヲ願フノ意ヲ混シテ其物ヲ樂シムコトナリ故ニ朋友ノ愛
ハ朋友ニ於テ感スル樂ミニテ之カ爲ニ仁愛以テ之ヲ貴重スルナリ是
ト同様ニテ自己ノ愛ハ自己ノ善ヲ樂ミ之ヲ欲スルコトナリ乃チ誰ニ
テモ自己ニ樂ミヲ享ケ自己ノ善ヲ願フ時ハ是自愛ヲ爲スナリ故ニ此
情款ノ本體タル劑料ハ其人自己ノ幸福ニ就テノ欲タルニ過キス然ラ
ハ則チ我カ自己ノ幸福ノ欲ト吾人他人ニ向ヒ感スル所ノ貴重トニ於
テ此二元ノ間ニ類似アル耳ニ非ス類似ヨリモ一層密ナル事アリトス
是皆孰レノ事例ニ於テ其情ノ發スルモ心ノ活動ニ就テ觀ル所ニ於テ
ハ其本體ニ於テ同一性ノ者タリ而テ愛ト云フ語ハ本來心ノ此情狀ヲ

私欲ト混
ス可ラサ
ルヲ論ス

神理學家

微スルコト彼此共ニ異ナルコト無シ余吾カ身ヲ愛スル實ニ吾カ友ヲ
愛スルコト異ナルコト無シ況ヤ自愛ノ元ヲ視奪スルハ道理ヲ知ル性ニ
於テ其本分ヲササルヲヤ
自愛ト云フ語ハ幸福ノ欲ヲ微スル爲ニ用井タル者ナレハ此語ニ就テ
士低瓦的氏ノ德懃セル論駁ニハ又一層ノ力アルコトアリ是此語ハ其
訓義ヨリシテ動モスレハ私欲ト云フ語ト混同シ易ク又事實ニ於テモ
屢混同スルコト有レハナリ然レ私欲ト云フ語ハ此心ノ情狀ノ甚々異
ナル者ヲ微スル語ニテ是ハ他人ノ幸福權利ヲ蔑視スルコトヲ微スル
爲ニ不善ノ意ニ用ウルヲ常トス然レ自愛即チ幸福ノ欲ト云フ語ニハ
此ノ如キ觀念ヲ着セス是士低瓦的氏ノ正シク表章セルカ如ク吾人道
理ヲ知ル有情ノ體タル者ハ其性ヨリ離析ス可ラサル者ナリ
神理學ノ諸家ニ在テハ古今共唯自愛ヲ以テ本體ヨリ罪業ナリトシテ

ノ見解ヲ
論ス

自愛ハ罪
ナラサル
ヲ論ス

表セシ耳ナラス是ヲ以テ人間固有罪業ノ本元過惡ノ根源トシテ之ヲ
視タリ是恐ラクハ語ノ類似ヨリ錯マレル者ナルヘシ
故ニ波爾樓ハ誰因給拉ヲ援テ其證トシテ之ヲ確斷シ英吉利ノ道德家
モ時ニハ此見解ヲ執レル者アリ又曩時ノ亞米利加ノ神學家モ甚々一
般ニ此說ヲ主張セリ
ソレ人ハ靈智ヲ具ヘ道理ヲ知ルノ體ナリ其性ニ屬セリト見ユル所ノ
本元ハ何レニモセヨ本體ヨリ其性ニ於テ罪責ニ屬スヘキハ無カル可
キノ事ナリ此錯誤ハ既ニ舉ケタル自愛ト私欲トノ差別ヲ忽略シタル
ヨリ起リシコト疑ヒ無シ
自己ヲ愛スルハ之カ極ヲ盡シ他人ノ幸福ヲ蔑視シ他人ノ權利ヲ干犯
シテ只ニ自己ノ饜足ヲ謀ルノ道ニ於テセハ實ニ正義ノ本元ヲ犯ス者
ニシテ尋常理會ニテ人々ノ理性ニ因テ論スルモ固ヨリ罪スヘキ所ト

シ又天啓ノ道ニ於テモ均シク罪ス可キ事ニ屬ス然リ而テカノ自愛ノ
 理ニ於テ本來眞義ノ存スル所ニ越ユルコト無ク吾人自己ノ幸福ヲ重
 スルハ固ヨリ理性ノ禁スル所ニモ非ス又神法ノ禁スル所ニモ非ス是
 各人ノ胸裏ニ存スル所ニシテ靈智ト理性トノ光輝滅絶シテ全然黯黑
 ニ至ラサルヨリハ人皆之ヲ認識スルコト斷然肯定スヘキニ屬スカノ
 神典ノ若キ何處ニ此本元ヲ禁シタル語アル其中實ニ吾人ヲ教誡シテ
 我カ同人ノ愛ヲ重ンセシム然ルコト人ヲ愛スル己レカ如クセヨト云フ教
 語ノ中其自愛ヲ禁スルトハ相水火シテ事ノ理勢然ラシムル所トシ自
 愛ノ存スヘキ意ヲ含メ依テ以テ吾人他人ニ對シテ有スル所ノ愛ヲ測
 量スヘキ者ハ自愛タルコトヲ表明セリ

亞立斯度
 德ノ說ヲ
 論ス

余カ此前ニ指述シタル諸說ヨリモ猶一層正シキハ亞立斯度德ノ其弊
 倫學中ニ取レル見解ニテ善人ハ其本體ニ於テ自己ヲ愛スル者ニテ眞

ノ意味ニテハ己ヲ愛スル故ニ勝ルナリト曰ク人アリ正義節儉其他ノ
 善行ヲ行フニ於テ人ヨリモ勝サラムト欲セハ縱ヒ此ノ如キ人ハ實ニ
 衆人ヨリモ一層眞ノ自愛ニ出ルモ誰レカ亦其己ヲ愛スルヲ以テ之ヲ
 罪ナリトシテ算スル者アラムヤ然リ而テ其自ラ取ル所ノ者ハ衆善ノ
 中至美至大ナル者ニシテ就中己カ性中ノ主司タル本元ニ尤モ悦フヘ
 キ者ニ非ル莫シ蓋シ人ノ性中ノ主司タル者ハ本來自己タル耳是猶各
 國ノ君權ノ如ク一般ニシテ依テ本來其國ヲ成ス者ナリ且ソレ人ニ在
 テ此本元統御ノ權ヲ執リ或ハ他ニ管制セラルハニ準シテ其人自己ノ
 志尙ヲ貫キ若クハ貫クヲ得スト云ヘリ然リ而テ其行事ノ中最モ有意
 ノ舉トシテ視ルヘキ者ハ何ソヤ他ナシ此本元ノ立法ト主權ヨリ出ル
 者ニ非ルハ莫シ故ニ人能其性中主司タル者ヲ優養シテ努メテ其欲ス
 ル所ニ暨足セシムレハ則チ嚴ニ之ヲ自己ヲ愛スル者タリト謂ヒ其特

別ナルヲ稱スヘシ然^正自愛ヲ以テ訴責ノ事トナシテ視ル者ニ至テハ、其意全ク相反セリト（辨倫學ニコム篇第九卷第八篇ニ出ツ）

人此本來ノ眞意ニ於テ自愛者タラスシテ其將來永久ノ福履ヲ蹂躪シテ只現在ノ快樂ヲ取り或ハ他人ノ權利幸福ヲ踏破スルハ徒ラニ其鑿足ヲ求ムルナリ故ニ鑿發醉漢湯子嫖客ハ眞ニ自己ヲ愛スル者ニ非ス、蓋シ此輩ノ實ニ譴責スヘキハ其自己ノ幸慶福履ヲ甚々重ニスルニ非スシテ殊ニ之ヲ輕ニスルニ在ルノミ

幸福ノ欲ハ此心ノ資質ニ於テ其基礎タリ又理性靈智モ之カ態度ヲ定ムルニ過キスシテ一本元タルハ固ナリト雖^正然^正絶テ人性固有ノ無二ノ本元トシテ視ルヘキニ非ス或ル道德學家ハ他ノ凡百本元ヲ自愛ノ一ツニ歸シテ之ヲ以テ人々躬行凡百ノ源由トナサムト欲シ吾人行フ所ノ事ハ直接ニテモ媒接ニテモ皆其因由動機ヲ斯ニ於テ觀ルヘシ

是固有無二ノ本元ナラサルヲ論ス

此ノ如キ見解ノ執ル可ラサ

トセリ此見解ニ從ヘハ余我カ朋友ヲ愛シ我カ親族ヲ愛シ我カ邦國ヲ愛スル者ハ唯其福祉ト余カ自己ノ福祉ト親密ニ相連絡スルヲ以テノ故ナリ余人ノ不幸ナルヲ憐愍シテ之ヲ救援スルハ唯其景況ニ依テ提醒セラレタル不快ナル感動ヨリ我カ健全ヲ失ナヒ或ハ此生命ヲモ捨カ財寶ヲ捐テ我カ康安ヲ危ウシ我カ健全ヲ失ナヒ或ハ此生命ヲモ捨ルニ至ル者ハ唯此ノ如クニ爲シテ得ラルヘキ所ノ一層盛大ノ善ヲ獲ムト欲スルカ爲ナリ加旃正義ノ意味并ニ上天ヲ奉スル義務ノ意味ノ若キ凡ソ以テ我ヲ管束シ我ヲ控御スル者今日行事ノ本元タリト雖^正其首トシテ維持ノ力アルヲ見ルハ我カ自己ノ福祉ノ爲ニ之ヲ重ニスル所ニ在テ自己ノ幸福ハ他凡百ノ論題ニ於ケルモ亦皆然ラサル莫シ此見解ハ凡テ眞ノ性理學ト相戾ルノミナラス又人性ノ眞ヲ賊スル者ナリ論題ナル本元ハ人々ノ躬行ニ於テ至盛ナル源由中ノ一タリト謂

且、又、此本元ハ、吾人ノ動機トナリ、行事ニ發スル所、登時之ヲ觀ルニ、全ク利害ニ關セサルカ如ク、見ユルト雖モ、其自己ニ知ル所ヨリハ、一層大イニ吾人行事ノ源由中ニ存スル者ナリト、謂フハ、余固ヨリ之ヲ容ル、所ニシテ、又吾人正義ノ意味、并ニ奉神ノ義務ノ意味トモニ、本分ヲ盡シテ、幸福ヲ得ルノ連絡親密ニシテ、離析ス可ラサルノ中ニ、強援ノ存スル有リト、謂フモ、亦拒マサル所ナリ、且ツレ、カノ經典ノ如キ、吾人正善ノ行爲ハ、其動機ニ、我カ幸福ノ愛ヲ省ルヲ、常トセリ、故ニ、一方ニ於テハ、其報賞約束、又他ノ一方ニ於テハ、其儆誠威嚇、凡テ上ニ取レル、人性ノ此理法ニ、本ツカサルコト莫シ、故ニ、人ハ、何ノ處ヲ論セス、何ノ時ヲ問ハス、其自己ノ福履ヲ願フハ、其心ノ理法タルコト、著明ナリ、然モ、之ヲ以テ、人々行爲ノ無二極功ノ地トナスト、謂ヒ、凡百仁惠ノ情意、凡百廉耻ノ操、凡百德行ノ事、凡百本分權利ノ意義、舉リテ悉ク、此一本中ヨリ、離解スヘシト、謂フ

此欲、理性ニ合フハ、如何ナル意味ナルガヲ論ス
 ○士低瓦的ノ見解

ハ、是、吾カ理性ノ示サ、ル所、人心ノ縝密ナル視察モ、教ヘサル所、又天啓ノ道ニ於テモ、宣ヘサル所ナリ
 余斯ニ至ルマテ、幸福ノ欲ヲ、理性ニ合フ本元トシテ、之ヲ論シタリ、然ラハ、則チ、其意味ニテハ、幸福ノ欲ハ、道理ヲ知ル靈智ノ性ニ、ノミ、特有ナルカ、然ラハ、則チ、此本元ト、連絡スルコト無ク、此本元ノ效驗タルコト、無キ時ハ、所謂理性ナル者ハ、他ニ觀ル可ラスト、云フカ如ク、理性ノ演用ヲ、含蓄スル者タルカ、果シテ以テ、然リト爲ハ、此欲ハ、乃チ、天賦固有ノ欲ト、謂フ可ラス、少クモ、之ヲ本能上ノ欲ト、謂フ可ラスト、是乃チ、士低瓦的^{スチワ}的^ド、其作用徳性兩力論中ニ、取レル見解ナリ、故ニ、幸福ノ欲ハ、士氏ノ意ニテハ、享樂ノ諸源由ヲ概觀シ、智力以テ、之ヲ思慮シテ、之ヲ前時ニ考ヘ、之ヲ將來ニ照シテ、何物カ、能ク極功ナル、恒常ノ福履トスルニ足リ、何物カ、其福履トスルニ足ラスト、云フコトヲ、確定スルノ義ニ中レリ、然ラハ、則チ、之ヲ

專ラ然ル
ニ非ルヲ
論ス

成スハ、理性ノ部分タリ、欲ニハ非ルナリト
幸福ノ欲ハ、理性ニ依テ、之ヲ演用シタル時、其中ニ上ニ述ヘタル運用ヲ、
多少含蓄ス、即チ、何物カ、幸福ヲ合成スヘキ、全體ノ中ニテ、何物カ、最モ善
ナル、其善ナルハ、徒ニ現在ノミナラス、後來ニ至テ、如何ナルヘキヲ、稍理
會スル等ノ、概括ノ觀念、又此普通ノ正鵠ヲ、達スヘキ弓矢トシテハ、行爲
ノ諸本元、并ニ、躬行ノ本末ヲ、稍通覽シタル見解、并ニ、其中ニ就テ、計較等
ナリ、此等理性ノ運用ヲ、含蓄スルハ、固ヨリ、容スヘキ所ナリ、而テ、自愛ヲ
演用スル時ニ、斯ニ舉ケタル性質ヲ、含蓄スル所ノミニ、就テ云ハ、幸福
ノ欲ハ、本能上ノ發動タルト、云フヨリモ、寧ロ、理性上タリト謂フヲ、確的
ナリトス、然リト雖モ、余カ、解セサル所ハ、同一ノ情、其類ノ何タルニ拘ハ
ラズ、苟モ、心ノ發動タル時、一時ハ、省察ヨリ發シ、又一時ハ、衝動ヨリ發シ、
其品性ニ於テ、今ハ、思慮セル理性上タリ、次ニハ、本能上タルコトヲ、得サ

其生存永
久ヲ願フ
ノ欲ヲ論
ス

ルカ、是何等ノ道理ソヤ、吾人、此事ハ、事例アルヲ知ル、譬ヘハ、善意ニテモ、
惡意ニテモ、情款ノ發スル時ニ、於ルカ如シ、人若、其齡長シ、能是非ヲ、辨別
スルニ至レハ、其理性ヲ、演用シテ、其性ヨリ、示ス所ノ事ヲ、確定固執ス、或
ハ、理性ノ決定ヲ、其己ヲ行フノ首本トシテ、取ル者アルニ至ル、然ルニ、此
事實ヨリシテ、行爲ノ本元、本能タラス、本來、人性ニ、賦與セラレタル者ニ
非スト、謂フ可ンヤ、ソレ、凡百善好ヲ、欲願スルノ事ノ爲ニ、其善好ノ存ス
ル所、何如タルヲ、全然悉皆知ラサル可ラスト、云フノ理無シ、余ハ、苟モ、現
在ニ在テ、幸福タルヲ知レハ、余カ、知識才能ノ度ニ準シテ、余カ、自己ノ福
祉ヲ、願フヲ得ル耳
上ノ論題ナル本元ト、極メテ親密ニ、一致シテ、生存永久ヲ願フノ欲アリ
テ、或ハ、其實、本來、自愛ノ欲ノ變形タルモ、知ル可ラサルナリ、蓋シ、人ノ心
腸ニ、存スル所ノ欲、此欲ヨリ、一層強ク、一層普通ナル者ハ、莫カルヘシ、故

ニ、生命ハ、他ノ凡百所有ニ、超過シテ、貴重ナル者ニテ、富有名譽、地位、權勢、安樂ハ、之ト比較シテ、殊ニ其貴重ヲ、缺ク者ナリトス、然レ又、耻辱ヲ受ル時、或ハ我カ保護ニ、依頼スル、無罪ニシテ、慙恤スヘキ者ヲ、保守スル時、或ハ至大至善ノ源由アリテ、是カ爲ニ、善正眞實ノ人ノ、生命ヲ捐ル如キ、大難アル時、此等ノ事ノ爲ニ、寧ロ、自ラ生命ヲ犠牲ニスルノ、機會ナキニ非ルハ、固ナリ、然ルニ、此等ノ事例ニ、當テサヘモ、其生ヲ犠牲ニシテ、要求スル所ノ事ハ、其切要タル、莫大ニシテ、吾人、神卓上ニ在ル犠牲ヲ、貴重スルハ、ハタ幾何ツヤ

此欲齡ト
共ニ增長
スルヲ論
ス

生存永久ノ欲ハ、齡漸ク進ミ、生漸ク減スルニ臨ミ、增長スル者ト見ユ、吾人ハ、多キ中ニ、極メテ少ナキ者ヲ、貴重スルヲ常トス、是神意仁惠ノ、然ラシムル所ニテ、其的然タル、證據ナリ、何トナレハ、此世界ハ、注意、勞苦、悲憂ヲ以テ、填滿セル世界ニテ、其住人ノ大衆現在モ、然ル如ク、將來モ、又然ル

ヘケレハ、僅少ノ價直ニテ、買フヘキ豆ノ如ク、此生命ヲ、輕ンス可ラスシテ、生命ヲ輕ンスルヨリ、慘怛ナル者ハ、非レハナリ

第二章 知識ヲ求ムルノ欲

人性ヲ、混成スル諸本元、此心ノ動機力ニシテ、其發力ヲ、提醒喚起シ、以テ之ヲ行爲ニ、驅迫スル者ノ中、知識ヲ求ムルノ欲ハ、切要ノ地位ヲ、占メタリ、是理性省察ノ、未發ノ前ニ、既ニ、夙歲ヨリ、多少表現スル者ニシテ、縱ヒ、其存在、普通ナラサルモ、一般ニ、涉ルヲ以テ、吾人、此本元ハ、本來、吾人ノ有體ノ大創造者ニ、因テ、性中ニ、賦與セラレタル者ナリト、引證スルナリ、知識ノ欲ハ、新奇ヲ好ムト、屢、同一意ナリトシテ、論スル者アリト、雖レ、盡ク是ト、同一ニハ、非ス、新奇ヲ好ムハ、何ニテモ、心ノ前ニ、現ハル、物ノ、新鮮奇異ナルニ、係ハルコト重シ、故ニ、是ハ、未タ知ラサル物ヲ、知ラムト欲スルノ、一般ナル欲ヨリモ、寧ロ、新奇ナル形質ヨリ、提醒シタル感動ナリ

固有ノ一
本元ナル
ヲ論ス

新奇ヲ好
ムト、同シ
カラサル
ヲ論ス

トス、是其用一層狭クシテ、其觀テ以テ、提醒セラレタル物ニ於テ、之ヲ理會セムト、欲スルノ欲ヲ、含蓄スルカ上ニ、又多少、驚異ノ意ヲ含ミ、其表現シタル物體ノ、非常不意ナルニ、係ハルナリ、是ヲ以テ、新奇ヲ好ムハ、知識ノ欲ニ、至強ナル援助ヲ假シ、此心ノ發陳ニ、刺戟ヲ起シ、是無ケレハ、其發達ヲ、遲緩ナラシムト、雖也、之ヲ以テ、論題ナル本元ト、同一ナリト觀ルハ、難シトス

此欲、夙歲ニ表現スルヲ論ス

知識ノ欲ハ、恐ラクハ、夙歲ニ於ケルヨリ、其開發強キ時ハ、非ルナリ、又新奇ノ觀ヲ、ナスノ品性モ、此時ヨリ、十分ニ、援助ヲ假スノ時ハ、非ルヘシ、小兒ニハ、凡百ノ事物、皆新珍奇異ニシテ、凡テ世間ノ事物ヲ、周視シテ、皆知ラサル者トナスハ、世間ニテ、其兒ヲ知ラサルカ如シ、其目視ニ達スル所ノ萬物ハ、各其新タニ學フ所、皆己レニ、隱微ナル者ナリ、故ニ、己レカ周匝ノ、新奇ニシテ、知ラサル世界ト、己レヲ慣熟セムト、欲スルノ欲、陸續其用

後年ニ於ケルヲ論ス

ニ供シ、陸續其學習ニ、供スルナリ

漸ク生長シテ、其靈智ニテ、視ル所ノ眼界、漸ク廣大ナルニ至レハ、其進趨ノ步毎ニ、新タニ、一層廣キ原野ノ、探查スヘキアリテ、前時ノ考究ノ界外ニ、涉レリ、故ニ、兒タリシ時、知ルヲ好ムコト、鮮ナケレハ、長シテ、其熱心愈、深ク、知ラムト欲スル欲ト、志ト、抗制ス可ラサルニ至ル、是ヲ以テ、其學習ハ、其土ノ風習ニ依リ、其性質ニ從ヒ、又夙歲ノ交友ニ據リ、或ハ境遇ノ勢ニ沿ヒ、彼此ノ方向ヲ取り、或ハ、科學ノ生徒、文學ノ生徒、藝術ノ生徒、若クハ、商業、其他、生計ヲ、謀ルノ徒タル等ニテ、如何ナル方向ヲ立テ、如何ナル職業ニ、轉セムト、欲スルモ、知識ノ欲ハ、常ニ心中ニ存シテ、眞理ノ籠前ヲ照ス、神秘ナル、永久燈火ノ如シ
兒童ノ傳記、歴史、稗史ヲ、聽クコトヲ、欲スルノ熱心ハ、人皆知ル所ナリ、是夙歲ニ於テ、尋常甚ク強ク、開發スル理想ノ愛ニ、係ハルニハ、非スシテ、未

傳説ノ愛ヲ解説ス

タ知ラサル、新タナル事ノ、心ニ現ハレ、恰モ、其真ニ、迫ルカ如キヲ以テ、之ヲ知ラムト、欲スルノ欲ニ、關スルコト、一層甚シトス、尙又、此傳記ヲ、愛スルコトハ、吾人、老大ニ至ルモ、全ク我ヲ棄置スル者ニ非ス、故ニ、吾人、此年ニ至ルモ、猶稗史ナリ、歴史ナリ、詩篇ナリ、琴歌ナリ、悲曲ナリ、ヲ愛シ、生活ノ計慮、痛ク我ヲ重困スルノ際ニ於テモ、依テ以テ、我ヲ樂マシムルコトアリ、恐ラシクハ、老人ト雖モ、傳記ノ說話ヲ聞キ、其情意ヲ曉解シテ、一次、其情實知好ヲ、醒發スルコトアラハ、其感動ニ、堪エサルコト、兒童ニ異ナルコト、莫ルヘシ

ソレ、獨リ知識ノ欲ノミナラス、知識ヲ學習スル運用モ、亦真ニ、樂ムヘキ者タルハ、造物者ノ、人性ヲ混成スルノ、妙ニシテ、豈之ヲ視テ、唯仁惠ナル、天賦ナリトシテ、止マムヤ、此知識ノ欲ノ、人ニ於ケル、其切要ナル、幾許ナルヲ考へ、又其進歩ノ道、カノ靈智ノ曙光ヨリ、以テ其十分ニ、成熟強堅ヲ、

其仁惠ナル天賦タルヲ論ス

本能上ノ本元ナレハ、理性ニ合スルヲ論ス

得ルニ至ルマテ、縦ヒ、卑下ナル胸裏ニ於ケルモ、日進月至ノ功ノ、幾許ナルヲ量リ、又紐頓ノ若キ、夾波列爾ノ若キ、倍根ノ若キ、埒加爾多ノ若キ、萊武尼多ノ若キ、其嬰房ノ、徐々軟弱ナル、學習ヨリ始メ、竟ニ至大至高ノ發明ヲ爲スニ至リ、其光輝ヲ發射スル、獨リ、此發明者ノ名ニ於ケル耳ナラス、後世ノ之ニ繼ク者ヲシテ、其餘光ヲ受ケシムルニ至ラシメシハ、其心、此知識ノ欲ニ、衝動セラレタルヲ、知ルヘシ、凡ソ、此等ノ事ヲ、通考スル時ハ、吾人ノ心性中、此部分ノ切要タル、豈徒ニ、殊ニ高シト謂テ、止マムヤ、知識ノ欲ハ、既ニ、余カ表章中ニ、入リタル多クノ能動ノ、諸本元ノ如ク、天賦ニ根サシテ、本能上ノ本元ナレハ、同時ニ亦、理性ノ演習管束ヲ、受クヘシトス、是其初メハ、寧ロ、替突ノ衝動トシテ、發動シ、此心ヲ、一定ノ目的ニ、驅使スル者ナレハ、理性一タヒ、此心ノ控勒ヲ、執ルニ當テハ、其活力ヲ、發揮シテ息マス、初メニ、徒ニ衝動ニテ、其性、本能タリシ者、今ハ、思慮シテ、理

其道德ノ
品性ヲ論
ス

ニ合フノ目的ヲ達スルニ至ル

此欲道德ノ品性ニ於テハ、論題ナル本元、即チ理性ノ演習ニ關スルト、關セサルトアリ、知識ノ欲ハ、必ス、此心ノ善徳ニ合ヘル情款ナリト、謂フ可ラス、是其品性タル、固ヨリ徒ニ、肉性欲、即チ衝動タルヨリモ、一層高上秀出ニシテ、其格勝レ、等貴キコト、確然タリ、然レ、是道德上ノ極美ト、相結ヒテ、離レサル者ニハ非ス

是理性ニ據テ、之ヲ演習シ、當然ノ動機ヨリ發シ、正シキ目的ニ於テ、知識ヲ求ムレハ、善徳ニシテ、稱スヘキノ事タリ、然レ、之ニ反スレハ、惡徳タリ、然ルニ他凡百、事ニ於ケル如ク、吾人純然タル動機ヨリ、正シキ目的ニ向ヒ、此欲ニテ、舉動スルノ義務ヲ、奉スルタケニテハ、善行タレ、苟モ、此ノ如キ動機ニ、出ルナクシテ、他ノ動機ヨリ發シ、他ノ標法ニ、於テスレハ、知識ノ欲ト、實行トハ、亦擯斥スルニ、足レリトス

其生來ノ
本元タル
ヲ論ス

第三章 權勢ノ欲

權勢ノ欲ハ、人性固有ノ一本元トシテ、視サルヲ得ス、幸福并ニ、知識ノ欲ノ如ク、是亦、其開發ニ於テモ、夙歲ニ在リテ、此心ヲ壓シテ、其響動ヲ起スモ、亦盛ニ、且其表顯モ、亦普通ナリトス

如何ナル
標法ニテ、
提醒セラ
ル、カヲ
論ス

權勢、即チ事ノ原因ノ觀念ト、此心、其事ニ逢フノ初メニ方リ、其觀念ヲ作ルノ標法トニ就テハ、余既ニ、之ヲ固有理會ノ項下ニ、論述シタリ、吾人、此時ニ當リ、外界ニ、變化ノ起ルヲ視、而テ又、其變化ハ、一定ノ前唱ナル者アリテ、是ヨリ、直チニ發スルコト、不易ノ理法ナリト察ス、是即チ、此心ニ、提起セラル、原因ノ觀念ニテ、此原因ノ中ニ、其一定ノ效驗ヲ、生スル爲ニ、一物ノ他物ニ勝レリト、云フ權勢ノ意ヲ含クメリ、吾人又、我カ意ノ向フ所ニ依テ、外界ノ物體ニ、亦相通スル效驗ノ、生スルヲ視ル、依テ以テ、猶又、吾人自己モ、他ノ諸物ニ勝ル權勢ヲ、有スルヲ知ルナリ、此ノ如ク、此心ニ、

提醒セラレタル觀念アリテ、爰ニ又此觀念ト、連絡シテ、感性ノ活動ヲ生
ス、即チ吾人、我カ周匝ノ物ニ、勝ル勢力ヲ有スレハ、我ニ快樂ナルノ感ヲ、
興起スルニテ、吾人ハ、其享樂スル所ノ物ヲ愛シ、其愛スル物ヲ欲ス、此ノ
如クニシテ、此心ニ、權勢ヲ有スル爲ニ、強キ欲ヲ發生シテ、漸ク盛ナルニ、
至ルナリ

權勢ヲ張
ルノ樂ミ
ヲ論ス

何レノ時ヲ論セス、吾人、一ノ較著ナル效驗ヲ發セシムルヲ得、而テ其效
驗ハ、我カ好ム時ニ應シテ、何時モ、同一ニ生セシムル者ヲ、我ニ有スト云
フ、我ノ意識ヨリシテ、生スル所ノ快樂ハ、此享樂ノ中ニテ、至高ナル源由
ノ一ニシテ、天ノ以テ、吾人ヲシテ、享ケシムル所ナリ、此欲蓋シ、世界ニ充
滿シテ、陸續活動ヲ生セシムル、秘密ナル淵源ニテ、既ニ、稚兒ノ嬉戯ニ現
ハレ、又壯年ノ、一層大イナル事業ニモ、表ハル、ナリ、故ニ、稚兒、能其自己
ノ肢節ヲ、動カシ得、若クハ管束シ得ル時、少年、角力ノ戯ニ、其同輩ノ技巧

ニ、勝ルノ術ヲ知ル時、壯年ノ人、其同輩ノ行爲ヲ、管束シ得テ、他人ノ意ヲ
屈シ、自己ノ意ニ、従ハシムル時、此ノ如キ時、少長トナク、皆新タニ勢力ヲ
得テ、悦フハ、恐ラクハ、同一ナルヘシ、而テ、其快樂ハ、其獲ル所ノ、新タナル
ト、依テ以テ、生シタル效驗ノ、陽ハニ、浩大ナルトニ、準スルコト、一般ナリ
トス

此本元ノ
強力響動
ヲ論ス

權勢ノ愛ハ、人心ニ旺スル、諸本元ノ中、至強ノ一ニシテ、其坐位ヲ占ルヤ
深ク、人性ノ基礎ニ在リ、吾能某ノ事ヲ爲ス、吾能他人ノ爲ス所ノ事ヲ爲
ス、吾能他人ヨリモ、多ク之ヲ爲スト、是即チ吾人ノ努力ニ於ケル、自然ノ
次序進路ニシテ、又兼テ、吾人ノ享樂ニ於ケル、程度増息ナリ、今ソレ、兒戲
ノ玩具ニ於ケル、文明ト、陋夷トヲ論セス、萬國ノ爭勝ニ於ケル、皆是、強力
ト強力ト、相競フニ非ル莫シ、而テ、之ヲシテ、然ラシムル者ハ、權勢ノ愛ニ、
非スシテ、何ソ、カノ蹊路ナキ山嶽ヲ攀チ、茫渺ナル沙漠ヲ涉リ、其強力、遼

カニ我ニ勝レタルヲ願ミズ、獵夫ヲシテ、其自然ノ主タル、毛茸ノ土族ヲ、探尋スルニ至ラシムル者ハ、權勢ノ愛ニ非スシテ、何ソ、カノ魏狄ノ大軍ヲ帥ヒ、他國ヲ攻略シ、新疆ヲ拓カムトシテ、勇士ヲシテ、唾手事ニ從ハシムル者ハ、權勢ノ愛ニ非スシテ、果シテ何ソヤ

又日常平和ノ事業ニ於テモ、是ト同一ナル衝動力ノ、他力ト相混スルコト、許多ナルハ如何、恐ラクハ、一層伴象ナリト雖、臣、人ノ舉動ノ動機ハ、斯ニ存スルコト、莫キヲ得ムヤ、カノ科學ノ人ノ若キ、夜々、衆星ノ運行ヲ觀テ、天象ノ組織、硬難ナル問題ヲ、離解シテ、之ヲ單純精微ノ元理ニ、歸セシム、而テ、其新タニ、理法ヲ發明シテ、由來久シク、人間ノ講究ヲ、攪亂セシ秘密ヲ、窺フニ至テハ、即チ、其人、カノ物質世界ヲ、己レカ意ニ、從ハシメ、竟ニ此權力ヲ、占メタルヲ以テ、其意識ニ於テ、悅樂ヲ生スルコト、豈少ヤナラムヤ、是又、カノ說家ニ於ケルモ、同シク、然ル者アリ、其言語ハ、人民ノ生活

又他ノ事業ニ於テ、之ヲ觀ルヲ論ス

知識ノ欲ニ補助タルヲ論ス

ト、一國ノ安危トニ、關スル所ニテ、或ハ之ヲ譴責シ、或ハ之ヲ庇護シ、或ハ、萎靡半睡ノ情意ヲ振作シ、以テ、聽衆ノ忠心ヲ起シ、勇氣ヲ鼓シ、怨惡ヲ増サシメ、或ハ、其憤怒ヲ鎮シ、其憂慮ヲ慰シ、其悲憐ヲ長シ、其危懼ヲ生セシム、此時ニ當リ、目前ノ衆人、之カ爲ニ、鼓動セラレ、己レカ操ル所ノ權ニ、服從セルヲ見、其心、勝ニ存スル情ト、混シテ、大捷ヲ獲ルノ快樂ヲ、増加スルニ至レハ、其意識ニ、感スル所ハ、タ何如ソヤ

權勢ノ欲ハ、他ノ行爲ノ諸本元ニ、補助タルコトアリ、或ル事例ニテハ、蓋シ、之カ基礎タルコトアリ、凡テ新タニ、真理ヲ曉リ得ル毎ニ、此心ニ、勢力ノ増加スル所以ナルヲ以テ、此欲、特ニ知識ノ欲ニ、補助タリトス、故ニ、之カ爲ニモ、又其欲自己ノ爲ニモ、殊ニ甚シキコト、至ルナリ、凡テ吾人、愈、多ク知レハ、愈、多ク、愈、能、之ヲ爲スハ、尋常ノ事ナリ、故ニ、心ニ獲ル才能ハ、一ノ意味ニテ言ハ、其他猶大ニ、獲ル所アラムトスルヲ、助ケ成スノ器械ト

自由ノ愛
ニモ補助
タルヲ論
ス

ナルナリ、吾人ハ、吾人ノ發明ニテ、知ル所ノ、天地間ノ諸力、諸元行ヲ資リ
テ、我カ助ケニ、供スル爲ニ、一ノ様法ニ依テ、我カ指揮ニ服セシメ、又我カ
自己ノ躬行ヲシテ、科學ノ啓示スル定理ニ、一致セシムルコトヲ、得ル者
ナリ故ニ、此心、凡百理法ノ講究ニ勞シ、眞理ヲ探願スル、倦劬ニ處シテ、常
ニ努力シテ、止マサル者ハ、カノ或レ意味ニテハ、知識ノ増ス毎ニ、勢力モ亦
隨テ増スト云フノ、保證アルニ因ルナリ、カノ世ニ流行シテ、尋常之ヲ倍
根ニ歸スル箴言ニ、知識ハ、勢力ナリト、肯定セルハ、是カ爲ナリ
或レ著家ノ説ニテハ、自由ノ愛モ、又少クモ、權勢ノ愛ヨリ、發スル者ナリ、何
トナレハ、是吾人、我カ好ム所ヲ、爲スヘキノ欲ナレハナリ、何ニテモ、我ヨ
リ、自由ヲ奪フ者ハ、我カ權力ヲ限ルナリト、是同シク、或レ道德學ノ著述
家ハ、徳ヲ樂ムモ、一ノ目的ニテハ、此同一源由ニ、係ハレリト云フ、事實ヲ
表章セリ、故ニ、人若、惡習ニ慣ヒ、其心、之カ管轄ヲ受ル時ハ、自ラ管束スル

總論

ノ勢力ヲ失ヒ、其心、卑劣ナル情欲ニ服從シ、而テ此ノ如ク、勢力ヲ失フ時
ハ、其意識、汚辱ニ陥リ、常ニ、苦楚ヲ帶フルナリ、又一方ニハ、其人、縱ヒ、周匝
ノ惡習響動ニ染ミ易キモ、又自己自然ニ、罪業ナル縱肆ニ、流ル、ノ偏癖
アルモ、勉メテ、其正義ヲ固守セムト、欲スル時ハ、其相反セル響動ト、新々
ニ戰フ毎ニ、常ニ、最後成功ノ質子ヲ、捕ルカ如ク、戰捷ノ期モ、遠キニ在ラ
スシテ、最後ニ獲ル凱歌ハ、歡喜ニ、堪エサルナリ

第四章 權勢ノ欲、一定ノ變化ニ因テ、勝ヲ好ミ、所有ヲ好ム
ノ、欲トナル者

又其他ニ、一定ノ欲、人心ニ屬シ、天然ニ、其基礎アリト、見ユル者アリ、是人
展、之ヲ以テ、行爲ノ種別ナル本元トシテ、視タリト雖モ、一層本來ニテハ、
蓋シ唯前論ナル、本元ノ變形トシテ、視ルヘキナリ、余カ指ス所ハ、勝ヲ好
ムノ欲、并ニ、所有ヲ好ムノ欲ニシテ、尋常略シテ、驕慢、吝嗇ト、名クル所ノ

優勝ヲ好ムノ欲ハ、
普通ナル
ヲ論ス

特ニ人ニ
ノミ限ラ
サルヲ論
ス

者ナリ

優勝ヲ好ムノ欲ハ、人間ニ殆ト普通ニシテ、各級ノ社會ニ於テ、品性事業ノ凡百各種ニ表現セリ、故ニ、兒童ノ嬉戯ヲ活潑ナラシメ、人生ノ冷淡ナル事務事實ニ風味ヲ加ヘ、陣營ヘモ、官府ヘモ、立法府ヘモ、裁判所ヘモ、透入シ、又學校庠序ノ學者ノ職業ノ如キ、和平ナル競争ニモ、又奮闘ノ野流血ノ池ノ如キ、邦國敵對ノ交戦ヲナシテ、勝克ヲ求ムルノ至危ナル争闘ニモ、滲入スルナリ、凡ソ此等ノ表象ニ於テハ、勝ヲ好ム欲ナラスシテ、何ソヤ、而テ、其尤通有セル形状ヲ論スレハ、權勢ヲ争フノ欲ナラスシテ、何ソヤ

是人性ニノミ、特有タルニ非ス、人ト禽獸ト通シテ之ヲ有スル者ナリ、下等ナル生物モ、亦相競ヒ相争フ、等輩アリテ、其捷疾ト、其強力トニ於テ、互ニ雄ヲ争ヒ、其等輩ノ中ニ就テ、自ラ是ニ勝ル者ハ、其長トシテ、認可ヲ受

忌嫉ト、同
シカラサ
ルヲ論ス

ルナリ

優勝ヲ求ムルノ欲、即チ、争勝ノ本元ハ、忌嫉ト混ス可ラス、然ルニ、殊ニ、屢之ヲ混帶スルコト有レハ、必ス相伴フ者ニ非ス、忌嫉ハ、競争者ノ功ヲ以テ、自ラ恨ムル者ナレハ、正明清潔ナル争勝ニ至リテハ、他人ノ正當ナル争勝ヲ、害毀スルヲ求メス、唯是ニ、匹敵シ、超越セムト、勉ムルノミ、此差別ハ、要切ナル者ニテ、士低瓦的氏之ヲ指示セルコト、甚タ明カニ、又波伯低士多波多列爾モ、猶舊シハ、亞立斯度德モ、之ヲ論セリ、波多列爾ノ言ニ曰ク、争勝ハ、唯之ト相比較スル人ニ、勝ルノ欲タル耳、コトテ、其勝ルコトヲ達スル爲ニ、別策ヲ設ケ、他人ヲ、自己ノ水平下ニ、擠サムト欲スルハ、是別ニ、忌嫉ト云フ意ナリト、亞立斯度德ノ説モ、同シク、此義ヲ示セルコト、士低瓦的ノ援ケルカ如シ、曰ク、争勝ハ、善事ニシテ、善人ニ屬ス、忌嫉ハ、惡ニシテ、惡人ニ屬ス、人欲スル所ノ目的ヲ、實ニ有セムトシテ、之ニ達セムト、勉

ムル時ハ、争勝ト謂フヘク、誰モ之ヲ有セルヲ以テ、自ラ足ラムトスルハ、忌嫉ナリト、謂フヘシト

其必ス、惡意ナラサルヲ論ス

學士來徳ハ、争勝ヲ以テ敵手ニ對シ、惡意ノ志念ヲ含メリトシテ、之ヲ、惡意ノ情款中ニ、類列セリ、然ルニ、士低瓦的氏ハ、此上ニ示セルカ如ク、此志念ハ、屢、好勝ノ欲ト、連絡シテ現ハルレト、必ス之ト伴起タル者ニ、非ストシ、猶又、争勝ハ、情款トシテ、類別スヘキニ、非スシテ、欲トスヘシ、何トナレハ、是、能動ノ本元タル欲ニテ、其情アルハ、唯伴起ノ境遇タル耳ト

阿巴咸氏ノ執レル見解ヲ論ス

阿巴咸氏ハ、争勝ヲ、人性ノ天賦固有ノ本元中ニ、臚列スルヲ、肯セスシテ、次ノ根據ヲ取レリ、其墨守セル意ハ、以謂ヘラク、本能ヨリ以上、凡テ人性ノ能動本元ハ、獨知ノ管轄裁決ノ下ニ、服屬スル者ニテ、獨知ハ、他ノ各自ノ者ニ、超越セル一能力ナリト、其假定セル所ニテハ、好勝ノ欲ハ、決シテ、此服屬ノ理法ト、並ヒ立ツ可テサル者ニテ、今若、之ヲ以テ、姑ラク人性ノ

此見解ノ正否ヲ論ス

理法トセハ何時、人己ヨリ勝レタル者ヲ、視ルト、之ヲ視レハ、必ス、此理法ニ因テ、直チニ、争競衝突ヲ、起スニ至リ、而テ若、己レカ周匝ノ者、悉ク己レヨリ、勝レタル者ナル時ハ、其人、正ニ是、永久戦争慘苦ノ情狀中ニ、在ルナリ、此ノ若クナレハ、カノ最上有體ヲモ、唯不靈ナル相競者ト、視ルヨリ外ノ、感動ナキニ、至ルヘシト、依テ以テ、斷シテ、以謂ヘラク、此ノ如キ結果ニ、至ルヘキ本元ハ、人性ノ資質中ニ、本ツクト、謂フ可ラスト、是ヲ以テ、阿氏ハ、好勝ノ欲ヲ、傲習ノ本元中ニ、位シタリ

此論辯ハ、其力ノ有ル所ヲ、視ルコト、甚タ難シ、好勝ノ欲ハ、其根元ハ、何タルニ拘ハラス、絶テ此ノ如キ結果ニ、至ルコト無シト、謂テ十分ナリ、是、人ヤノ品性躬行上ニ於テ、現實ニ、表著スルカ如ク、上權ニ服従スルコト、並立ス可テサルノ意無シ、又人ヲシテ、必ス、其等輩ト、恆ニ争撞セシムルコトモ無ク、又最上有體ヲ見テ、不靈ナル敵手ト、ナスコト無シ、吾徒ハ、唯

人性ニ、現實ニ、表見セル事實現象ニ據テ論スヘキニ、上條ノ見解ト、相通セル事實ハ、一モ見ルコト無シ、又、此事例ノ性質ニ於テ、何故ニ、論題ナル欲ハ、此ノ如キ結果ニ至ルヘシヤ、又必ス、至ルヘシト、假定スヘキノ道理ヲ、少シモ、視得ルコト能ハス、好勝ノ欲ハ、必ス宇宙間ノ萬人萬物ニ勝ルノ欲ヲ、含メリト、謂フ可ラスシテ、此欲ニモ、亦自然本然ノ界限アリ、是余カ事實ナリト、視ル所ナリ

此本元ノ
現實ノ界
限ヲ論ス

吾人、尋常階級ニテモ、幸福ニテモ、遜カニ、上ナル人ニ對シテ、爭勝スル者ニ、非スシテ、我カ等輩同朋中ニ於テス、故ニ、我カ敵手ハ、我ト同シ圈内ニ、往來スル者ニ、在ルコト多シ、是ヲ以テ、畫工ハ、其同門ノ畫工ト爭ヒ、學生ハ、其同學ノ學生ト爭フ、而テ其事タル、殊ニ屢、有得ルカ如ク、カノ忌嫉惡意ノ、此欲ト、混雜スル時サヘモ、其忌嫉ノ目的ハ、猶差別ナク、我ニ勝レタル人ニハ、悉ク關スルニ、非スシテ、唯我カ前ノ同類中ノ、特別ナル敵手ニ、

關スル耳、故ニ、學校ノ小童、曾テ依塞紐頓氏若クハ、有名ナル虎謀慕爾多ヲ、忌嫉セスシテ、同級ニテ、直チニ己レカ上ナル、豎兒ト爭勝スル耳、好勝ノ欲ハ、人心ノ他ノ諸欲ノ如ク、其事以テ、成功ニ至ルヘキト、蓋然ニ屬スル者トヲ、望願スル耳、故ニ、唯吾人ノ、爲シ得ル欲ハ、過失ニ陥リ易キ者ナレハ、理性、并ニ、神教ノ本元ニテ、細心ニ、控勒シテ、陸續懈ル可ラサルコトヲ、要スト云フハ、余カ如何ニモ、否ミ得サル所ナリ、蓋シ、其危殆ハ、吾人、我カ敵手相競者トシテ、視ル人ニ對シ、其前途ニ在ル、名譽ト褒賞トニ於テ、爭勝ノ欲アレハ、忌嫉惡意ノ情、其内ニ、混シ得ルニ、至ルニ在リ、實ニ、此二者ハ、屢、連結スルヲ以テ、省察敏捷ノ人ニ在テハ、其好勝ノ心ヲモ、殆ト克チ去リテ、其欲ヲモ、廢スルニ、至ルコトアリ、何トナレハ、是好意ト、懇情トヲ以テ、我ヨリ一層不幸一層天賦薄キ者ヨリ、殊ニ容易ニ、買ヒ求メ得ヘケレハナリ

此同一ナ
ル欲ノ他
ノ形状ヲ
論ス

所有ノ欲モ亦權勢ノ欲ノ變形トシテ視ルヲ得ヘシ、カノ權勢中ニ含ム
所ノ他人ノ上ニ立ツ響動ハ猶一定ノ度マテハ、身體ノ強力、膽勇、才智、巧
能、諸種ノ技藝、平素ノ丰采、又偶然ノ事ナルモ、清門名流等ノ勝レタルニ
因テ、之ヲ得ヘシト雖、他猶其他ニ、一層直接ニ、且普通ニ、之ニ達スヘキ一
路アリ、是恐ラシハ、尤モ捷徑ニ屬ス、即チ富厚ノ所有是ナリ、此世界ノ現
在ノ如ク、是凡百ノ事ヲ、開ク管鑰ニシテ、萬物ヲ管轄スル金鞭タリ、身體
ノ強力、才智、丰采、門地、且王位サヘモ、其強力ト、其命令トニ、關スルコト、頗
ル居多ナリ、之ヲ有スル人ハ、其事、少ク、權カノ所有ニ、係ハルタケニ於
テハ、他ノ富榮ノ資物ト、交易スルヲ得ヘシ、其人、未ダ曾テ、豪傑タルニ非
ス、學者タルニ非ス、良貴ノ家ニ、生レタルニ非ス、其人體ニ於テ、好美ナル
ニ非ス、風習ニ於テ、嫺雅ナルニ非ス、科學ニ擢テタルニ非ス、德行ニ篤キ
ニ非ス、又絶テ、軍旅ヲ率キルコト能ハス、王椅ニ坐スルコト能ハスシテ、

然モ、凡テ此等ノ缺乏ニ拘ハラヌ、剩サヘ、惡行アリテスラ、其富有盛ナル
時ハ、斯ニ權勢ヲ有ス、乃チ、無數ノ手アリテ、其命ニ應シテ、其巧能ヲ、課ス
ルニ供シ、無數ノ臂アリテ、其役ニ就テ、之カ爲ニ、運用勞動シテ、之ヲ達セ
ムト欲シ、無數ノ脚アリテ、其願使ニ應シ、彼此ニ趨走ス、而テ又、其人、未ダ
曾テ、見サリシ所ノ、大衆ノ巧能勞力ヲ、命スルヲ得、地球上、遼遠ナル地方
ニ在リ、他帶他風土ノ人、其指揮ニ趨向シ、迅速ナル船艦ハ、之カ爲ニ、海洋
ニ駛航シ、極北ノ毛皮、熱帶各種ノ材料、香味、印度ノ絹糸、東方ノ蜃珠、寶玉、
何ニテモ、高貴珍奇ニシテ、稀世ナル者、何ニテモ、人ノ奢侈誇耀ニ、供スヘ
キ者、皆其人ニ屬シ、其人ノ有トナル、此ノ如クナルヲ以テ、權勢ヲ欲スル
人ハ、其權勢ヲ得ルニ、首タル道路方略ノ、一タル者ヲ欲シ、而テ、其初メニ
於テハ、之ヲ目的トスルヨリモ、寧ロ器械トシテ、貴重セシ者、終ニ、其物自
己ヲ、貴重スルニ至ルハ、亦怪シムニ、足ラサルナリ

二重ノ目的ヲ論ス
○貪饒吝
嗇

余カ見ル所誤謬ナケレハ所有ノ欲ノ取ル形状二個アリ其一ハ獲ルコトノ單純ナル欲トシ唯一層多ク費サムト欲スルニ在リ其一ハ蓄積スルノ欲ニシテ既ニ獲タル堆中ニ猶加倍スルニ在リ是即チ既ニ獲タル物ヲ固シ保持シ并ニ一層多ク得ムト欲スルヨリ致ス者ナリ其一獲ルノ欲ハ費スノ欲ト並立ス可ラサル者ナレモ其實初頭ニ於テハ費ス欲ヨリ生スルナリ他ノ一ハ獲タル物ヲ増加スルノ欲ニテ又相通シテ之ヲ減セムコトヲ恐ル、フ危懼アリ此危懼若長シテ頗ル高度ニ旺スレハ其實蓄積セル寶庫ノ享用ヲ總テ杜絶スルニ至リ人性ヲ壞敗スルノ至著至醜ナル者トナルナリ貪饒ナル語ハ殆ト稍此欲ノ形状ノ中ニテ其一ニ當リ吝嗇ハ他ノ一ニ當レリ又斯ニ猶加フヘキハ此本元ノ初頭柔和ナル形状ヨリ他ノ一層惡ムヘキ現象ニ移ルハ自然ノ偏尙タリト見ユルニ在リ人初メニ其諸種ノ缺乏ニ飽足スルノ方略トシテ富ヲ欲

過度ナル貨幣ノ愛ハ全ク伴生ノ理法ニ係ハラサルヲ論ス

シ終ニハ之ヲ欲スル唯其富ニ在リテ遂ニ萬人中ノ至貧至慘ニ至ル者殊ニ稀ナラサルニ在リ豈憐ムヘキ守錢奴ナラスヤ
カノ守錢奴カ貨幣ニ於ケル過度ナル貴重ハ果シテ何處ヨリ生スルカ蓋シ貨幣ハ其實唯享用ノ代現タルニ過キスシテ正鵠ニ達スルノ弓矢タル耳此正鵠アルカ爲ニ其弓矢依テ以テ貴キヲ得ル者ナルニカノ守錢奴ハ其實ヲ保護スル爲ニ代現タル弓矢ノ最小部分ヲモ失フヲ厭フハ何ツヤ是伴生ノ理法ニ因テカノ金貨ニテ屢買ヒ得タル享用其心裏ニ一定ノ價直ヲ現スルヲ以テ竟ニ其價直ヲ併セテ其享用ヲ買ヒ得タル金貨ニ移スニ至リタルナラスヤ蓋シ稍此ノ如キ事例ナキニシモ非ルハ固ヨリ疑ヒナシ是以テ一部ニハ論題ナル現象ノ理由ヲ解スヘシ今余急需ナル一貨物ヲ買フ爲ニ箱裏ヨリ出ス片金ハ嘗テ正シク是タケノ額數ヲ有セシ爲ニ若干ノ利便ヲ獲タルコトヲ追想スルヨリ我カ

評價ニ、貴重ヲ増スニ至ルハ、固ヨリ有リ得ル所ナリ、然レ、何カ故ニ、此ノ如キ伴生ノ理法ノ、此守錢奴ニハ、他諸人ヨリモ、一層強ク發動スルカ、果シテ、此伴生ノ理法、吝嗇ノ眞ノ因由ニシテ、其解釋ヲ、ナスニ足ラハ、何故ニ、人皆守錢奴タラサルカ、加旃、カノ蕩子游客ノ若キハ、其代現タル器械ヲ以テ、依テ以テ、獲ヘキ享用ニ、交換シタルコト、一層屢ニシテ、其金銀ト、連絡シタル伴生ノ事實ハ、一層多ク、胸中ニ存セサルヲ、得サルニ、何ヲ以テ、蕩子游客ハ、衆人中ノ、最大吝嗇人タラサルカ

其眞ノ解
釋ヲ論ス

學士丕羅昂ハ、人ノ心性中、此部分ヲ論シテ、理由ヲ盡セリ、余謂フニ、其言正ニ以テ、此現象ノ、眞ノ解釋タルニ足レリト
蓋シ、其黃金、守錢奴ノ掌裏ニ、在ルニ方テヤ、是永久ノ所有タリト、思ヘリ、然ルニ、之ヲ費シタル時ハ、尋常經過的ノ物タルヲ以テ、用ユレハ、死亡スルナリ、而テ、此ノ如ク、消耗シタル時ハ、其人後ニ至リ、視テ以テ、巨大ノ損

失トシ、依テ悔恨ヲ生ス、是ヲ以テ、此ノ如キ費用ヲ、ナス毎ニ、悔恨ヲ生シテ、其寶藏ノ他ノ部分ヲ、出スコトニ就テ、厭惡ヲ增長スルナリ、且又、斯ニ他ノ景況ノ、此厭惡ノ感動ヲ、強クスルコトアリ、是其依テ以テ、買ヒ得タル享用ノ物ハ、唯一ツナルニ、其物ヲ買ヒシ金銀ハ、其享用ノ特別ナル形狀ノミヲ、代現スルノミナラス、他ノ數千ノ物ヲモ、代現シ得ルコト、猶同一ノ貨幣ニテ、前件ノ物ヲ、何レニテモ、買ヒ得ヘキカ如シ、然ルニ、一タヒ、之ヲ費セハ、凡テ、此ノ如キ利益ハ、舉リテ亡失ニ屬シ、再ヒ、得可ラサルヲ以テ、其亡失、殊ニ巨大ナリト、見ユルナリ、又之ニ加ヘテ、一ツノ景況アリ、是其守錢奴ハ、多分蓄積ヲナシ、且其蓄積ニ、心ヲ用ヒタル者ニテ、必ス、一定ノ全額ヲ有ス、言ハ、數千弗、數萬弗ノ如シ、此中ニテ、唯一弗ヲ費ス時ハ、其全額ヲ、缺損シ、依テ以テ、其樂ヲ減スルナリ、其人、若億萬ノ富家ナルモ、一タヒ、不幸ニシテ、消費スレハ、既ニ、億萬ノ富家タルヲ、得サルナリ、凡

此惡徳ノ醜ヲ論ス

ソ此等、其源由ナラストモ、少クモ、吝嗇ナル者ニ、首タル強力ヲ假シ、養料ヲ供スル者ニシテ、カノ一次、富有ヲ、殊ニ貴重スルノ味ヲ嘗メタル人ハ、必用ナル費用アル毎ニ、之ニ隨フ懊惱ノ感動ハ、大イニ、斯ニ存スルナリ。凡ソ、碌々タル人性ニ、属スル情欲惡行ニ於テ、恐ラクハ、鄙吝ヨリ、甚シキハ莫シ、是ヨリ、惡ムヘク、擯斥スヘキハ莫シ、是既ニ、救藥ス可ラサルノ、症候ニシテ、純然無雜ノ私欲タリ、凡ソ、他ノ惡行ノ若キハ、罪人ノ、現在ノ享樂、感覺ノ嬰足ニ、歸スルヲ以テ、猶少シク、訴フル所アルモ、守錢奴ニ至テハ、既ニ訴フルニ、辭ナクシテ、之ヲ訴ヘ、自ラ省ルコトヲ、肯セサルナリ、故ニ、守錢奴ノ貪ルヤ、樂マムトスルノ爲ニ、非スシテ、忍ヒテ、樂ヲ避ルニ在リ。

老年ニ於テ、至強ナルヲ論ス

學士丕羅昂曰ク、凡ソ、人心ヲ殘壞シテ、大ナル兇猛ヲ、極ムル激怒ノ情狀ヲ、觀察スレハ、猶思量シテ、心ヲ慰スヘキコトアリ、蓋シ激怒ハ、一時、猛烈

ヲ極ムル時、有レトモ、其生命、老齡ニ延ヒ得レハ、少クモ、畢生ノ全程ヲ通シテ、之ヲ逞ケスル者ニ、非ス、又其沸騰モ、時々間歇ナキヲ、得サルカ上ニ、血氣ノ漸次ニ、衰弱スルニ、從ヒ、亦從ヒテ、漸ク減少ス、又骸軀ノ強力、此情欲ニ、相通スル強力ヲ、假スト見ユルニ、方テハ、此心、休歇ヲ享ケ得サレトモ、其血氣ノ軟弱ヨリ、竟ニ休歇ヲ、取ルニ至ルナリ、然ルニ、吝嗇ニ至リテハ、年齡ニ因テ、之カ輕減ヲ見ムト、欲スルモ、亦得ヘカラス、是我カ生長ト、共ニ長シ、我カ壯力ト、共ニ壯ニシテ、又我カ老衰ト、共ニ愈、強クナル者ニテ、此欲ノ提醒持重スルハ、掛慮ニ於テ、少シモ間斷アルナク、年々、其把柄ヲ、緩クスルニ、非スシテ、却テ此靈魂ニ、被ムル骸軀ノ、漸次ニ糜爛耗消スルニ隨ヒテ、其靈魂ヲ、縛結スルハ、一層緊ナリト見ユ、云々、而テ、其心意ハ、疲羸シテ、既ニ萬事ニ、勞スルコト能ハサレトモ、黃白ヲ貪ルニハ、疲羸セス、其記性ハ、他ノ萬事ヲ、忘ルレトモ、猶之ヲ記スルニ、堪エ、猶西瑟魯ノ問答篇ニ、可

偷カ言ヒシ如ク、黄金ハ、何處ニ藏ムル也、之ヲ追記スヘシト、其眼ハ、既ニ、他ノ萬物ヲ視ルニ、昏花ヲ着クルモ、黄白ニハ、昏瞶ナラス、其手ハ、既ニ、之ヲ伸ヘテ、近傍ノ物ヲ把ルニ、努力ヲ要スト、見ユレ也、其新タニ黄白ニ觸ル、コ及ヒテハ、握把ノカモ、新ニ増スト見ユ、縱ヒ、稍遲キモ、猶之ヲ揚ケ、之ヲ數フルニ、餘力アリテ、平常ノ壽命ヨリモ、遼カニ久シク、多年ノ間、之ヲ出納數算スルハ、其手ニ在テ、首トシテ、幸福ナル職業ナリト見ユ、然ルニ、其親戚、若シハ、他ノ讓與ヲ受ル者、其臥牀ノ傍ニ集リ、以テ其病ヲ慰藉スルニ、非ス、又依テ以テ、自ラ慰安スルニ、モ非ス、唯法式ニ倣ヒ、侍坐シテ以テ、カノ瞬間ノ、近ツクヲ待チ、之ヲ悲ムニ、非ス、却テ、之ヲ喜フニ、至ル、然ルニ、其死セル眼ハ、猶忌嫉ノ眼光ヲ以テ、カノ金櫃ヲ目送ス、此時ニ方リ、金櫃ノ傍ニ、多數ノ人影集レ、既ニ之ヲ見ルコト、能ハスト、雖也、之ヲ見ハ、將ニ震死スルニ、至ラムトス、而テ、其親戚ハ、既ニ其誰タルヲ、記スルコト

天然ノ一本元タルヲ論ス

各種ノ動物ニ此表象アルヲ論ス

第五章 結交ノ欲

トナキモ、其影象ヲ、暗黯裏ニ、辨スルニ、及ヒ、忌嫉苦楚ノ感動、猶發生固結スル者、是即チ、其畢生中、最後ノ慘狀、最後ノ意識ナリトス

結交ノ欲ハ、人性固有ノ本元タルコト、一モ疑ヒヲ容レズ、是此生ノ夙歲ニ在リ、既ニ著ハレ、又生存ノ道、凡百各種ノ中ニ、顯ル、者ナリ、其普通ノ表象ト、且此事ニ於テ、教育摸倣ノ觀念ヲ、假ラサル景況中ノ、表象トハ、其心性中ニ、坐ヲ占メタル、天賦ノ本元タルコトヲ、證スルナリ

稚兒ハ、其等輩ノ伴游ヲ喜ヒ、下等ノ動物ハ、各自ノ同類ニ、同シ喜悅ヲ表ハシ、其種類ヨリ離ル、時ハ、不幸ナリ、狗ノ殊ニ、其主ヲ愛慕スルモ、同一ノ源ニ、屬スルコト、疑フヘキニ、非ス、服役ノ獸類ハ、其主ノ來ルヲ見テ、喜欣活潑ニナリ、忍性ナル牛モ、田間若シハ、途次ニ於テ、疲ル、時、其主ノ聲ヲ聞キ、其傍ニ來ル歩音ヲ聽ケハ、一層甘心シテ、行動ス、又馬ノ道ヲ行ク

ニ其同類ノ服役等輩アレハ、偶然ノ伴行ト雖モ甚タ喜躍スルハ、皆人ノ知ル所ナリ、其馬途ニ就キ、若クハ厩ニ在テ、常ニ他ノ同類ト共ニスルニ、習レタル時ハ、若離レテ、獨居獨行スレハ、甚タ不快ニシテ、失意ヲ表スルコト、屢ナリ、カノ獸類ノ性習ヲ能知ル者、牧牛、唯獨リナル時ハ、其牧、殊ニ好シト雖モ、群ニ於テ、喂スル時ノ如ク、能肥大ナラスト、是其視察シタル所ナリ

動物ノ社會編制ヲ論ス

是ヲ以テ、吾人、動物ノ中、多クハ、其天然ノ本能ニ任セタリモ、其動物ノ性習ニ從ヒ、或ハ大ナル、或ハ小ナル、群ニ分レ、族ニ分レテ、相群生スルヲ視ル、是皆小ナレモ、其通衆ヲ有シ、其首長ヲ有シ、且一定ノ度マテハ、其法度ヲ有シ、通衆舉リテ、之ヲ認可シ、之ニ服從シ、又立定ノ風習アリ、動作ノ様法アルナリ、其此ノ如ク、規定シタル、伴群ニ在テハ、カノ吾人、同一性質ノ政治伴群ニ於テ、國ト名クル所ノ、本體上ノ形狀ヲ知ルニ非レハ、成ス可

社會ノ狀ハ、其利益タルニ因テ、之ヲ取ル者ニ非ルヲ論ス

ラサルノ事タリ、カノ蜂ノ若キ、蟻ノ若キ、海狸ノ若キ、其小通衆ヲナス者ハ、虫獸ノ族類ニ於テ、彼カ如ク、許多ナル、繁務勤作ノ、諸都會、諸邦國ニ非スシテ、何ツヤ
人或ハ、謂ヘラク、人ハ、社會ノ狀ヨリシテ、利益ヲ得、此道理ニ本ツキ、之ヲ採用スルナリト、ソレ人固ヨリ、依テ以テ、利益ヲ得ルハ、疑フ可ラス、然モ、人ノ之ヲ欲スルハ、果シテ、是カ爲カ、結交ノ欲ハ、利益ニ繼テ來ルカ、其利益ハ、結交ヨリシテ生スル、未タ見サル、經驗セサル者ナラスヤ、ハタ其利益ハ、論題ナル欲ニ本ツキ、此狀ヲ採用シタルヨリ、生スルカ、是果シテ、政略ニ出テ、必須ニ基非シ、便利ト計算トニ、由ルノ事カ、ハタ固有ノ本能ニテ、天賦ノ性欲ヨリ、發スル者カ、カノ下等ナル動物ノ若キハ、斯ニ於テ、果シテ何如、是天ノ以テ、生類將來ノ急需ヲ觀テ、之カ爲ニ、其性中ニ、賦與シタル者ニ、非ル無キヲ得ムヤ、又是、各自ニ、社會ヲ立ル爲ニ、此欲ヲ、性中ニ

此本元無
キハ人性
ノ缺タル
ヲ論ス

賦與シ、其族類ヲ聚メ、其通衆ヲ會スル爲ニ、其基礎ヲ居エタルニ、非ル莫
キヲ得ムヤ、此同一ノ理、人ニ於ケル、亦然リト、假定スルハ、豈道理ナリト、
謂フ可ラサルカ、ソレ萬類ノ相似タル、此本元ノ教育經驗ニ、先チテ、夙
歳ニ表見セルト、其運用ノ普通、且一致ナルト、又カノ極北ノ夷種ニ、於ケ
ルカ若ク、若クハ、深山沙漠中ノ、許多粗野未開ノ種族ニ、於ケルカ若ク、其
利益タル、社會ノ狀勢ヨリ、發スルハ、甚タ少渺ナリト、雖此ノ如キ、遇境
ニ在ルモ、猶屢、其力ヲ極メテ、表見スル所ノ事實ト、凡テ此等ノ景況ハ、結
交ノ欲、人性ニ基シテ、單ニ計算政畧ノ事ヲササルヲ、證スルニ足レリ
而テ、是正ニ以テ、カノ一種ノ考定ニ答フルニ足ルナリ、乃チ其考定ハ、霍
畢寺ヲ祖トシ、人間社會ノ情狀ヲ、見テ以テ、人各、自己ノ利益タルヲ、覺ユ
ルノ結果ナリトシ、利ヲ以テ、裁度必須ノ誥命トスル徒ノ說ナリ、社會ハ
其利益ノ爲マリト、云フ事實ハ、言下ニ、既ニ、其預備ノ、之カ爲ニ、人性中ニ、

此本元ノ
強キヲ論
ス

設ケラレタルヲ、期スヘキコトニ、歸スルニテ、是正サシク、吾徒ノ然ルハ
シト、思フ所ナリ、若之ヲシテ、然ラサシメハ、吾人、此一切要事件ニ於テ
人性ハ、禽獸ノ性ニモ劣リテ、短處アリト思フヘシ、然ルニ、其眞理ハ、人間
ノ全史乘ハ、霍畢寺ノ考定ニ、十分切實ナル、反言對ヲ、表ハスニ在テ、指斥
ノ明證ヲ以テ、人間ノ天然情狀ハ、其等輩ヨリ、屏絶索居スル者ニ非スシ
テ、社會伴友ニ在ルヲ、證スルナリ
蓋シ、此本元ノ、人性ニ根サス、其深ク且ツ強キコト、殊ニ甚シク、人若、永時
ノ間、其等輩ノ社會ヨリ、屏絶セラレタル時ハ、其人、禽獸、加旃、虫屬ト相親
ミ、相伴フコトヲ、求ムルニ至リ、其動物ハ、平昔ニ在テ、著シク厭惡スル者
ナレト、極メテ幽寂ニテ、眞ノ獨居ニ於テハ、之ヲ以テ、心ヲ慰スルコト、有
ルヲヤ、士低瓦的氏、佛朗西ノ一貴人、路易十四世ノ時ニ、數年間、兵衣鹵拉
ノ城内ニ、幽囚セラレタル例ヲ、援ケリ、其人、其寂寥中ニ在リテ、蜘蛛ノ運

士拉委

動ヲ視テ、自ラ樂ミトナセシカ、久ウシテ、甚タ之ヲ愛シ、獄吏、其之ヲ樂ム
 ヲ知テ、蜘蛛ヲ殺スニ及ヒ、惆悵悲憤スルニ至リキト、又、士拉委阿彼爾理
 可モ、其幽閉ニ在テ、同僚ナル慰樂ヲナセリ、又、伯爵多連知ハ、其久シキ幽
 囚ノ不幸ヲ、慰スルコトヲ求メ、鼠ト相親ミテ、友愛ヲ加ヘシカハ、其鼠ハ、
 之カ爲ニ、多連知ニ、深ク愛慕ヲ表シ、其周圍ニ遊行シ、其手ヨリ、餌ヲ取ル
 ニ至レリ、一日、此事、其官吏ニ、探知セラル、ニ及ヒ、鼠ヲ、其哨室ニ移シケ
 ルニ、其鼠、再ヒ、囚室ノ戸前ニ通シ、往視ノ時、戸ノ開クニ方リ、囚室ニ走過
 シテ、舊主ヲ視、大イニ、愉悅ノ狀ヲ、表ハシケリ、後、又、之ヲ移シテ、籠ニ入レ
 ケレハ、其鼠、憂悶シテ、餌ヲモ食ハス、數日ニシテ、死セリ、後、多連知、人ニ語
 リテ、曰ク、此小友ヲ失ヒシヨリ、數旬、我ヲシテ、全ク、悲惨ニ、堪エサラシメ
 タリト
 カノ士拉委阿彼爾理可、獄中ニ在テ、他囚ト、説話スルコトヲ、禁セラレタ

阿彼爾
理可ノ事
例ヲ舉ク

ル時、曰ヘラク、余又、此ノ如キ事ヲ爲サス、余ハ、我カ息スル間ハ、必ス談話
 シ、我カ囚伴ヲ請シテ、談話セシムヘシ、若隣囚、之ヲ聽サ、レハ、余ハ、我カ
 憲格ニ談話シ、余カ前ノ丘陵ニ談話シ、其丘ヲ周匝スル鳥ニ、談話シ、余ハ、
 必ス談話スヘシト、此語ヲ見レハ、結交ノ欲、其強キ何如ヲ、知ルニ足レリ、
 凡テ此等ノ事實ハ、結交ノ欲、本來人性ニ、賦與セラレタルコトヲ、明カニ、
 指證スルナリ

囚獄罰則
ノ史ヲ援
テ例ス

上ト同一ナル事、其他、囚獄中ノ罰則史中ニ、見ユルカ如ク、凡テ社會ヨリ、
 全ク屏絶セラレタル、效驗ニ據テ、明確ナリ、次條ノ事實、并ニ前條ノ一ハ、
 皆余、阿巴威氏ノ叙スル所ニ據ル者ナリ
 紐育ノ立法官、數年前、試驗ノ爲ニトテ、歐鋪論邑ノ、公獄ナル、極メテ頑硬
 ナル罪囚、若干人ヲ、獨住房ニ入レ、役ニ勞スルコト無ク、其幽寂ヲシテ、間
 斷無カラシメヨト、令セリ、其效驗ヲ、慕孟的并ニ、托委拉兩氏ノ、叙セルコ

ト、左ノ如シ、此兩氏ハ、相繼イテ、佛朗西政府ヨリ、派遣セシ理事官ニテ、亞米利加ノ獄中罰則ノ方法ヲ、査閲シテ、報告スル爲ニ、來リシ人ナリ、其報告ニ曰ク、此試験ハ、預メ、其效ヲ、期シタル事ナリシニ、多分ノ罪犯ノ爲ニ、却テ厄害トナレリ、此罪徒ヲシテ、改化セシムル爲ニトテ、純然タル索居ニ、置キタル者ナリシカ、此寂寥ノ極ハ、絶テ間斷ナキ時ハ、人ノ忍力ノ堪ユル能ハサル所ニシテ、依テ以テ、其罪囚ヲ、疲困スルコト、間斷ナク、又少シモ、假借ナシ、是之ヲ、改化セシムルニ、非スシテ、之ヲ殺スナリ、不幸ニシテ、此試験ニ、羅リシ、諸人ハ、喪心ノ姿ニ至リ、其看囚、之ヲ視テ、驚愕スルノ甚シキニ至リ、其生命、危殆ニ濱シ、既ニ此ノ如クシテ、置ク可ラスト見エ、其内、五人ハ、既ニ、一年ノ内ニ、廢極ニ至リ、其心情、擾亂スル、僅少ナラス、其一人ハ、癡狂ヲ發シ、其餘一人ハ、失意ノ怒ニ堪エス、看囚ノ物ヲ齎ラセシ時ヲ、機會トシ、其房ヨリ、強暴ニ、逃出セムトシ、殆ト死ヲ犯シテ、危キヲ願

ミサルニ至レリ、此事アリ、并ニ、他ニ、同一ノ效驗アリテ、此方法ハ、竟ニ、廢止ニ至レリト、是ト同一ナル效驗、實ニ、他ノ囚獄ニテ、同一ノ試験ヨリ、顯ハレタリ、利伯爾氏ノ叙セル所ニテハ、ニユーゼルシ新熱爾西ノ改化院ニテハ、獨棲幽囚ニテ、死ニ至リタル者、十人ニ及ヘリト、凡テ此等ノ事實ハ、結交ノ欲ノ、人性ニ根サス、其深キコト如何ナルト、我カ等輩ト、相伴フハ、吾人、幸福ノ本體コト、少ク可ラサルコトノ如何ナルカヲ、證スルニ足レリ

第六章 貴重ヲ受ル欲

人性ノ、能動諸本元ノ中、人ノ躬行上ニ於テ、一層切要ナル、響動ヲ起シ、實ニ、一層細心ノ論述ヲ、要スル者ハ、吾人、他人ニ、稱譽セラレテ、受ル所ノ貴重ヨリ、大ナルハ、莫シ、是亦、夙歲ニ於テ、表現スルト、并ニ、又其、陳フル所ノ、強力トニ依テ、此心ノ、資性中ニ、基キシタル、固有ノ、本元タルヲ、指證シテ、其、明亮ヲ、極メタリ

是切要固
有ノ一本
元タルヲ
論ス

學ヒ得タ
ル氣習ナ
ラサルヲ
論ス

吾人幼稚ノ兒ヲ見ルニ其伴侶ヨリ善良ナリト言ハルレハ之カ爲ニ貴
重ヲ覺ユ其周匝ノ者ヨリ譴責ヲ受クレハ痛楚シテ畏縮スルコト著シ
ク人ノ稱譽ヲ受クレハ乃チ悅樂ス而テ其壯年ニ及ヒ既ニ兒童ナラサ
ル者ニ於テハ其快樂利益ヲ推讓スルヲ好ミ其事物ノ如何タルヲ論セ
ス其度量ハ殆ト盡ルモ顧ミサルコトアリ加旗カノ人間ノ聲價ニ於テ
名譽ノ地ヲ執守シ清潔ナル面目稱評ヲ保持セムトスルニ臨ミテハ其
生命タモ捐テ顧ミサルコトアリ而テ此等ノ事ハ吾人常ニ視ル所ナ
リソレ其表現夙歲ニ在ルコト此ノ如ク其一致ナルコト此ノ如ク又其
強力ヲ以テ發出スルコト此ノ如キ者ニシテ唯學ヒ得タル本元タリ伴
生ノ效驗タリ徒ラニ利益ノ計較ヨリ又私利ノ計慮ヨリ發スル者ナリ
ト言フハ余カ信セサル所ニシテ多般ノ事例ニ於テ吾人其必ス然ルニ
非ルヲ知ルナリ是必ス先慮ノ命令ニモ非ス又利益ノ計較ニモ非ス何

トナレハ兩者ハ未タ曾テ稚兒ノ心ヲ動カス者ニ非レハナリ是又此ノ
如キ熟慮ノ力ニテ能ク壯年ノ人ヲシテ名譽面目ノ爲ニ便易ヲ離レ福祿
ヲ捐テ加旗生命ヲモ捨テシムルニ非ス加旗其言論ヲナス人或ハ稱可
シ或ハ譴責シテ我カ躬行ヲ或ハ良シトシ或ハ惡シトスルモ畢竟我カ
身ニ取リテ利モナク害モナキ事ニテモ其稱可ハ猶欲スル所ニシテ其
譴責ハ猶恐ル所ナリ吾人ハ評論ノ輕蔑ヲ受ルヨリハ縱ヒ脆弱ノ徒
若クハ醜惡ノ輩ヨリニテモ評論ノ嘉稱ヲ好ム者ナリ吾人世ノ怨恨ヲ
被ムリ依テ以テ我ノ本分ヲ盡スニ足ル事ニ遭フ時ニ當リ其怨恨ハ固
ヨリ不正ニシテ至當ナラスト思ヒ且我カ志念ノ正シキト努力ノ正シ
キトハ凡百外人ノ論壓ヲ堪ユルニ足レリト思フ時スラ猶其不正不當
ノ譏刺ヲ受ケテ自ラ痛楚セサルハ成ス可ラサルノ事タリ此ノ如キ時
ハ吾人他人ノ信ト敬トヲ失フヲ以テ殊ニ大イナル損害ヲ受ケタリト

思フナリ

窮苦貧窶ハ、人ヲ驅テ、絶望無畏ノ流ニ沈マシムルコトアリ然レ、此ノ如キ窮苦絶望ニ至ルレ、凡百慘苦ノ中ニテモ、其等輩ノ評判ノ善キト、待遇ノ恭ナルトヲ善セサル者ハ、蓋シ之有ラサルナリ

是私欲ニ
テモ伴生
ニテモ之
ヲ解釋ス
可ラサル
ヲ論ス

虎談ノ考
定ヲ論ス

是ヲ以テ、此貴重ヲ欲スルノ強キ欲ハ、私欲ニテ計慮ニ出ル本元ニ非ス、是又或人引證セル如ク、伴生ノ理法ニ由ル者ニ非ス、何トナレハ、此欲、自己ノ私利ノ爲ニスル私欲ノ目的ノ發用スヘシト、假定ス可ラサル境遇中ニ發見シ、又伴生ノ理法ニテハ、解釋ス可ラサル勢力ヲ有スレハナリ、此本元ニ就テ、虎談ノ説ハ、能其解ヲ得タリト謂フ可ラス、其説蓋シ以謂ヘラク、他人ノ好評判ハ、我カ自己ノ評判ノ善ナルヲ確定スルヲ以テ、之カ爲ニ欲スヘキナリト、ソレ多クノ事例ニ於テ、蓋其十ノ九ハ、此ノ如キ、確定ヲ要スルコト、固ヨリ須要ナルハ、疑ヒナシ、且又余固ヨリ、他人ノ敬

此本元ノ
將來ノ事
ニ係ハル
時ヲ論ス

重ヲ受クルヨリ生スル快樂ニ於テハ、是亦、其元行ノ一タルコトヲ拒マサルヘシ、學士丕羅昂ハ、論題ナル本元ノ分解法中ニ、好評判ニ依テ、生スル快樂ノ劑料中ニ、是ヲモ、含メラレタルハ、甚タ正シキ事ナリ、然レ、其如何タルニ、拘ハラズ、是ヲ以テ、此欲ノ根元ヲモ、解釋ス可ラス、又此欲ノ性質ヲモ、講解ス可ラスシテ、是其快樂ヲ生スル源由タルヨリモ、寧ロ、偶然ノ事情タルヘシ

蓋シ、貴重ノ欲ハ、各種目的ノ中ニテ、其將來ニ係ハル時ノ欲ヨリ、一層較著ナル者ハ、有ラサルヘシ、即チ、吾人、既ニ、現時ノ事ト、相關セサル時、身後ニ、美名ヲ遺スノ欲ナリ、今若吾人、此生活ノ驛路ヨリ、一次、最後ノ告別ヲナシタル時ハ、世論ノ善惡ハ、如何ナルモ、我ニ在テ、絶テ關係ナキ者ノ如ク見ユヘシ、此時ニ當テ、吾人ハ、皆最高ノ審理衙門ニ、上ルヲ以テ、世上百萬人ノ毀譽ノ斷案、各國民ノ稱譽、世界中ノ罪狀、我ニ離スル者モ、何ソ能

我カ寂黙ヲ破リ、我カ墓下ノ深睡ヲ擾ルコトヲ得ムヤ、カノ毀譽ノ聲ノ如キハ、正サニ迢々裏ニ消滅シ、遼遠ナル海岸ヲ拍ツ濤聲、反響シテ、漸クニ聞ク可ラサルカ如クナルヘシ

然ルニ、此時ニ當テハ、縦ヒ我カ名ニ伴フ稱譽ハ、愛慕ノ手ニテ、我カ墓上ニ置ケル花彩團ノ、枯レタル如ク、我ニ在テ、關係アル無シト雖、吾人猶名ヲ遺スコトヲ欲シ、縦ヒ拔群ナラサルモ、少シモ潔白ナル名ヲ要シ、加旃、我ヲ想フ者ノ、記念愛慕ノ中ニ存セムコトヲ欲スルナリ

然ラハ、則チ我カ身後ニ來ル人ノ、評判ノ善ト、貴重トヲ欲スルノ欲ハ、何物ニ關スルヤ、其評判ハ、善タルモ、惡タルモ、何如トモ、我カ幸福ヲ、動かスコト、能ハサルナリ、諸哲家、此事ヲ論スル、之ヲ忽略セル、誠ニ惜ムヘキナラスヤ、是貴重ノ欲ヲ源シテ、之ヲ私欲ニ歸セル諸家ニ於テ、殊ニ甚シトス、或人ハ、ララ俄拉羅斯頓ト并ニ、スミス士美梭ノ説ニ據テ、之ヲ想像力ノ妄見ニ歸シ、

是如何カ
解釋スヘ
キヲ論ス

他道ニ於
テ解釋ス
ヘキヲ論
ス

吾人依テ以テ、將來我ニ被ラシムルノ、面目ヲ視譽稱ヲ聽クト、想フト見ユト、此ノ如キ妄想、カノ此心ノ幻想ノ時、午睡ノ夢裏ニハ、生スルコト有ルヘシ、然、正精神健剛ノ人ニ在テ、恒ニ此ノ如キ妄想ノ爲ニ、響動セラレ、カノ理性ノ、方ニ其權ヲ執ルニ當リ、其妄想タルヲ、悟リ得ストハ、假定ス可ラサルノ事ナリ、是蓋シ、他ノ理由アルナリ

然ルニ、今、他人ノ好評ヲ欲スルノ欲ヲ以テ、人性固有ノ本元ト視、私欲ノ計慮ヨリ、發スルニ、非ストセハ、何ヲ以テ、同一ノ本元、延イテ將來ニ及フカヲ、説破スルコト、容易ナルヘシ、吾人、生存ノ中モ、此身ニ取テ、利益アルナキモ、我カ等輩ノ、貴重セムヲ欲シ、又既ニ、其中ニ、存スル無キモ、同シク、此ノ如キ利益ニ、關スルナクシテ、人ノ好評ヲ欲スルナリ

ララ俄拉羅斯頓カ云ヘル如ク、其後世ニ傳ヘ、稱譽セラレ、者ハ、唯名ニシテ、其人自己ニハ、非スト、此言、真ナリト、謂フヘシ、名ノ存スルヲ以テ、其

人ハ存セス名ノ世ニ識ラレタルヲ以テ其人ハ識ラレサルナリ是士低瓦的氏ノ援ケル告理ノ二句ノ如シ

軀ハ朽チ魂ハ消ヌル後ノ世ニ遺ルハ何ゾヤ名テフ一文字
該撰ノ動耀ク羅馬國四文字ノ假名ニ光リ遺シテ

然ルニ吾徒猶論シ得ヘキ事アリ身後ノ評判ニ拘ハラサルハ高貴睿明ノ心ノ相ニ非ス尋常人ノ意見加旃大賢至善ノ人ト雖也萬事ニ超エテ此意ノ爲ニ響動セラルコト反對ナル論辨ニ於ケルヨリモ一層大イナルヲヤ

且又美名ヲ遺物トシテ將來ニ傳フルコトハ良貴英傑ノ人ノ名譽心ニ在テ全ク輕重スルニ足ラサル事ニハ非ス士低瓦的氏ノ語ニ曰ク我等カ名ヲ編制スル文字ヲ偶然ニ結合スル時ニモ遠裔ノ敬重ト未タ生レサル後人ノ讚美トヲ遺スニ足ルハト蓋シ又其文字ヲ以テカノ幻技ノ

良貴ナル
心ニ輕重
ナシト謂
フ可ラサ
ルヲ論ス

貴重ノ欲
ハ躬行ニ
安全ナル
例規ニハ
非ルヲ論
ス

種類トシ其名ノ人耳ニ觸ル毎ニ賢善ノ愚惡ト相争フテ常ニ重乘スルノ意ヲ其心火ニ發燃セシムルハ尤モ道理ヲ知レル仁人ニ在テハ全キ輕重ナキ目的ト謂フ可ラサルナリ
然レ余絶テ此論述内ニ貴重ノ欲ヲ全ク躬行ノ安全適宜ナル例規トシテ著ハスニ非ス且依テ以テ之ヲ得ヘキ方略ト又成就スヘキ必用ナル目的トヲ撰ハス護リニ屢貴重ヲ求ムルノ根元ナキ名譽心ヲ助ケテ立證スルニハ非ス徒ラニ名ヲ好ムハ人ノ言行ヲ導ク本元ニ於テ絶テ至高ナル者ニ非ス又絶エテ良貴ナル又安全ナル者ニ非スシテ容易ニ過失ニ陥リ易ク其偏尙ハ駁スヘシトス人他人ノ評判ヲ目的トシ是ヨリ高キ本元ヲ有セサル者ハ恐ラシハ高大ナル事業ヲ成就スルニ堪ニス、是此浩大ノ第一元行ヲ缺キ品性志望ノ成立ヲ失フ其人ノ躬行モ其志操モ時ノ變化スル形勢ヲ繼キ種々ニ變スヘク且其人ハ殆ト必ス確實

強堅ナル品性ニ乏シカルヘシ是ヲ以テ賢知善良ノ人ハ時トシテ世論ト雖正其壓力ニ抗スルコト必要ナリ此時ニ當テハ其人ノヲ爲サハル可ラス且其平昔ノ諸本元ヲ捨テ其本分ト自己トニ對シ一次ニ偽證セサルヲ得ス而テ之ヲ爲スハ其力ヲ費スコト極メテ甚シク是真ノ強力ヲ要シ又同時ニ眞ノ強力ヲ費スナリ此ノ如キ強力絶テ他道ヲ以テ得可ラスカノ援助ノ力ヲ人ノ譽稱ニ假ルカ如キ心ハ其本體ヨリ脆弱ナリトス善哉西賽魯ノ言ニ曰ク實ニ余ニ於テハ世論ノ稱可ニ關スル無ク人ノ視察ニ依ル無クシテ作爲スルノ行事ニ至テハ凡百ノ中一層稱譽スルニ堪エタリ善行ニ於ケル眞ノ場地ハ獨知ニシテ之ヲ外ニシテ大ナル者アル無シト蓋シ人ノ稱譽ハ若我カ心ニ於テ誠ニ稱譽ニ足レリト思フニ非レハ絶エテ確實ナル幸福ヲ被ラシムル者ニ非ス而テ我カ心ニ於テ誠ニ之ヲ嘉セハ其嘉スル意識即チ足レルナリ

世論ニ拘
ハラサル
モ均シク
安全ナラ
サルヲ論
ス

此情ノ情
質ヲ論ス

然リト雖正他人ノ評判ハ躬行ノ慧敏安全ナル例規トシテ取ル可ラスト雖正又一方ニハ世論ニ全ク拘ハラサルハ理ニ達シタル心ノ標徴ニモ非ス又善行アル品性ノ證候ニモ非ルナリ太西多士曰ク名譽ヲ輕ンスルハ徳ヲ輕ンスルナリト是ヲ以テ一定ノ事故アリテ社會交友ノ中ニ於テ其品格占位ヲ失ヒ其等輩ノ好評判ヲ失ヒタル者ハ失望シテ忌憚ナキニ至リ得テ罪業ヲ犯シ易キヲ見ルナリ

第五篇 希望并ニ恐懼ヲ論ス

前篇ニ於テ論述シタリシ情ノ分解法中ニ希望并ニ恐懼ハ欲スル所又惡ム所ノ物必ス能現在スルニ至ルヘシトノ意ニテ欲ト厭惡トノ變形ナリトシテ之ヲ類別シタリ欲ハ必ス未來ニ在ル物ニ係ハリ愉悅スヘキ物ニ係ハル又其物タル固ヨリ存スルニ係ハリ又生出スヘキニ係ハ

リ、或ハ、生出スヘシト、思フニ係ハル、此未來ノ愉悅スヘキ物ニ、蓋然ノ元
 行、即チ、殆ト達スヘキノ、觀念ヲ加ヘ、之ヲシテ、達シ得ヘキノ、物タラシム
 ル耳ナラス、衆テ、或ハ、達シ得ヘカラサルノ、物タラシムル時ハ、此ノ如ク
 ナレハ、前ニハ、縦ヒ、多少熱心ナリト、唯欲タリシ所ノ者、今乃チ、希望トナ
 ル、而テ、此希望ノ濃淡強弱ハ、其欲スル所ノ物ノ、多少欲スヘキト、之ヲ現
 出セシムルコトノ、多少難易アルニ、準スルナリ、又其恐懼ニ於ケルモ、此
 同一理ニ、外ナラスシテ、亦未來ニ於テ、多少容易ニ、會合シ易キ物ニテ、不
 愉ナリト、視タル物ヲ、觀察シテ、醒起セル情ナリ
 欲ト、厭惡トハ、必ス異ナル物體ニ、係ハル者ニ、非スシテ、唯交互ニ、表裏ヲ
 表ハス耳、故ニ、何ニテモ、善キ物ヲ、欲スレハ、必ス其中ニ、之ヲ失ハムコト
 ヲ、厭フ意ヲ含メリ、希望ト、恐懼トニ、於ケルモ、亦猶此ノ如ク、其物ヲ得ル
 ト、失フト、漸ク達スヘキニ、從ヒ、同一物ニ於テ、兩ツナカラ、提醒セラル、

此情ノ強
 弱一分ニ
 ハ、物ノ切
 要タルニ
 係ハルヲ
 論ス

者ナリ、故ニ、吾人、之ヲ得ムト、望ム者ハ、之ヲ失ハムト、恐レ、之ニ達ハムト、
 恐ル、者ハ、之ヲ避ケムト、望ムナリ
 然ルニ、孰レノ時例ニテモ、此情、強弱ノ度、即チ、此情ノ提醒セララル、難易
 此情ノ、此心ヲ、攪動スル強弱ト、活潑ト、淡薄トハ、凡テ、唯其物、我カ望ム如
 シ、有ルヘキト、我カ恐ル、如シ、無ルヘキトノ、蓋然ノ度ニ、ノミ、比例スル
 ニ、非スシテ、猶又其物體ノ、切要タル度ニ、稍比例スルナリ、故ニ、我カ幸福
 ニ、全ク少ク可ラサル物ノ、如キハ、格別ニ、切要ナラサル物ヨリモ、一層熱
 心ヲ以テ、之ヲ希望ス、是其切要少ナキ物ハ、蓋シ、甚タ容易ニ、得ラル可シ
 ト、雖、亦然リ、其物タル、一層切要ニシテ、欲スヘキヲ以テ、之ニ達スル見
 界、誠ニ、僅カナルモ、之ヲ失ハムコトヲ、曉ル道理、誠ニ、少キモ、一層容易ニ、
 我カ、希望ト、恐懼トヲ、提醒シ、カノ切要少ナキ事例ニテハ、其達スヘキト、
 曉ルヘキコト、甚タ、的切ナレト、其物ヨリハ、一層深ク、此心ヲ、衝動攪揮ス

ルナリ故ニ吾人甚タ欲スル物ハ之ヲ希望スルニ偏シ強ク厭フ者ハ容易ク之ヲ恐ルニ癖ス疾病ニ罹リタル者ニハ快復ヨリ外ニ欲スヘキ者ハ莫シ是ヲ以テ病人ノ外ニハ誰カ目ニモ快復ノ望無キ時ニ其病人ハ快復スヘキ望ヲ抱キ殆ト信シテ之ヲ待ツニ至ルナリ守錢虜ニハ其寶藏ヲ失フヨリ外恐ルヘキ者莫シ故ニ守錢虜ハ他ノ者ヲツレタケニ恐レサルナリ貧窶ハ彼ニ在テ困難ヲ生スヘキ者ノ中至大ノ者タリ故ニ貧窶ヲ以テ常ニ其恐レトナセリ然レ何ニテモ其實容易ニ生シ來ル者ニ非ス是唯此ノ如キ事例ニ於テ一方ニハ惡ノ危害ヲ怕レ一方ニハ善ノ利勝ヲ望ミ兩ツナカラ之ヲ張大ニスルハ此心ノ偏尙ナリ

學士丕羅昂曰ク今人旅行スルニ兩度トモ同シ車ニ乘リ服裝諸具ノ類凡ツ以テ外面ニ表見スル者亦皆同一ニシテ依テ以テ盜賊ヲ誘惑驚嚇スルニ足レリトス此ノ如クナレハ其實囊中ニ藏スル所ノ錢貨ノ賊奪

一旅客ノ事例ヲ舉テ比喻ス

不意ニ富ヲ得タル時ニ起ル

セラル可キ或ハ僅少タルモ或ハ之ヲ失ヘハ依テ以テ家ヲ舉テ窮厄ニ陥ル如キ巨額タルモ賊襲ヲ受クヘキ危害ニ於テハ均シク是一ナルヘキハ固ヨリ疑フヘキ無シ然ルニ其危害ノ蓋然ニ屬スルハ兩度トモ同一ナリト雖也襲撃ノ危懼ハ前後ニ於テ甚タ異ナルヘキコト亦疑ヒヲ容レサルナリ乃チ前時錢貨ヲ齎ラサハル時ニ於テハ人アリ其人ト共ニ同乗シテ晩暮ノ近ツクニ臨ミ甚タシク喫驚ヲ表シ戯レニ之ヲ畏怖セシムルモ其人唯談笑ヲテ顧ミサラムトス又後時巨額ヲ齎ラスノ時ニ當テハ其人自己ノ目狐疑シテ近接スル騎人アル毎ニ瞪視シテ之ニ注意シ其騎人無心ニシテ靜カニ車ニ沿ヒテ經過シタルヲ視ルニ及ヒ頗ル後ノ距離ニ至テ始メテ自ラ免レタルノ思ヒヲナスヘシ

人若格別ナル價直ノ物ヲ所有スルニ至ル時其物タル或ハ失フヘキ事ノ必ス生スヘキカ或ハ少シク其疑ヒアル時ハ想像力ニテ其實ヨリモ

張大ニシテ、千百ノ眞ナラサル危害ヲ咒化スルニ至ル偏癖ハ、蓋シ掛慮ヲ生スル一ニシテ、屢至極ノ焦慮ニ至リ、遽カニ富ヲ得タルヨリ、相伴ヒ來ルコト屢ナリ、今貧窶ナル一補靴師アリ、其靴模間ニ在テ業ニ服スルヤ、終日口吟シ朝ヨリ夕ニ至ルマテ、意氣欣々然トシテ、舒長セリ、然ルニ今一朝之ニ遺業ノ産ヲ與ヘハ、補靴師將ニ其靴模ヲ離レテ、同時ニ口吟ヲ廢セムトス、而テ後其人、既ニ己ニ褻日ノ如ク、意氣輕々欣々ノ人ニ非スシテ、其歩ヲ運スル、慎重其瞻視、思フカ如ク、疑フ如クシテ、漸ク意ヲ煩ハスコト多ク、以テ老スルニ至ル、斯ニ至リ、其人其貧窶タリシ時ノ如ク、其生活ニ於テ、幸福ナルコト能ハスシテ、貧窶ヲ怕ルコト、殊ニ甚シキニ至ル、其貧窶タリシニ方リテハ、此人固ヨリ、一モ怕ルヘキ者無クシテ、唯未來ニ向ヒ、望ム所一ナラサリシカ、今富メルニ當リテハ、既ニ其他ニ望ムヘキ者無ク、唯恐ル、所正ニ多キニ居ルナリ、何トナレハ、其未來ハ、其

景況ニ變動ヲ生スヘク、是固ヨリ得テ有リ易キ事ニシテ、其變動ハ、小ナル富ヨリ、大イナル富ニ至ルニ非スシテ、却テ、今ノ餘裕アルヨリ、前時ノ窮窶ニ變スヘキコト、全ク蓋然ニ屬スレハナリ
凡ソ希望ノ快樂ハ、其願フ所望ム所ノ物ヲ、實況ニ現在セシメテ、得ル快樂ニ超過スト云フハ、一般ニ眞理ナリト、見ルヘキコト、疑ヒ無シ、其想像力ハ、理想上ノ優秀ナルコトヲ以テ、其猶未來ニ在ル物ニ被ラシムレト、一旦之ヲ有シ、之ヲ享スルノ時、來ルニ臨ミテハ、其現實ノ物、全ク期望セシ所ニ答セサレハナリ、且ツレ、上ニ假定シタル、遽カニ資産ヲ獲タル事例ニ於ケルカ如ク、願ヒ得期シ得タル寶貨ト共ニ、カノ千百ノ注意ト、焦慮トヲ輸入ス、然ルニ是本預メ期シタル事ニ非スシテ、依テ以テ獲タル物ノ享樂ヲ、滅殺スル、大イナリ、此等凡テ百般ノ因由ヨリシテ、余謂フニ、富有ニテモ、他ノ物ニテ、福祿ノ爲ニ、此心ノ自然ニ欲スル者ニテモ、其實

此心ヲ響
動スルヲ
論ス

有スル所、至少ナル人ハ、其樂ヲ享クルコト、至大ナリト、且ソレ、是ニ由テ、之ヲ觀レハ、人間ノ一大種族ノ福祉ニ於テ、帝ノ慈仁ヨリ、此中ニ、美妙ナル預備アルコト、誰カ亦、之ヲ知り得サル者アラムヤ
人心ニ、希望ノ響動アルハ、普子ク、人ノ知ル所ニシテ、カノ諸種ノ響動中、至強至久ノ一ニシテ、吾人現在ノ有體ノ理法タリト認可セル者ナリ、蓋シ、希望ハ、此生時ニノミ、限ルニ非ス、地帶ト、邦國トニ、限ルニ非ス、世界ノ新舊ニ、限ルニ非ス、社會ノ景況ニ、限ルニ非ス、一人ノ福祿ニ、限ルニ非ス、是我カ有體ノ幼稚ニ於テモ、我カ齡ヒ長スル、盛時ニ於テモ、又齡ヒ進メル、第二ノ幼稚ニ於テモ、依テ以テ、我ヲ鼓舞スル者ナリ、希望ノ約シ得サル、福祿ハ、莫ク、希望ノ救藥ヲ示サ、ル禍惡ハ、莫ク、希望ノ避路ヲ教ヘサル、危難ハ、莫ク、希望ノ慰解セサル、憂愁ハ、莫シ、希望ハ、疲羸ニ、強力ヲ假シ、失意ニ、勇氣ヲ假シ、死亡ニ、生活ヲ假シ、寂寥ニ、歡喜ヲ假ス、希望ハ、苦難者

ヲ視テ、人巧ニテハ、既ニ如何ニ爲ル能ハサルノ時ニ、猶溫和ナル履聲ニテ、其牀邊ニ踟躕シ、又吾人、既ニ其告別ヲ哀ム所ノ墓石上ニ於テモ、其不死ヲ祝禱スル、萎垂セサル花綵團トナリテ、之ニ懸ルナリ
神乙女、振リ榮ヘ繖ヘス、羽衣ハ、見エヌ限ナシ、陸モ海路モ
此ノ如ク、希望ノ快樂ヲ、能名狀シ得シ同一ノ詩家カ、大ナル厄難ニ遭ヒ、理性ヲ喪ヒタル狂者ニ、此情ノ感動アルヲ、摸寫セル詩ニ

狂婦何事罵疾風
良人一去無音信
孤衾半夜眠不得
海鳥夢驚飛鳴去
噫狂婦夜々岸頭火
剗不歸兮剗不歸
吹去片帆杳靄中
謾使吾儂歎飛蓬
浪間空見月上東
汪洋無際水連空
添將柴薪待歸剗
惋恨滿胸淚交墮

猶有寸心消不得

獨對蒼溟終宵坐

是實ニ惻怛ナル遭厄ノ詩ニテ、人性中、此本元ノ強力アルヲ、比喻スル耳
ナラス、吾人、心性ノ資質ヲ造リタル仁慈ヲ解釋スルニ足リ、其婦、此世界
ノ禍害ノ爲ニ重ク壓セラレタルヲ以テ、其理性ハ、既ニ其王國ヲ逃出シ
テ、人心ノ王位ヲ、虛位ニ至ラシメタル時、唯希望ハ、猶逡巡シテ、此憐ムヘ
キ狂婦ヲ慰シ、靜カニ、其坐ヲカノ虛位ノ王椅上ニ占メタルヲ示スコト、
猶カノ空虛ナル墳塋ノ石門上ニ、光輝アル神使ノ坐ヲ占メタルカ如シ

首タル區
別ヲ論ス

此部ノ切
要并ニ難
事タルヲ
論ス

第三區 意ヲ論ス

發端總論

心意ノ勢力ニ就テ、余カ分解配賦ハ、之ヲ分チテ、三大類、即チ、智、情、意トナ
シタリ、此中、前ノ二者ハ、前々ノ諸篇ニ於テ、之ヲ講論シタレハ、斯ニハ、唯
第三ノ講究ニ、從事スルコトノミ、殘レリ
此部ハ、多般ノ目的ニ於テ、三區部中ノ、最切要ナル者ニテ、兼テ至難ノ部
タリ、是其至難タルハ、吾人、心裏ノ此勢力ニ就テ、如何ナル問題アリヤヲ
考ヘ、又此事ニ就テハ、其見解、多岐紛拏ナルコト、獨リ、哲家ノ中ニ、存ス
ルノミナラス、尋常諸人ノ中ニモ存シ、且世界中、古往來今、悉ク然ルヲ考

二
フレハ、始メテ著明ナルヘシ而テ、其切要タルハ、此能力ノ、心ノ他ノ勢力ト、相待ツ所ノ關係ト、且生平行實ニ、至切ニシテ、人タルノ木分ト、動モスレハ、直接親密ニ、連絡スル所以ニ、因テ、較著ナリトス、吾人、此體力ニテモ、或ハ、此心力ニテモ、之ヲ自己ニテ、管束セムト欲スレハ、即チ、此能力ニ依リ、又我カ天稟ノ靈智ノ能力ニ就テモ、又其靈智ノ作用ヨリ、直チニ發生伴出スル感性ニ就テモ、又此心君ノ命令ニ、服従スル形體ノ官具ニ就テモ、凡テ此數者ニ就テ、其作用ヲナシ、其措置ヲナシテ、我カ勢力ヲ伸ント欲スレハ、即チ此能力ニ依リ、又一方ニハ、天然ノ生活ナキ單純ナル器械カヨリ、此我ヲ區別シ、又一方ニハ、道理ニ關ハラサル肉體本能ノ、警突ナル衝動ヨリ、此我ヲ分別スル所ノ者モ、即チ此能力ニ依ル者ニテ、凡テ此等百般ノ事、其多少ニ拘ハラス、吾人、此意ト、呼フ能力ニ、依頼セサルコト莫シ、而テ上條ノ事、并ニ其他、百般ノ事例ニ於テ、哲學上ノ至高ナル問題

神理學ト
ノ關涉ヲ
論ス

人生行實上ノ、至要ナル問題トナリシハ、蓋シ是カ爲ナリ、是ヲ以テ、心理哲學ノ學範ニハ、意ノ論題必ス首重ナル位ヲ占メ、猶氣船ニハ、之ヲ進マシムル機關ナキヲ、得サルカ如ク、意ヲ論セスシテハ、其學範ハ、十全ナルヲ得スシテ、意ニ就テノ見解ハ、學範ニ、少ク可ラサル者ナリ
又意ノ學理ハ、神理學ノ首重ナル學理タルコト、猶性理學ニ、於ケルカ如シ、是亦、忽略ス、可ラサル事ニシテ、意ナル者ハ、人ノ品性ヲ鑄陶スル事ト、又生平ノ德行、奉神ノ本務ト、直チニ、實行上ノ關係ヲ有シ、因テ以テ、善惡賞罰ノ、分カル、者タルカ故ニ、斯ヨリシテ、人ノ本務ヲ論シ、其造物主ニ、對スル關係ヲ、論スル神理ノ科學ニ於テハ、本來、其圈界内ニ、在ルナリ、是神理ノ學範ニハ、必ス意ヲ論スル所以ニシテ、此能力ニ就テ、取レル見解ハ、實ニ、學範ノ本體トシ、性理學ニテ、是其學基タルカ如ク、神理學ニテモ、一層深ク、其學基ナリ

然性神理
學ノ學理
トシテ論
ス可ラサ
ルヲ論ス

是ヲ以テ
一層細心
ノ注意ヲ
要スルヲ
論ス

然ルニ、上條ノ旨趣ニ本ツキ、此事ハ、神理ノ學理ニテ、正サシク、性理ニ非
ストシテ、論ス可ラス、是本來、專ラ性理學ニ屬スル事ニテ、人心ノ理法勢
力ヲ論スル科學ノ中ニ、心裏凡百能力ノ中ニテ、此至要ナル能力ノ作用
ヲ論明解釋スル事ハ、屬ス可キナリ、故ニ、神理學ハ、意ノ現象ヲ、指示スル
時ニ遇フ毎ニ、性理學中ノ、下題ヲ假ラサルヲ得ス、是亦彝倫學ニ於テモ、
又神理ノ他ノ科學ニ於テモ、同シク然ル事ニテ、此諸學ニテ、人ノ德行上
ノ勢力、人意ノ發スル所ニ就テ、論ヲ立ル所ニ於テハ、皆性理學ニ歸着セ
サルヲ得サルナリ、故ニ、此諸學ノ本疆内ニテハ、教ヲ授ルノ師ニ非スシ
テ、教ヲ受ルノ弟子タルノミ

此道理ヨリシテ、此學題ノ講究解釋ニ於テハ、一層ノ慎重ヲ盡スコト、緊
要ナリ、性理ノ中ニテ、此部ノ講究ヲ謬ル時ハ、其差謬タル、此科學ノ疆界
内ニ、止マラスシテ、他ノ是ト一類ナル諸學ニ、波及シ易ケレハナリ、故ニ

報知ヲ取
ルノ源ヲ
論ス

若差謬アル時ハ、因テ以テ、他ノ思惟上ノ廣野中ニ、至激ナル效驗ヲ、現ハ
スニ至ルヘシ

吾人、此學ノ此區分ニ於テ、報知ヲ取ルノ源モ、亦前ノ二區ニ、於ケルカ如
ク、其本體ヨリシテ、同一ニシテ、其源ニアリ、一ハ、我カ自己心中ニ、經過ス
ル意識トシ、一ハ、他人ニ關スル視察トス、故ニ、吾人、唯一ノ本務ハ、現實ノ
現象、即チ事實ヲ的認スルコトナリ、是ヲ以テ、意ハ、從來ヨリノ表章考定
ニ從ヒテ、如何ナル者ナルヘキヤ、又何如ナル可キニ屬スト、研究スルニ
非スシテ、唯其何如ナルヲ、研究スルノミ、是論辯上ノ致知ノ論證ニテ、學
フヘキニ非スシテ、唯專ラ、其現象ノ視察ニテ、知ルヘキナリ、故ニ、此現象
ヲ、一次的知シタル時ハ、依テ以テ、吾人ノ好ム所ニ從ヒ、是ヨリシテ引證
シ、是ヨリシテ斷言シ、又是ヨリシテ、論辯スルヲ得ヘク、而テ、吾人、據テ以
テ發進スル下題タニ、眞ニ其正ヲ得、此本據ヨリ論辯シテ、差誤ナキ時ハ、

依テ以テ
取ルヘキ
方法ヲ論
ス

我カ斷言モ亦正シカルヘキ耳

然レハ心ノ作用中此部ヲ論スルニハ即チ此事ニ屬スル一定不易ノ著
明ナル事實ヲ指目シテ唯之ヲ純然タル性理上ノ現象ト視人心ノ其資
稟ノ理法ニ準シテ自然ニ作用ニ發現スル様法ナリトスルコト我カ第
一本務タルヘシ此事ヲ的知スルニ及ヒテハ吾輩又意ニ就テ一層疑似
硬難ナル事ヲ講論スルニ至ルヘシ是從來世間ノ分爭シタル所ナレ
曾テ講究ノ貫セサル所定説ノ難キ所著明ナル曉悟ノ無キ所ナリ然
此處ニテハ性理上ノ事實ノ中第一位ヲ占ムル事タレハ争訟アルヲ要
セス又争訟アラサルヘシ

第一篇 意ノ情狀ヲ論ス

余意ト云フ語ニ於テハ此心ノ爲サムト欲スル所ノ事ヲ決定シテ依テ
以テ執ル所ノ意ヲ發出スル勢力ナリト曉解ス故ニ意ハ其事ヲ爲スノ

意ハ如何
ナル者ナ
リヤヲ論
ス

ス

勢カニテ意アリト云フハ此勢力ヲ布陳スル事トシ執意ト云フハ爲シ
タル事即チ行爲ナリ故ニ意トハ此心ノ施行力ノ一名ニテ吾人心ニ覺
エテ故サラニ爲シタル事ハ其事タル靈智ヨリ發シタルモ感動ヨリ發
シタルモ或ハ此兩者ヨリ發シタルモ皆是意ノ作用ナリトシ凡テ吾人
有意ノ運動ハカノ形體若クハ心裏ノ無意ノ運動ト差別シテ皆意ノ發
動ニ直チニ繼ク效驗ナリトス

意ノ無キ
一有體ノ
情狀ヲ論
ス

恐ラクハ吾人靈智ト感性トノ資稟アリト雖モ意ノ能力無キ一有體ヲ
理會シ得ヘシ然ルニ果シテ此ノ如キ有體アラハ縱ヒ靈智ノ所ニ於テ
ハ禽獸ニ遜カニ勝レタリモ行事ノ宜不宜ヲ論スルニ至リテハ却テ遜
カニ之ニ劣ルヘシ何トナレハ其人既ニカノ禽獸ノ有スルカ如ク己レ
ヲ導ク誤謬ナキ本能アリテ以テ理性ト靈智上ノ意トニ代フルコト無
ケレハ唯感覺ノ衝動ニ從ヒ其行事ヲ爲ス可レハナリ蓋シ人若何ニテ

意ハ心ト
別ツ可ラ
サルヲ論
ス

モ、事爲ニ因テ、其意ヲ執ルコト、大ニ衰弱シ、嗜欲ト欲情トニ管轄セラレ、
ニ、及ヒテハ、心ニ就テモ、其勢力ヲ、現實ニ管束スルヲ失シテ、殆ト此慘
苦ナル情狀ニ、近キニ至ラムトス

今此授業ヲ受ルニ就テハ、固ヨリ心ニ存スヘキコト有リ、此ノ如ク意ト、
他ノ能力トヲ區別スト雖モ、意ト云フハ、此心自己ニテ、欲スルコト、即チ、
欲スル勢力ヲ、有スル事ニテ、他ノ者ニ非ス、心ヨリ別ナル者ニ非ス、又小
刀ノ柄ト刃ト別部ナルカ如クモ、心ノ部分ニモ、非サルナリ、思惟スル勢
力ト、感動スル勢力ト、欲スル勢力トハ、皆別ナル勢力ナレモ、此心ハ、唯分
ツ可ラサル一體ニテ、但此勢力ノ中、今ハ此ヲ發シ、後ニ彼ヲ發スルノミ

第一章 意ノ作用中ニ含メル元本

此能力ノ性質ヲ、能ク曉解スル爲ニ、先ツ其能力ノ作用ヲ分解シ、以テ此
心ノ運用ノ現ハル、諸種個別ノ段落、即チ、元本ヲ、確定シテ、視ルヘク、然

提出セル
分解法ヲ
論ス

意ノ作用
ノ視察ヲ
論ス

ル後ニ、其諸種ノ元本ヲ、一々ニ舉ケテ、特別ニ講究セムト、欲スルナリ
然ラハ、則チ、意ノ作用ノ本體ニ、少ク可ラサル現象ハ、何如ト云フニ、先ツ
吾人、自己ニ、此類ノ作用ヲ發出スル時、其運用ヲ認取シテ、我カ爲ス所ハ、
何ナリヤ、此時例ニ、少ク可ラサル本體ノ下題ハ、何ナリヤト、之ヲ細カニ、
視察スヘシ、余今、吾カ机前ニ坐ス、而テ吾カ手ヲ伸ヘテ、一書ヲ把ル時ニ、
茲ニ既ニ、吾カ意ノ作用アリ、吾カ臂ハ、固ヨリ自己ニ動キ、自然ニ伸縮ス
ル者ニ非ス、是之ヲ伸フルハ、伸ヘムト命シタルニテ、靈魂ハ、内部ニ坐ヲ
占メテ、此形體ノ官具ヲ、活動セシメ、之ヲシテ、其意ニ服屬セシメ、而テ此
臂ヲ動カシタルナリ、然レハ、斯ニ意ノ作用アルコト、明カニテ、即チ、吾ヲ
シテ、其作用ヲ、視察ニ試ミシメタルナリ

然レハ、上ノ事例ニテ、最初ニ先ツ、爲ムト欲スル事アルコト、明カニシテ、
是即チ、成スヘキ目的、斯ニテハ、其書ヲ、把ラムトスル事ナリ、故ニ、其作用

第一元本
ヲ論ス

第二元本
ヲ論ス

此運用ニ
於テ其他
ノ進歩ヲ
論ス

ハ形體ニ就テモ、心ニ就テモ、兩ツナカラ、此目的ニ指向シタルニテ、此目的の無クシテ、執意ヲ發出スヘキニ非ス、且又、其成サムトスル目的ハ、此事例ニテ、固ヨリ能シ得ヘキノ事ニテ、其書ハ、手ノ達スル處ニ在リ、若クハ、達スヘシト、思ヒタルナリ、然ラサレハ、余ハ、之ヲ把ラムト、思立ツコト、莫カルヘシ

余又、此時、猶論題ナル事例中ニテ、其目的ニ、促カシ誘フ動機アルヲ視ル、是即チ、何故ニ、余其作用ヲ欲セシカト云フ理性ナリ、此時、其書ハ、何如ナリヤト見シ理性ハ、姑ラク之ヲ、新奇ヲ好ムニ、發ストセム、然ラハ、余ヲシテ、執意ニ發セシメムト、促カセシ者ハ、吾カ性中ノ、他ノ本元ナリトス、然レ、此動機ハ、自己ニテ、此作用ヲ生スルニ非ス、是唯、何故ニ、此作用ヲ生シタリヤト云フ理性タルノミ、故ニ、直チニ、作用ト相關セスシテ、此我ト相關シ、其直接ナル效驗ハ、我ノ上ニ終リテ、唯媒接ニテ、最後ノ作用ニ、波

及スル耳、然ラハ、此運用ニテ、次ノ進歩ハ、最後ノ作用中ニ、求ムヘキニ非スシテ、唯其動機ニテ、響動セラレタル我カ心ノ中ニ、求ムヘシトス、是即チ、其次歩ハ、我カ擇取ナリトス、故ニ、我カ臂ヲ動かサムト、余、我カ執意ヲ、發スルニ先タチテ、此處ニ、擇取、即チ、之ヲ爲スヘシトノ決斷アリシナリ、故ニ、其目的ヲ、動機ノ響動ニ因テ、成サムトスルヲ視レハ、即チ、余、吾カ主意ヲ、打定シタルニテ、尋常適當ノ語法ニテハ、行事ヲ做スト云フナリ、此瞬間ノ作用ニ、疑問アリ、是果シテ、余、其事ヲ爲スヤト、又、其反體ニテ、其事タル、固ヨリ爲シ得ヘキノ事ニシテ、之ヲ爲スノ機會、斯ニ起ル時ハ、之ヲ爲ス爲メノ動機、發セサルヲ得サルヲ以テ、其事ヲ爲スノ機ニ、至リシヤト、云フノ疑問アルコト、勿論ナリ、此疑問ハ、其反對タル道理ナキ時ハ、肯定スヘキナリ、然レ、又、此ノ如キ時ニ、省察スル暇マナク、其事、甚タ急遽ニ決シテ、後來、其時省察セシコト、心ニ存セサル如ク、全ク意識ノ外ナル時

此作用ノ
最後ノ一
段ヲ論ス

モ亦同シク肯定スルヲ得ヘシ然ルニ是又否定スルモ固ヨリ得ヘキ所
ニシテ上ト相反スル道理アリテ我カ心ニ現ハレ響動ト動機トニ相反
スル所アリテ是カ爲ニ猶豫シ思慮シテ決斷ス此決斷ト云フ者凡百景
況ニ就テ視テ即チ我カ擇取ニテ孰レニモ我カ先ニスル所ニ落ル者ナ
リ此運用ハ何レ事例ニ於テモ概シテ甚タ急速ニシテ注意ノ及ハサル
コト多シ然レ其後之ヲ省察スレハ此運用ノアリシコトヲ多少明亮ニ
睥出セラレサルハ莫キナリ

吾人此所ニテ我カ自己心裏ニ在テ此事ハ如何ナル方向ヲ取ルヘキヤ
ト云フヲ決斷スル點ニ至リタリ即チ上ニ譬ヘタル事例ニテハ机上ノ
書ヲ把ラムト決シタルナリ然ルニ斯ニテモ所謂執意ハ猶發陳セサル
カト云フニ既ニ己ニ執意ナラテハ別ニ其餘ニ殘ル者無ケレハ是即チ
執意ニテ此時一時ニ筋維ノ官具發動シテ苟モ斯ニ障礙ナクシテ且健

效驗ノ總
數ヲ論ス

康ニタニアレハ直チニ意ノ向フ所ニ踵クナリ此ノ如クナレハ其事ハ
成リタルニテ試験モ斯ニ畢ルナリ
余又此試験ヲ反覆シテ十度ニ至リ百度ニ及フモ必ス同一ノ效驗ノミ
ニテ余常ニ意ノ作用ノアル處ニハ必ス得ントスル一ノ目的アリ一ノ
動機アリ一ノ擇取アリ一ノ行下スル執意アルヲ視ルナリ是ニ因テ余
斷言ヲ立テ、此等皆凡百有意ノ作用ニ少ク可ラサル本體ノ現象ナリ
ト言フナリ

此中前ノ二ツノ者即チ成スヘキ目的ト動機トハ意ヲ混成スル元行ト
視ルヨリモ一層本來ニ言ハ、執意ニ離ル可ラサル帶情トシテ視ルヲ
得ヘシ然ルニ執意ハ少クモ此帶情ノ中其一ト親密ニ連絡スル者ニテ
即チ動機ノ事ハ特別ノ論ヲ要スルナリ而テ又執意ニテ成スヘキ目的
ニ至テハ其數許多ニシテ凡百人間ノ志尙ノ種々ニシテ不測ナルカ如

シ是ヲ以テ絶テ十全ナル枚舉ト、彙類トニ俱セサルコト、勿論ナリ、故ニ今ハ吾輩ノ爾後ノ注意ヲ、動機選擇施行上ノ執意ノ三元本ニ限定シ、之ヲ意ノ現象トシテ、各自ニ一層精微ノ講究ニ從事スヘシ

第二章 此元本ノ講究

是此心ヲ行爲ニ促ガス者ニテ、何故ニ此心ハ發作シ、又動機ノ發作スル如クニ發作スルヤト、云フ道理ナリ、吾人此ノ如キ挑起ナク、作用ヲナス道理無シニハ、曾テ動作スルコト、莫キ者ニテ、是少クモ、凡テ吾人ノ靈智アル、有意ノ作用ニハ、必ス存スル所ニテ、斯ニ論スル所ハ、唯是ノミ、然ルニ、其作用ヲ挑起スル者ハ、單一ナル現在ノ衝動ニテ、唯嗜欲、若クハ、欲情ナルコトアリ、加旗此等、即チ動機ニテ、吾人作用ノ源由トナルコトアリ、然モ、有意ノ作用アル勢力ヲ、具スル有體ニテハ、何故ニ之ヲ爲セシヤト云フ、何ニテモ、少シノ理性ナシニ、此勢力ヲ、發陳スト謂フハ、吾人曾テ理

此元本ノ第一ナル動機ハ必ス行爲中ニ含蓄スルヲ論ス
○第一動機

此語ノ用法ハ何如ナル意義ヲ論ス

動機ノ性

會シ能ハサル所ナリ、然ルニ、其理性ハ、其人自己ノ心ニテ、明カニ、領解スルコトモアリ、又領解セサルコトモアリ、是自ラ別ノ問題ナリ、然モ、明カニ我カ自己ノ心ニテ、其理性ナルヲ確認スルモ、セサルモ、吾人ノ爲ス事ニ於テハ、必ス道理アルナリ
嚴密ニ論スレハ、動機ト云フハ、此心ヲ、行爲ニ誘フ爲ニ係ハル、凡テノ響動ヲ、指スニ非スシテ、唯時ニ旺スル誘導ニシテ、此旺スル所ニ因テ、提出シタル行事ヲ、倣サムト、現實ニ我ヲ動カシ、誘フ者ナリ、此意味ニテハ、唯一ツノ動機アルニアラスシテ、諸種許多ノ誘導アリトス、是此語ノ本來ノ用法ナリ、然ルニ、尋常動機ト稱スル者ハ、其性、此心ヲ響動シテ、執意ヲ誘挑スル者ヲ指シ、一定ノ事例ニテ、其動機ノ效用アルト、無キトヲ論セサルナリ、然ルニ、余ハ、混淆ヲ避クル爲ニ、一般ノ用法ヲ取ルナリ
吾人ノ作用ノ由テ起ル、動機ノ性質ニ就テハ、明カニ、二種ノ動機アリテ、

遙カニ、別ナルモノナリ、其一ハ、欲トシ、而テ其一ハ、道德上ノ義務、即チ、本分ナリトス、是即チ、快樂ト、正義トニ關スル者ニテ、此二者、各行事ノ上ニ、盛ナル動機タルナリ、故ニ、吾人ハ、此二動機ノ響動中ニ在リテ、今ハ、欲ニ因テ行ヒ、次ニハ、本分ニ因テ行ヒ、斯ニハ、快樂ニ供スヘキ物ヲ、觀ルヨリ發シ、彼處ニハ、正義ニ合フ所ノ事ヲ、觀ルヨリ發ス、故ニ、吾人ヲ響動シテ、行事ニ發セシムル諸動機ハ、此盛ナル二元行ノ中、彼此ヲ以テ、解釋スルヲ得ヘシ

此元行ヲ區別シテ論ス

此兩元行ハ、全ク別種ナル者ニテ、曾テ、交互ニ、相混雜ス可ラス、又相合和ス可ラサル者ナリ、欲ハ、現時所有セサル、一定好美ノ物ヲ觀テ、其快樂ニ供スヘク、且求メテ、獲ラルヘキヲ知リテ、生發スル感動ナリ、是之ヲ期望スルニ在リテ、其根源、極メテ深ク、吾人ノ性ノ大本ニシテ、幸福ノ愛是ナリ、故ニ、其懇求スル所モ、斯ニ於テシ、又強力アルモ、斯ニ於テス、又本分ハ、

既ニ著ハシタルカ如ク、正義ノ觀念中ニ、眞個ニ含蓄セル、義務ノ意味ニシテ、上ノ者ヨリ、全ク別ナル本元トシ、其中ニ本ツク者ニ非ス、自己ノ愛、幸福ノ欲ヨリ、生スル者ニ非スシテ、却テ、人心ノ基礎タル、單純元始ノ觀念タレハ、事々ノ際ニ固有シテ、本體永存ノ性質アリ、故ニ、正義ヲ知覺スル時ハ、又是ト共ニ、義務ノ意味アリ

其發作必ス合一ナル者ニ非ルヲ論ス

此兩動機ハ、各、相異ナル方向ニ於テ、發動スルコトアリテ、抵牾スルコト屢ナリ、故ニ、欲ハ、我ヲ促カシ、一路ニ趨カシメ、本分ハ、他路ニ趨カシメテ、斯ニ爭訟ヲ生スルナリ、其欲ト本分ト孰レカ、旺スルト云フハ、全ク、其境遇ノ上、既ニ成形アル、我ノ品性ノ上、我カ意思感動ノ慣習ノ上、我カ自己ヲ管束スル強弱上、我カ獨知ニ省スル強弱上、我カ生質偏僻ノ強弱上ニ關スル者ニシテ、此諸狀ノ中ノ、喻ル所ニ從ヒテ、時ニ臨ミ、制スヘキ躬行上ニ、各種ノ方向ヲ取り、各種ノ品性ヲ定メ、各種ノ結果ヲ得ル者ナリ、故

本分ノ動機ハ利益ノ動機トシテ解釋ス可ラサルヲ論ス

ニ欲ノ旺スル時ハ我乃チ義務ノ意ニ反シテ行ヒ而テ後ニ悔恨ヲ生シ、慘苦ニ陥リ罪罰ヲ蒙リ又本分ノ動機旺スル時ハ我乃チ其結果何如ヲ論セス我カ正義ナリト信スル所ヲ行フ此時余ハ縱ヒ所有ヲ失ヒ健康ヲ害シ生命ヲ亡ヒ外部ノ美好ヲ喪フコト有リト雖モ心裏ニ好ミスル聲アリテ之ヲ保全シ凡テ其失フ所ヨリモ償フ所大ナリトス
蓋シ人ノ行爲ハ兩源アリテ二動機ヨリ發スルコトト此二動機ハ交互ニ別ナル者タルトハ是余カ肯定スル所ニシテ余謂フニ人能ク其獨知ノ啓迪スル所ヲ反省スル者アラハ又誰カ能之ヲ否定スルヲ得ムヤ
今若猶爭フ者アリテ以謂ヘラク此獨知ノ眞ニ嘉ニスル所ト此獨知ノ眞ニ平和ナル所ト正義ヲ行フヨリ獲ル幸福トハ上ノ事例ニ於テ皆是各、行爲ノ動機タリ果シテ然ラハカノ自愛幸福ノ欲ハ究竟は無二ノ動機ナリト余謂フ是眞ニ憑證ナキ臆說ナリト是獨知ノ反言スル所人間

欲ト本分トノ相合スル者ヲ論ス

欲ヲ行爲

歴世史乘ノ反言スル所ニシテ吾人ノ正義ヲ行フ其正義ノ爲ニ之ヲ行フ者ニシテ自己ノ好美ヲ保スルニ拘ハラサルコトアリ人各此ノ如キ差別ニ於テ固ヨリ獨知ヲ有スル所又之ヲ以テ躬行ノ動機トナス時ハ其強弱ノ何如ニ於テ亦獨知ヲ有スル所カノ有徳ノ人ニ至リテハ其制行ノ際ニ臨ミ少クモ此ノ如キ動機ヨリ行爲ニ發スルハ亦各其獨知ニ徴シテ知ル所ナリ
蓋シ欲ト本分ト相合スルヲ得ルノ時ニ至リ始メテ至高ナル幸福ニ達スルヲ得ル者ト謂フヘシ此時ニ方リテハ吾人既ニ欲スル所ナク又期スル所無シ何トナレハ吾人其眞ニ正義タラサル者ハ既ニ之ヲ快樂ナリト視ルコト無ケレハナリ此事未タ曾テ此生ニ於テ十全ニ達スルヲ得サル所ニシテ此中ニ所謂品性ノ圓滿ト圓滿世界ノ觀ヲ含メリ
欲ト義務ノ情トハ余既ニ之ヲ躬行ノ動機トシテ論シタリ此中ニテ欲

ノ動機ト
ナスニ就
テ其他ノ
區別ヲ論
ス

第二ノ元
本選擇モ
必ス執意
中ニ含蓄
スルヲ論

ス○第二
選擇

此位置ヲ
譬喩ニテ
論ス

ト云フ者又常ニ同一種ノ者ニ非ス蓋シ欲ハ固ヨリ自ラ單純ナル元行
ニテ、一源ヨリ發生スト雖モ欲ノ向フ所ハ同一物ニ非ス故ニ吾人今ハ
此物ヲ欲シ、次ニハ、彼物ヲ欲スルナリ、今欲ニ二種アリトス、是極メテ容
易ニ區別シ得ヘキ者ニテ、一ハ、形體ニ係ハリ、一ハ、心意ニ係ハリ、一ハ、形
體ノ需用ヲ欲シ、一ハ、性質ノ一層高キ物ヲ欲願スルナリ、故ニ、其一ハ、肉
體ノ飽足ヲ要シ、徒ニ肉體ノ本能偏癖欲情等トシ、其一ハ、一層高キ道理
上ノ自愛ニテ、理性ノ開導ニ依テ、眞實遠永ノ福祉ヲ求ムル者ナリ、此二
者、各盛ナル動機ニ供スル者ニテ、即チ、人ノ行爲ニ動機ノ種類ヲ分ツ、然
レ、兩ノ者、唯欲ノ形狀ヲ異ニスル者ノミ
是執意ニ、少ク可ラサル元本ニテ、其位、第二ニ在リ、今吾人、カノ純然タル
機性自然ノ舉動ヲ、外ニスル時ハ、事ヲ爲スニ、心ニ覺エ、故ラニ、執意アリ
テ、之ヲ爲スニ、非ル者ハ、莫キカ如ク、其執意ヲ陳スルニハ、先ツ選擇ヲ爲

ス、コト無シニハ、之ヲ陳スルコト能ハス、若爲シタル舉動、吾カ之ヲ爲サ
ムト、擇ヒタル者ニ非レハ、有意ノ舉動ニ非ス、吾カ選擇ハ、固ヨリ、外部ノ
諸因ニ依テ、響動セラレ、又之ニ因テ、控勒セラレ、其外部ノ境遇ハ、強井テ
吾ヲ制動シ、或ハ、眞ニ正義ニ、合フ行事ニテモ、或ハ、眞ニ欲スヘキ行事ニ
テモ、其一方ノ流道ニ、吾ヲ闕入シテ、吾カ爲スコトヲ、擇ハシムルナリ、而
テ、此等ノ境遇ノ、吾カ決定ニ響動スル者ハ、實ニ、吾カ管轄外ニ、在ルコト
屢ニテ、固ヨリ、吾ニ關セサルカ如シト雖モ、總テ之ヲ考究スレハ、其事ヲ、
此ノ如ク爲シテ、他ノ道ニ從ハサルハ、吾カ選擇ナリトシ、而テ、吾カ擇フ
所ニ從ヒテ、舉動スルノ自在タル間ハ、其舉動ハ、有意ナリトス
此事、一兵卒、其生國ノ都府ノ、爆彈燒燬ノ時ニ、自己ノ住居ニ向ヒテ、大砲
ヲ發射セヨト、令セラレタル事例ニテ、譬ヘ得ヘシ、若之ニ背ケハ、死ニ至
ルヘク、之ニ從ヘハ、其愛スル者ヲ、危險ニ陷ラシムルナリ、故ニ初メハ、之

ニ服セサルモ、竟ニハ、其命ニ從ハムト、擇フニ至リ、其砲ヲ轉シテ、照準發射セハ、其意向ニ反シテ、悲惨ヲ極ム。全體ニ就テ觀レハ、之ヲ爲スハ、其選擇ニ出ツト、謂フヘシ、是其人、汚辱ナル死ヲ取ラムヨリハ、寧ロ、之ヲ擇ヒタルニテ、縱ヒ死ス。其保安セムト、欲スル者ニ益ナク、之ヲ保護シ能ハスト、決シタレハナリ、又人アリ、其自己ノ情願ニテ、自ラ、外療醫ノ手術机上ニ横臥シ、其臂ヲ伸ヘテ、割刀ニ達セシメム、是又、其擇取ナリ、此擇取ハ、甚タ、硬難ナレ。然レ、其擇取タルハ、疑ヒ無シ、是之ヲ、猶一層大ナル患害、或ハ、死ヨリモ、寧ロ勝レリト、決シタレハナリ、此等ノ事例ハ、眞ニ譬喩類例ニテ、此ノ如ク、較著ナラス、奮決ヲ要セサル事ハ、日常ニモ起ル事ニテ、是ニテ、人ノ選擇ノ上ニ、境遇ノ、極メテ牽制壓迫スルヲ、觀ルヘシ、然レ、其心ニテハ、其人、自ラ爲ス如ク、之ヲ決定シ、專ラ此決定ニ依テ、他ヲ顧ミサルコト、確然タリ、其實、其選擇スル所ハ、他ニ阻撓セラル、コト無ク、其

他ノ假設
セル事例
ヲ舉ク

舉動ハ、自在ナル舉動ニシテ、全體ニテ觀レハ、其爲ス如ク爲シ、又境遇ニ會スルモ、其爲ス所ヲ、擇フヲ以テ、固ヨリ自在ナリトシ、其人ハ、有意ノ事ヲナセリト、謂フヘシ
又今、人アリテ、強暴ニ拿捉セラレ、強キテ力迫セラレテ、机上ニ載セラレ、其上ニ、手術ノ了ルマテ、縛住セラレム、此ノ如キ時ハ、其人、既ニ、自ラ舉動スルニ、非スシテ、他ヨリ迫ラレタルナリ、又自ラ、其上ニ至ルコトヲ、選ヒタルニ、モ非ス、欲シタルニ、モ非ス、加旃蓋シ直チニ其反對ヲ選ヒ欲スヘキナリ、上ノ事例ト、此事例トノ差異ハ、即チ選ヒタルト、選ハサルトノ差異ニテ、前ナルハ、實ニ厭ヒツ、選ヒタレ。有意ノ舉動ニテ、急遽ニ抑壓セラレタレ。猶選擇ニ出テタリトシ、後ナルハ、全ク所動ノ困窘ニテ、人ノ舉動ヲ、受ケタルナレハ、何如ニ觀テモ、其人、自己ノ舉動ニ非ス、有意トハ、謂フ可ラサルナリ

選擇ハ必
ス境遇ニ
テ響動セ
ラル、ヲ
論ス

然ルニ事ノ現實ノ運行ヲ觀レハ吾人ノ選擇ハ其實必ス境遇ニテ響動セラル、ナリ、而テ其境遇ハ千差萬別ニテ固ヨリ不測ナリ、蓋シ吾人ノ決定ヲ爲スニ至ルハ千百ノ或ハ見エ或ハ見エサル響動アリテ我カ上ニ刺衝スルコト疑ヒ無シ、而テ今總テ此等ノ響動ヲ悉ク正サシク評價シ得テ精密ニ其輕重ト效力トヲ算計シ得ベキ時ハ吾人ノ選擇ハ一定ノ境遇ニ於テ之ヲ前兆シテ精確差謬莫カルヘシ、然ルニ是曾テ人ニハ精密ニ知レ得サル所ニシテカノ賢明ナル者ハ僅カニ其近傍ニ推到シ、以テ將來ヲ察シ、一定ノ境遇中ニテ人ノ躬行ノ蓋然ヲ前兆シ得ルノミ、然レ全智ノ主宰ニハ此事十全知悉ニ屬ス、是ヲ以テ吾カ人生將來ノ事ヲ舉リ吾人ノ自在ナル選擇ト有意ノ行事トハ縱ヒ吾人自己ニハ僅ヤ知り得ヘキモ全智ノ眼ニハ廓然トシテ一瞥ニ瞭然タリ

選擇ニ少

選擇ノ一運用中ニ含蓄セル者何如ト云フニ其目的岐異ナリ、今選擇セ

ク可ラサ
ル目的ノ
岐異ナル
ヲ論ス

ムトスルニハ其中ニテ選フヘキ目的岐異ナルヘキハ勿論ナリ、今唯爲スヘキ道一道ニ限り之ニ從フヘシトセハ選擇ノ事ヲ論スルノ愚タルハ言ヲ待タス、是ヲ以テ上ニ假定シタル事例ニテサヘモ中ニ就テ選フヘキ目的岐別シタルニテ死ヲ取ルヘキカ令ニ從フヘキカ外療ノ痛苦ヲ受クヘキカ一層大ナル患難危害ヲ被ムルヘキカナリ、而テ其岐異ナル所ニ就テ其人選擇ヲ下スナリ

擇取ノ自
在ナルモ
亦少ク可
ラサルヲ
論ス

又選擇ニハ其他ニ一帶情アリテ提出シタル諸種ノ目的中ニテ其一ヲ擇取スルノ自在ナルコトヲ含蓄セリ、今若シ吾人好ム所ニ從ヒ之ヲ擇取スルコト我カ權内ニ非ストシ、又何レニテモ我カ欲スル所ノ道ヲ取ルコト自在タラサラシメハ此躬行上ニ諸種ノ行道アリ、諸種ノ目的アリ、又其目的ヲ達スルニハ諸種ノ方略アリトモ、絶テ用ニ供スルコト莫カルヘシ、故ニ選擇ト云ヘハ必ス是ニ就テ諸種ノ行爲諸種ノ執意ヲ爲シ

得ヘキ意ヲ含蓄シテ以テ我カ決定ト擇取トニ供スルナリ故ニ執意ニハ選擇無キコト能ハスシテ選擇ニハ之ヲ擇フノ自在無キコト能ハス、是ヲ以テ何ニテモ此自在ヲ妨ケ自在ヲ滅シ自在ヲ除ク者ハ亦併セテ我カ選擇ヲ妨ケ我カ自在ヲ滅シ我カ自在ヲ毀壞スルナリ然ルニ有意ノ舉動ノ眞ノ本體ハ選擇ノ一動作アル上ニ發スル者ニテ是即チ自在意ノ動作ナリ此意ノ自在ナルコトハ何如ナル虐主ト雖也之ヲ毀壞シ得ルコトノ外ニハ之ヲ奪ヒ得ルコト能ハス是總テ有意ノ行事ノ自ラ其責ニ任スヘキ者ニ於テハ悉ク然ラサルコト莫シ今汝余ニ命シ異教ノ神卓ニ向ヒ炷香ヲ焚クコトヲ命セム是其命ハ之ニ從フヘキヤ否ヤト吾ヲシテ直チニ取捨選擇ニ當ラシムル者ニテ若余之ヲ肯ンセサル時ハ死刑ニ至ルヘシトセム然ルニ余ハ罪業ヨリモ寧ロ甘ンシテ刑ヲ蒙ムルヲ擇ヒ得ヘシ此ノ如キ時ハ地球上何如ナル權力アル者モ余ニ

思慮ヲ含蓄スルヲ論ス

逼リテ他ノ選擇ヲナサシムルヲ得ス何トナレハ余ハ死ス余ハ唯自在ナル人ニテ死スル耳ト此時汝ハ實ニ余ヲ縛シ器械ノ力ニテ余ヲ卓前ニ促迫シ他人ノ臂ヲ添ヘテ余カ臂ヲ把リテ其炷香ヲ焚カシムヘシ然ルニ是余カ動作ニハ非ス是唯余ヲ所動ノ器械トシテ用ウル者ノ動作タルノミ故ニ是既ニ余カ動作ニ非スシテ徒ニ其時ニ用ヰタル鐵カ材木カ又ハ器械ノ所爲タルヘシ且又選擇ノ中ニハ思慮ヲ含蓄シテ以テ斯ニ至ルノ故ヲ秤稱輕重シ提出シタル諸種ノ善效諸種ノ目的諸種ノ物體又此目的ヲ達スヘキ諸方略ヲ計較評估シ理性ヲ使用シテ辨決ヲ行フコト此運用中ニ存スルナリ此時ニ於テ余ハ眼前ニ各種ノ行道アリ余カ悟性ニ表現シテ各種ノ目的アルヲ視諸種ノ事故ト道理ト吾カ意識ニ供シ或ハ余ヲ一ノ方向ニ促カスアリ或ハ吾ヲ他ノ方向ニ勸ムルアリ又生來ノ偏癖ハ吾ヲ衝

動シテ躬行中ニ此線路ヲ取ラシメ、理性上ノ自愛、吾ヲシテ、全ク他ノ運用ニ望ヲ屬セシメ、或ハ又時トシテ、仁愛ノ情ト、本分ヲ盡スノ意ト、吾ヲ德通誘導シテ、又他ノ方向ヲ趨ハシムル等ナリ、此時ニ當リ、其一ツヲ選擇スルハ、余カ自在ニテ、既ニ此ニ及ヘハ、必ス擇ハサルヲ得スシテ、此道カ、彼ノ道カ、一ノ道カ、他ノ道カ、必ス其一ツニ出サルヲ得スシテ、含糊決セスシテ、只ニ思慮スルハ、徒爲ノミ

此ノ如クナルヲ、以テノ故ニ、選擇ノ中ニハ、畢竟、此類ノ運用ヲ、少シニテモ、含蓄セサルコト莫シ、唯多クハ、思慮ノ運用甚々速カニシテ、之ヲ睥出スルニ、追アラサル如ク、速カナレハ、吾人、此運用ノ意識ニ供スルヲ、覺ラサルノミ、又他ノ事例ニテハ、吾人、其全境ヲ舉リ、痛ク意識ニ供スルコトアリテ、躊躇逡巡シテ、久シク決セス、其兩動機兩利害相爭ヒテ、疑惑延滯シ、欲ト本分ト、吾カ胸中ニテ、激烈ナル戰鬪ヲナシ、吾ハ、寧口、快樂ヲ擇取

最後ノ決斷ヲ論ス

セムカ、寧口、正義ヲ擇取セムカ、而テ又、此事、既ニ定マルモ、又真ノ快樂ハ、孰レナリヤ、真ノ正義ハ、孰レナリヤト、云フ事アリ

此ノ如ク、思慮シタル效驗ニテ、吾人、最後、此道カ、彼ノ道カノ、一ツニ決斷スルナリ、此決斷ハ、我、此ヲ彼ヨリ、勝レリトシタルニテ、是即チ選擇ナリ、故ニ、吾人ノ心ハ、上ニ云ヘル如ク、某ノ事ヲ爲スヘク、某ノ方法ニ從フヘシト、決定シタル處ニテ、其時ニ至レハ、其如ク行フナリ、然レ、他ノ事ニ因テ、我、其道ニ從ハムト、欲スレバ、妨ケラレ、機會ヲ得スシテ、是カ爲ニ、我カ決定ヲ、再ヒ思慮シ、再ヒ改定スルコトアリ、然レ、此障礙ナキ時ハ、我カ決定ハ、直チニ、舉行ニ、屬スルナリ

是ヲ以テ、選擇ノ中ニ、含蓄セル事歟ハ、諸種ノ目的、思慮、擇出、決定、即チ擇取ナリ

最後ノ本意

意ノ一作用内ニアル、諸種ノ本元、即チ、元カヲ講究シテ、今マテ唯、其中ノ

元ヲ論ス
○第三施
行上ノ執
意

二元ヲ論シタリ、是即チ、動機ト選擇トナリ、此二ツノ中、最初ノ者ハ、之ヲ、意ヲ合成スル一部分ト、視ルヨリモ、寧ロ、有意ノ作用ノ帶情ト視ルコト、一層本來ナリ、然レ亦、其帶情タルヤ、執意ト連絡シ、執意ヲ論スルニハ、必ズ其連絡ヲ要スルカ如ク、離析ス可ラサル帶情タリ、而テ、今ハ唯、此運用ノ最後段ヲ、表章スルコトノミ殘レリ、是即チ、最後ノ本元ニテ、之ヲ加フレハ、此運用十全ナリトス、即チ此心ノ行事ニ施發スル作用、元來所謂執意是ナリ、今達スヘキ目的、其處ニ表現シタル時、之ヲ云々セムト、動機ニ因テ、誘動セラレタル時、其次ニ、思慮ヲ遂ケ、其各種ヲ觀察シテ、選擇即チ、擇取ヲ爲シタル時、此時、猶殘ル者ハ、唯執意ヲ陳スルコト耳ニテ、此時、作用ヲ爲サ、ルヲ得スシテ、此時、作用ヲ爲サスト云フハ、曾テ無キ所トシ、此ノ如キ機會アルヲ得サルナリ、試ミニ今、既ニ、某ノ事ヲ爲サムト欲スト、假定セヨ、既ニ爲サムト思ヘハ、形體ノ機關、忽チ發達シテ、靈魂ノ命令

喚起ニ從フナリ

然モ、其作用、必ス執意ト相通スル者ニ非ス、前ノ如キ時サヘモ、作用ニハ、徒爲ニ屬スルコトアリ、何トナレハ、他ノ意ハ、我ノ意ト相反シテ、發作スルコトアリテ、他人ノ臂ハ、他人ノ意ニ從ヒテ、運動スレハナリ、蓋シ此ノ如キ時ハ、其爲サムトスル事、我カ爲ニハ、甚々大イナルニ過キ、我カ力ト、方略トニ超エテ、行フ可ラスト見エ、又或ハ、疾病等ニテ、我カ形體麻痺シ、我カ支體、精神ノ命令ニ從ハサルコトアリ、然レ此等ノ時ニテモ、其執意ハ、十全ナリト、謂ハサルヲ得スシテ、執意ハ、曾テ其陳力ノ成功ニハ、關セサルナリ、吾人、苟モ一次云々セムト思ヒタル時ハ、其ニテ、我カ心ノ作用ハ、止ムナリ、故ニ、其餘ノ事ハ、形體上ノ事ニテ、心理上ノ事ニ非ス、又若、吾人意ノ如ク、成功アリトシ、即チ、執意ノ如ク、其施行ニ、應シタリトスル時ハ、依テ以テ、成シ得タル作用ハ、既ニ己ニ、我カ勢力ノ及ラ所ニ、非スシテ、

其事、一次成シ去リタル上ニテハ、永久歴史上ノ事件トナリ、我カ管轄外ニ在リテ、我カ決定ニモ及ハス、之ヲ追還セムト欲スルモ、奈何モ爲ル無キノミ、故ニ、其事ニ就テ、我カ力ノ及フ所ハ、唯執意ノ瞬間ニ止マルナリ、然モ、其事ト、我トノ連絡ハ、曾テ休期莫カルヘシ、一次執意ヨリ、事業トナリタル上ニテハ、其效驗、善クモ、悪クモ、繼キ來リテ、其來歴道ル可ラス、カノ迅流ノ阻ム可ラサルカ如ク、其事我カ身ト相依リテ、我カ上ヘニ、壓下スルナリ、故ニ、吾人ハ、既ニ成シ了リタル事ト、再ヒ爲スヘキ事無シト雖モ、其事ハ、必ス我ニ離レスシテ、若シ誤行スレハ、我カ悔恨トナリ、永久盡ル期莫カルヘシ

是、意ニ係ハル性理學上ノ、大イナル事實ノ、略説ニテ、吾人ノ意識ト、細心ノ視察トニ、供スル所ナリ

第二篇 意ト、他ノ心裏諸勢力トノ、關係ヲ論ス

執意ノ時、智ノ發動ヲ論ス

意ト、他ノ心裏ノ諸勢力ト、相持スル所ノ關係ヲ、的切ナラシムルハ、一切要ノ事タリ、凡百ノ事例ニテ、意ノ發動ノ前ニ、智ノ發動、先ツコト、疑ヒ無キコトニテ、吾人ハ、先ツ初頭ニ、我カ悟性ニ表現シタル物體ヲ、知覺セサルヲ得ス、是其目的ニ達セムト、欲スルノ前ニ、在ルヘシ、上ニ舉ケタル事例ニテハ、吾カ机上ニ在ル書籍ハ、即チ、我カ覺性ノ認識中ニ、入リタル物體ニテ、之ヲ知覺スルハ、智ノ作用タリ、故ニ、之ヲ知覺セサル前ニハ、之ニ就テ、執意ヲ陳スルコトモ無ク、又單素ナル知覺ニテハ、執意ヲ挑起スルコトモ無シ、其書籍ノ知覺ト、連絡シテ、此心ニ、自ラ觀念ヲ表現シ、新奇ノ看ヲ、提生シテ、此心、始メテ發達シテ、思惟ノ線内ニ入リ、其書ヲ把ラムトスルノ欲ト、執意トニ、發出スルナリ、故ニ、凡テ此際ニ於テハ、智ハ能動ナリトス、何ニテモ、一定ノ流道ニ向ヒテ、此心ニ、怡ハシメ、若クハ逆ハシムル如ク、心ヲ變動スル動機タル者ハ、初頭ハ、必ス悟性ニ表ハレ、未タ其物、

又感性ノ
發動ヲモ、
含蓄スル
ヲ論ス

此心ノ決定ヲ、響動セサル前ニ、智ノ勢力ニテ、之ヲ曉解セサルヲ得サルナリ、若其動機タル者、我ニ於テ、曉解セサル者タル時ハ、動機ニハ非ラス、又其道理モ、余ニ於テ、知覺モセス、曉解モセサル時ハ、道理ニハ非ルナリ、然ラハ、前ノ事例ニテ、執意ハ、直チニ、智ノ發動ニ、繼テ來ルカ、吾人ハ、初頭曉解シテ、乃チ思フカ、或ハ知ノ知覺ト、執意トノ間ニ、他ノ一事ノ混入スルコト莫シヤ、此時、智ノ知覺ニ因テ、感動ヲ提醒セサル時ハ、其知覺シタル物體ニ就テ、執意ノ發スルコト、莫カルヘシヤ、馬京多斯云ク、吾人、想像シテ、唯知覺思惟ノミアリテ、快樂痛苦ヲ受クルノ性ナキ有體、有リトスルコト、容易ナルヘシ、今此ノ若キ有體アリトセハ、其爲ス所、何如ヲ知覺スルヲ得ヘク、其人ノ理性、何如ヲ問ハ、正シク論辯シ、若何事ニテモ、辨決スヘキ時ニハ、其人正シク、辨決シテ、少シモ、辨決シ得サルコト、莫カルヘシトス、然レ、此ノ如キ有體ニテ、能事ヲ爲サムト欲セシメ、能作用ヲ起

祿可ノ說
ヲ論ス

サシムル者ハ、果シテ何物ナルヘキ、此ノ如クナラハ、其存在ト云ハ、唯受動ノ觀察アルソミ、是明カニ知ルムキ所ナリ、然レハ、理性アリ、其理性ハ、唯道理ヲ辨スル耳ニテ、其作用ノ動機ニハ、供セサルヘシ、蓋シ、此ノ如キ人ヲシテ、此作用ノ世界内ニ、入り來ラシムヘキ者ハ、唯之ニ加フルニ、感性ヲ以テシテ、情ヲ發スルノ性アラシメ、好惡ノ意見ヲ、生セシムルニ、堪エタル時ニ、在ル耳ト

是ト同論ニテ、祿可曰ハク、凡テ現在スルモ、現在セサルモ、此心ヲ、衝動スル者ハ、好惡ノ二性ニ、出テスト、謂フハ、眞ナリ、然レ、其時々、直チニ、此意ヲ定メテ、毎ニ有意ノ作用ニ、向ハシムル者ハ、欲ノ煩悶ニ非ル莫シ、是即チ、或ハ、消極ニ發シ、痛楚ナル事ヲ、避回スルニ於テモ、或ハ、積極ニ發シ、快樂ヲ享受スルニ於テモ、孰レモ、一ノ現在セサル好事ノ上ニ、目的ヲ存スル者ナリ、凡テ、人ノ生平ノ強半ハ、有意ノ作用、陸續發出シテ、依テ以テ、吾人

意識ノ證
據ヲ論ス

諸種ノ流道ヲ歴テ、諸種ノ目的ニ達スル者ナリ、然ルニ其有意ノ作用ニ、此意ヲ指定スル者ハ、即チ欲ノ煩悶タルコトハ、余能體驗ヨリモ、又事ノ道理ヨリモ、兩ツナカラ、之ヲ證明シ得ヘシトスト、又他ノ處ニ言ヘルコトアリ、曰ク、然ルニ其好事ハ、縱ヒ發見ニ供シ、固ヨリ其盛大ナルコト、明カナリト雖モ、然モ之ヲ使テ、我カ心ニ欲ヲ生セシメ、依テ以テ、我ヲシテ、其急需タルヲ思ヒ、煩悶ヲ發スルニ至ラサレハ、亦未タ我カ意ノ發出ニ、至ラヌシテ、吾人意ノ發動ノ圈内ニ入ラサルナリト

哲學諸家ノ說ハ、近日一般ニ上ニ表章シタル見解ト、一致セリ、其說皆智ヲ以テ、直チニ意ノ上ニ發作セスシテ、感性ノ媒介ニ因テ、發作シ、諸情ト諸欲トハ、智ノ知覺ニテ、提醒セラル、者ナリト視タリ、是正シキ見解タルコトハ、少シモ疑ヒヲ容レサル所ニテ、此問題ハ、意識ニ驗シテ、最モ能決定スヘシ、上ニ假設セル事例ニテ、机上ニ書籍アルヲ、知覺シタルハ、是

此例規ハ
凡百ノ事
例ニ當ル
ヤ否ヤヲ
論ス

ノミニテ直チニ意ヲ響動セス、故ニ稍感動ヲ生シ、我カ新奇ヲ愛スルノ情ヲ興起シテ、欲ノ形狀頗ル提醒セラレタルニ非レハ、我カ意ノ發作スルコトハ、無キナリ、是ヲ以テ、其物體ハ、徒ニ知覺セラレタルノミナラス、快樂ニ供スヘシト、知覺セラレ、之ヲ有セムト、欲スルノ願ヒ、執意ノ發出スル前ニ、存セサルヲ得サルナリ

吾人ノ執意ノ中、其種類ノ大半ニ就テハ、此事ノ眞ニ然ルコトハ、之ヲ否定ス可ラス、其作用ヲ發スル動機、欲ノ性ヲ具ヘタル者ナル時ハ、直チニ、意ノ作用ヲ名狀スヘキ所ハ、感性ニテ、靈智ニハ非ス、余初頭、先ツ其物ノ快樂ナルヲ知覺シ、而テ次ニ、之ヲ有セムト欲シ、乃チ、之ニ達セムトスルノ意發ス、故ニ、靈智ノ發動ハ、情ヲ發生シ、而テ情ハ、執意ヲ誘フナリ

然モ、猶假定スヘキコトアリ、若其意ヲ響動スル動機、欲ノ性ノ者ニ非ス、寧ロ、義務本分ノ意ヲ具ヘタル者ナル時ハ、其事例前ニ異ナリテ、智ニテ、正

義ヲ知覺シ、又正義ヲ爲サムトスル義務ヲ、知覺シ、是二ツ耳ニテ、此心ヲ、作用ニ誘フニ十分ナリ、然レ、快樂ニ供スヘキ者ヲ觀レハ、智ニテ、之ヲ知覺シ、情ト欲ト、之ニ從ヒテ、發スルカ如ク、正義ヲ智ニテ、知覺シタル時モ、亦同シク、感動ト情トノ一種、是ニ繼テ發ス、是ヲ尋常、德性ノ感動ト名ク、故ニ、孰レニテモ、直チニ意ト、相觸ル、者ハ、感動ニシ、知識ニハ非ス、感性ニシテ、靈智ニ非ス、此時余ハ、余此事ヲ爲スヘキニ屬スト、知リ、又之ヲ爲スヘシト、感動スト云フハ、此心ノ、密ニ相連絡シタル情狀ナレ、同一ノ事ニハ非ス、故ニ、直チニ執意ヲ、挑起スル者ハ、之ニ感動スル上ニ、在ルナリ、他ノ講究ヲ要スル所ハ、執意ト、欲トノ中ノ、近密ナル關係ナリ、是此兩者ハ、同物ナリヤ、若同物ナラストセハ、何處ニ、兩者ノ異ナル處アリヤト、云フコトナリ、或ル著家ニテハ、心ノ情狀中ニテ、欲ト意トヲ、區別セサルヲ以テ、慣習トナシ、或ハ、全ク同一物ト、ナサ、ルモ、之ヲ視テ、唯度ノ差異

欲ト執意トハ區別スルヲ常トセサルヲ論ス

トナセリ、是孔弟羅哥及ヒ、佛朗西學派ノ諸家、并ニ又大丕列頓ニテハ、不羅昂彌爾及ヒ、其他ノ諸人モ、執意ヲ以テ、唯欲ノ度ノ強キ者トシ、又欲ヲ、唯情ノ一變形トシテ、論シタリ、又馬哥士サヘモ、其道德主管論中ニ、情ト欲トノ差別ヲハ立テ、之ヲ固守セリト雖、願望ト欲ト、執意トヲ、其本體ハ、心ノ情狀中ニテ、同一種ニ、屬セリト、視タリ、此類達高雅ナル、著述家ノ言ニ曰ク、吾人、我カ意識ニ、願望ト、欲ト、執意トヲ、包括スル、一種ノ心裏情狀アルコトヲ、肯定シ得ヘシ、是他ノ者ニ、分解シ得可ラサル者ナリ、此心ノ情狀即攪動ハ、其數、甚タ多ク、人心ニ於テ、他ノ勢力ニ劣ラサル地位ヲ、占メタリ、是皆、其度ニ於テハ、交互ニ異ニシテ、殊ニ瑣細ノ形質ニ於テモ、差異アレ、其他ノ一層切要ナル目的ニ於テハ、總テ皆一致セリ、故ニ、之ヲ一項中ニ、臚列スルヲ得ヘシト、又其次章ニ、同一事ヲ、論述シテ曰ク、近日、心理ヲ研究スル者ハ、一般ニ、意ナル者ハ、確定ヲ司リ、是ヲ特

別ノ地位ニ置クヘシト云フ説ヲ容ル、ニ至レリ、譬ヘハ、其朋友ノ病ニ
罹リシ時、其快復ヲ謀リ、一層温和ナル氣候ノ地ニ到ラシメムカ爲ニ、若
干ノ金貨ヲ贈ラムト、處決スルハ、單純ノ情ヨリモ、一層別事タリト云フ
カ如シ、然レ、此ノ如ク、執意ト指スヘキ屬性ヲ、一個別ノ者ナリト、ナス時
ハ、願ト欲トヲ、同一項下ニ、排置セスシテ、認識ノ情狀ノ如キ、其性質、一般
ノ情ヨリモ、一層密ニ、執意ニ親近セリトスヘキカ、是講明問難スルニ、足
レル所ナリト

種類ノ異
ヲ論ス

此後ノ處ニ、上ニ援キシ著家ト、差異ヲ争フニ、至ル所アリ、願ト欲トハ、感
動ノ一形狀ナリ、執意ハ、感動ノ形狀ニ非ルナリ、故ニ、其差異ハ、種類ノ異
ニシテ、唯度ノ異ニ非ス、欲ハ、感動ノ他ノ形狀トハ、異ナリト雖レ、其差異
ハ、欲ト執意ト、相異ナル如キ、差異ニハ、非ス、其根元ヨリ異ナル如キニハ
非ス、願望ト欲トハ、執意ヲ誘發スヘシト雖レ、執意ハ、願望ト欲トヲ、誘發

來德ノ説
ヲ舉ク

セス、吾人、爲サムト、思ハサル事ヲ願ヒ、若クハ、欲スルコト屢ニテ、我カ欲
スル目的ハ、我カ執意ノ圈内ニ在ラス、之ニ達スルコトヲ得可ラス、或ル
意味ニテハ、我カ意ニ、關セサルコトアルヲ得、又或ハ、其欲スル所ノ者ハ、
道理、若クハ、正義ノ法ノ、禁スル所ノ事タルモ、天質ニテ、之ヲ欲スルコト、
有ルヘシ、是ヲ以テ、一方ニ就テハ、吾人、本分ノ意味ト、道理ト賢智トノ誥
命ヲ、奉スルヨリシテ、我カ天質偏癖ニ相反シタル事ヲ思フナリ、故ニ、此
ノ如キ事例ニテハ、吾人ノ執意ハ、我カ欲ノ代人タラスシテ、却テ直チニ、
其欲ニ相反スルコト、有リトス

上條ノ見解ト、一致シタルハ、學士來德ノ、次ノ表章ナリ、曰ク、吾人ノ作用
ヲ論スルニ、爲サムト、思ハサル事ヲ、欲スルコトアリ、欲セサル事ヲ、爲サ
ムト、思ヒ、又甚ク厭フ所ヲモ、爲サムト、思フコトアリ、今渴セル人アラハ、
飲ムコトニハ、強キ欲アレ、或、別段ノ道理アレハ、其欲ニ、饜足セサルヘ

祿可ノ説
ヲ擧グ

シト執定ス、又判官アリテ、正義ノ見ト并ニ其官守本分トヨリシテハ、一
 罪犯ヲ死ニ處決ス、然ルニ仁愛ト別段ノ愛情ヨリシテハ、其生ヲ欲ス、又
 人能其健康ヲ護スル爲ニハ、少シモ好マサルノミナラス、極メテ厭憚嘔
 ヲ發セムト、欲スルノ藥ヲモ、飲ムナリ、故ニ欲ハ己レノ作用ヲ、發スル目
 的ニ於テサヘモ、唯意ニ提醒ヲ命スルノミコテ、執意ニハ非ス、此心ノ執
 定スル所ハ、我カ爲ルヲ欲スル所ヲモ、爲サ、ルコト、アリ得ルナリ
 又次ノ祿可ノ説モ、同シク此事ヲ説ケリ、曰ク、意ト、全ク意トハ、異ナル心
 裏ノ諸作用トノ差異ヲ、十分ニ含蓄セサル表言ニテ、誤解ニ至ラサルヲ
 主トシテ、慎ミテ、斯ニ注意スヘキ事ハ、余最切要ナル事ナリト思フ、何ト
 ナレハ、余屢、世人意ヲ以テ、諸種ノ愛情ト混シ、殊ニハ欲ト混シ、之ヲ交互
 ニ用ヰタルヲ視、又思惟ヲ、好マサル人ニ在テハ、此事ノ、眞ニ差別アルモ、
 其念ヲ作サス、之ヲ文字ニ表スルモ、甚タ明亮ヲ、欠クヲ視タリ、余思フニ、

是此事ニ於テ、曖昧誤謬ヲ、致スコト、其關涉タル、少ナキニ非レハ、勉メテ、
 之ヲ避ケサル可ケンヤ、蓋シ、人苟モ、自ラ事ヲ爲サムト、思フ。時ニ方リ、自
 己ノ心裏ニ、經過スル事ニ就テ、内ニ省ミテ、其意ヲ着スル時ハ、意即チ、執
 意ノ勢力ハ、此心ノ、特別ナル、執定ナラテハ、相關スルコト、無キヲ視ルヘ
 シ、而テ、其執定ハ、唯一思惟ニ因テ、此心ノ、其權力内ニ在ル作用ヲ、或ハ、爲
 サムトシ、或ハ、持重セムトシ、或ハ、止メムトスルコトニ、努力スルニ、外ナ
 ラサルナリ、之ヲ能思察スレハ、意ハ、十分ニ、欲ト區別セラレテ、欲ニハ、同
 シ作用中ニ、我カ意ニテ、我ヲ努力セシムル偏倚ヨリモ、全ク相反セル偏
 倚アルコトヲ、明白ニ觀ルヘキナリ、今余カ拒ミ能ハサル人アリ、余ヲ要
 シテ、他人ニ、勸説ヲ行ハシムレハ、余其説ヲ、説話スト雖、同時ニ、余亦其
 人ヲ、凌壓セサルコトヲ、願フコト、有ルヘシ、此事例ニテ、意ト欲ト、相背馳
 スルコト、明白ナリ、余今、一方ニ偏スル作用ヲ、爲サムト思ヒ、而テ、余カ欲

意識ノ證據ヲ論ス

スル所ハ、他ノ方ニ偏スレハ、正シク相反スルナリト、祿可又之ニ加ヘテ
 曰ク、是ヲ以テ欲スルト思フトハ、此心ノ、二個ノ別ナル發動ナレハ、唯執
 意ノ勢力タル意ト云フハ、欲ヨリ甚タ異ナル者タルコト、著明ナリト
 意識ノ證據ニテハ、上ニ舉ケタル見解ト、明カニ一致セリト見エ、吾人、我
 カ欲ト、我カ執意トヲ區別スルコト、容易ナリ、吾人ハ、我カ欲ニ反シタル
 者ヲ、爲サムト、思フノ意識アルハ、屢ニテ、名譽ニモナリ、本分ニモ適シテ、
 意ヲ決シテ、果行スル行事ハ、カノ評多嗜好ニ適シテ、心ニ培養セル欲ノ
 爲ニハ、益無ウシテ、欲ハ果行ノ後ト雖、猶胸懷ヲ攪動ス、而テ其欲ト意
 ト均シク、其道ヲ同ウスル時タモ、唯僅カニ反省スレハ、其差異アルヲ發
 見スルニ足ル、是人生日用ノ言語ニ於テモ、之カ差異アルヲ認識セル所
 ニテ、絶テ學者ニテモ、無形理學者ニテモ無キ人スラ、其著論、若クハ、說話
 ニ於テ、之ヲ表別スル所ナリ

猶其差異ヲ譬喩ニテ論ス

阿巴威氏ハ、甚タ明亮且精確ニ、上ノ問題ナル差異ヲ主張セル人ニテ、譬
 喩ヲ取り、^{アバラム}亞伯拉罕ノ事例ヲ援テ示セルニ、^{アブラハム}亞伯拉罕ノ神ノ命令ニ服從
 シ、嚴ニ意ヲ決シ、甘心シテ、其子ヲ以テ、牲卓ニ供セシ時、父タル者ノ胸懷
 ニ於テハ、其事タル、念々其情ニ相支吾セサルヲ得サリシナリ、又^{アラマ}丕盧多
 スノ、曠世ノ事例ヲ援テ、其兒子ノ、國ニ對シ、背反セルヲ以テ、誅戮ヲ命シ、
 施刑ヲ視實セシカ如キ、其意ノ強キト、慈父ノ愛情ノ強キト、顯然、其顔容
 ニ現ハレ、至慘ノ場地ニ、立チシ時ノ若キ、又^{カレニウス}維爾日尼斯ノ事例ヲ援テ、其
 鍾愛セル女仔ノ胸ニ、刀ヲ刺セル時ニ、其汚辱ハ、別ニ護スル道ナキカ如
 キ、凡テ此等、并ニ他許多是ト、一類ノ事例ニ於テハ、其私情ヲ割キ、人ノ愛
 欲ヲ、十分ニ制克シテ、高貴ノ心ヲ表ハシ、以テカノ至大ナル公益ト、道義
 トノ爲ニ、ナシタルナリ、而テ、此ノ如キ事ヲナスニハ、其意ハ、人ノ感性好
 欲ノ流道ニ、相反シテ、發作セサルヲ得サルナリ

意ニ就テ
ノ問題ヲ
舉シ

第三篇 意ノ自在ヲ論ス

斯ニ至ルマテ吾輩ノ注意ハ意ニ就テ性理上ノ事實ニ在リキ是意ノミ
ニテ論シ又他ノ心カトノ關係ニ於テ論シタル所ナリ然ルニ此事ニ就
テ一層全備セル曉解ヲ得ムト欲スルコトハ稍其爭論タル事項ヲ一見過
スルコト切要タリ是人意ニ就テ世々思惟世界ノ人々ヲ煽動分争セシ
メタル一大疑問ナリ前篇ニテ既ニ吾輩ノ意ヲ注キタル單純ナル事實
能曉解ニ至ル時ハ此一層硬難ナル問題ニ達スルノ道ヲ開キタルナリ
此問題ハ其數許多ナリト雖モ余カ觀ル所誤謬無ラシメハ其許多ノ者
ヲ納メ畢竟是意ノ自在ト云フ一普通ノ問題ニ歸スルヲ得ヘク或ハ少
クモ之ヲ講究スルニ同一連絡中ニ約シ得ヘキカ如ク諸問題ヲ申穿ス
ヘシ

何ヲカ自

此甚タシキ爭論タル問題ニ近接スルニハ第一初頭ニ於テ自在ト云ハ

在ト云フ
ヲ論ス

何ヲ徴シ意ノ自在ト云フハ何ヲ指スコトヲ的知スルコト切要タリ否
ヲサレハ此事ヲ講究スルモ目的ノ據ルヘキ莫キナリ是ニ就テ自在ノ
意義ニハ種々ノ定義ヲナセリ然ルニ此語ハ甚タ尋常ニ用井之ヲ普通
ニ適用スレハ固ヨリ誤解スヘキコト無シ誰ニテモ生平常套ノ言語ヲ
曉解スル者ハ自在ノ何物タルハ十分能知ル所ナリ是東縛ノ反對ヲ表
ハス語ニテ何ニテモ其人ノ心ニ慚ヒ之ヲ好ミ之ヲ爲サムト偏尙スル事
ヲ爲スノ勢力ヲ指スナリ今余カ身ハ行キモシ來モシ此ヲモ爲シ彼ヲ
モ爲シ余カ偏尙ノ在ル所ニ從フヲ得レハ自在ナリト謂フヘシ心ノ能
力身體ノ官具各其自己ノ特別本來ナル作用ニ於テ障礙無キ時ハ自在
ナリト謂フヘシ運動ノ自在トハ何時何處ニテモ我カ好ム方ヘ動クノ
勢力アルナリ言論ノ自在トハ我カ好ム所ヲ言フノ勢力アルナリ作用
ノ自在トハ我カ好ム所ヲ爲スノ勢力アルナリ

意ノ自在
何如ヲ論
ス

然ラハ則チ意ノ自在ハ何如曰ク意ノ本來特別ナル官能ヲ束縛障礙ナ
ク發陳スルノ勢力ヲ有スルコトニテ即チ執意ヲ發スルニ正シク我カ
好ム所ノ執意ナルヘシト云フ耳是吾輩既ニ論シタル如ク意ノ本來ノ
官司ニテ意中ニ特別ニ固有セル作用ナリ故ニ余カ好ム所ノ執意ヲ操
リ之ヲ發陳スル時ニ一物モ我ヲ抗拒束縛スルコト無キ時ハ即チ余カ
意ハ自在ニシテ別ニ他事ナキナリ

是ヲ以テ意ノ自在ハ執意ヲ操リテ之發陳スル意味ニ於テ其人思フ所
ヲ爲スノ勢力ニハ非ルナリ是唯肢體ト筋維器具トノ自在ニシテ意ノ
自在ニ非ス此ノ如キ自在ハ癱瘓ノ病若クハ鐵鎖ヲ以テ之ヲ毀壞シ得
ヘシ故ニ人若遊行セムト思フ時遊行スルハ遊行ノ自在ニ非ス歌ハム
ト思ヒ舞ハムト思ヒ右臂ヲ動かサムト思フ時云々スルハ歌舞等ノ自
在ニ非ス是亦自在ト謂フヘシ然レ意ノ自在ニ非ス故ニ余カ意ノ自在

意ノ自在
ヲ取ル説
ニ於テ普

タルハ余カ爲サムト思フ所ヲ爲シ得ルノ時ニ在ラスシテ余カ好ム所
ヲ正シク爲スヘシト思ヒ得ルノ際ニ在リ其意ノ有スル所ノ自在ハ何
等タルヲ論セス意ノ發動自己ノ本疆内ニ在ルヘクシテ意ノ疆外ニ在
ル可ラス意ニノミ係ハルヘクシテ意ヨリ他ノ物ニ係ハル可ラス然ル
ニ此ノ如キ甚タ分明ナル差別ナレバ時トシテハ之ヲ忽略セルコトア
リ亦怪ムヘキナラスヤ
然ラハ則チ人意ハ上ノ如ク定義ヲ立テタル意味ニ於テ果シテ自在ナ
リ否ヤ今先初頭ニ意ノ自在タルヲ取ル説ヲ表章シテ次ニ一層直接ナ
ル據證ヲ示スヘシ

第一章 意ノ自在ナル説ヲ取ル考

〔第一〕意ハ自在ナリト云フハ縱ヒ普通ナル的證タラスト雖レ人間ニ於
テ甚タ一般ナルハ自在説ヲ取ルノ考ヘニテ是世ニ旺スル觀念トシ立

定シタル的證トシ、人心ノ信スル所トス、吾人自己ニ體驗シテ、此信アルノ意識アリ、又之ヲ他人ニ視察シテ、觀ルヘシトス、故ニ、吾人一作用ヲナシ、若クハ、躬行ノ流道、孰レニ就クヘシヤト擇フ時、其場地ニ臨マハ、之ヲ爲シ、之ヲ擇フニ、諸種アリト、云フ信アルハ、此心ニ其衝動アルヲ、覺ユル所ニテ、平生行實ノ事ニ就テ、曾テ、此能力ヲ疑惑躊躇スルコト無シ、是世界ヲ舉リ、人民ノ言語文字ノ際ニ、此信ノ普通ナル明證アル所ナリ、乃チ、此學理ヲ奉スルニ於テ、此考ヘノ根據トナリ、鞏固ナル地ヲ、ナス者ハ、少クモ、此自在ヲ、普通ニ的證シタル、堅キ信ノ上ニ、立ツナリ、今、人皆、其好ム所ヲ爲スハ、自在タリトセハ、其好ム所ヲ爲サムト思フハ、固ヨリ自在タルヘシ、是爲スニ先タチテ、思ヘハナリ、然ルニ、人皆、此ノ如ク、自在ナラストセハ、其自在ヲ有セスシテ、此ノ如ク、自在ヲ的證スルハ、何ソヤ

自在說ノ主張者、時トシテハ、其據證ヲ、辨駁ニ供スヘキ語法ニテ、説ケル

コトアリ、是省察ヲ直チニ、意識ニ於テスルコトニテ、以謂ヘラク、吾人ハ、自在ニ就テ、意識アリ、今或、事ヲ爲サムトスル時ハ、之ヲ他ノ様法ニテモ爲シ、別ニ或、他ノ流道ニ就クヲ得ヘキ勢力アルノ、意識アリト、然ルニ、嚴ニ之ヲ言ヘハ、吾人ハ、唯此心ノ現在ノ情狀ニ就テ、意識アルノミ、余今、過去ヲ知ルヲ得、是意識ノ事ニハ非ス、又今、恐ラクハ、現實ナル過去ノ代リニ、其事ハ、斯クモ、有ル可カリシト、云フヲモ知リ得、然モ、其有リ得ヘキ事ニ就テハ、余、意識ヲ有スルニ非ス、今余、一ノ感覺ヲ體驗シ、又ハ、執意ヲ體驗スル時ハ、其感覺ト、執意トニ就テハ、意識アリ、然モ、未タ曾テ、生セサル事ニ就テハ、意識無シ、即チ、現實ノ一事ノ代リニ、他ノ感動、若クハ、執意アル可カリシト、云フ事ニハ、意識アル可ラサルナリ、余今、其感動ヲ體驗シ、若クハ、其執意ヲ體驗スルノ瞬間ニ、他ノ感動、若クハ、執意ヲ體驗シ、得ヘキコトハ、我ニ於テ、爲シ得ヘシト云フ、堅固ナル的證ヲハ、固ヨリ之ヲ有

ス、是ハ的證ナル耳ナラス、率テ知識ニ至ルコトアリ、然リ而テ、之ヲ本來ニ意識トハ、謂フ可ラス、余今、余カ自在ナルト、余カ今現ニ爲ス所ヨリモ、他ノ様法ニテモ、爲シ得ヘシト云フ、的證アル意識アリ、而テ是即チ、余カ此ノ如キ勢力ヲ有スト、定メタル考ヘニテ、其實、其勢力ノミニ就テ、意識ハ無キナリ、又若、余カ好ム所ノ執意ヲ、發陳スルコトヲ拒ミ、或ハ、余カ現ニ爲ス所ヨリモ、他ニ爲スアラムトスルヲ、拒ム如ク、何ニテモ、我カ意ノ上ニ、束縛スル者アリシ時ハ、余即チ、此ノ如キ束縛ニ就テ、意識アルヘシト云ヘリ、此言、固ヨリ真ナリ、然ルニ、此ノ如キ束縛ニ就テ、少シモ、意識無シト、云フヨリシテ、余カ自在ナリト云フヲ、正シク引證シタルニテ、是亦引證ニテ、意識ニハ非ス、故ニ、是一事ナリト雖モ、余カ依テ以テ、意識ヲ有スル所ハ、我カ現實ノ執意ハ、此ノ如クニシテ、是ノミ、余カ發陳セムト、欲スル者ナリト、云フ上ニ、在リ、故ニ、余カ好ム所ノ執意ヲ、發陳スル勢力ハ、

吾人ノ徳性ニ就テ、自在説ヲ、取ル考ヘヲ論ス

我ニ在リト云フ的證ヲ得ルニ至ルナリ

〔第二〕其他、意ノ全ク自在ナルヲ、取ル一説アリテ、是人ノ徳性内ニ、含蓄セリト見ユルト、云フ考ヘナリ、吾人ハ、他人ノ行狀ヲ毀譽ス、此毀譽スル所以ハ、其人、自在ニ行フヲ得テ、其現行ヨリモ、他道ヲ取り得ヘシト、云フノ悟性アレハナリ、吾人、人ノ事ヲ爲スヲ視、其人、之ヲ爲スニ、他ニ何如トモ、爲ル能ハサルノ事ナラハ、曾テ之ヲ譽メムト、思ハサルヘシ、又其人、之ヲ爲スニ、之ヲ避ケムトスルモ、明カニ、避クル力、無キ事ナラハ、曾テ之ヲ毀ラムト、思ハサルヘシ、又吾人、我カ自己ノ行事ヲ、或ハ善ミシ、或ハ罪スルモ、亦是ニ同シク、必ス其行事ト、執意トハ、自在タリト云フノ、曉悟アルヲ以テナリ、今縱ヒ、其事惡シカリシモ、當然避ク可ラサル事ナラハ、之ヲ愁歎スルハ、有ルヘキ事ナレモ、曾テ之ヲ罪トシ、又悔恨スル事ハ、有ル可ラス、蓋シ、此感動ノ存在ハ、意ハ自在ナリ、行ヒハ一道ナラス、外ニモ、行フヘ

キ道アリト云フ意ヲ含蓄セリ、今ツレ、一人ヲシテ、其履歴中、其生涯中ノ行事ニ就テ、自ラ尤モ惡シカリシト、思フコトヲ取テ、之ヲ追思セシメハ、其追懷スルニ當リ、凡テ其後年ノ事ニ至ルマテ、深キ憂鬱ヲ發シ、悲惨ニ至ラシムヘシ、而テ、其人、自ラ問ヒテ何故ニ、自ラ其履歴ニ就テ此ノ如ク、悔恨スルヤト、思ハシメハ、其人ノ思フ毎ニ、自ラ其事ハ、他道ヲ取り得ヘカリシコトヲ、知ル故ナリト、發見スヘシ、今若、此的證ヲ除キ去ラハ、其人、凡テ其懊腦ノ根本ヲ、抜キ去リ、自ラ罪スルコト、莫カルヘシ、又カノ義務ノ感動ニ於テモ、同一事ヲ含メリ、道義ノ事ニ於テ、之ヲ爲スハ、畢竟吾人ノ勢力ニテ、絶テ及フ可ラサルノ事ナラハ、之ヲ思フ事モ、有ル可ラサルノ事ナルヲヤ

オナハム
阿巴咸曰ク、蓋シ人ノ性中ニハ、真理、深ク其資質ニ根柢シ、凡テ人ハ、其種ノ何タルヲ論セス、此理ヲ肯受シ、此理ニ本ツイテ、行フナリ、是深ク、靈魂

此見解ヲ
阿巴咸氏
ノ墨守セ

ルヲ論ス

中ニ、賦植セラレタル者ニテ、千古不易オレハ、何如ニ稱譽スヘキ、論辨ニテモ、之ヲ動かスコト能ハス、而テ、余カ見ル所、誤解莫ラシメハ、意ノ自在ト云フ學理ハ、人ノ徳性中ニ、具スル帶情ナリト見ルモ、カノ第一真理中ノ一ナリ、人ハ其行事ニ於テ、自ラ理由ヲ知ルヘキ者タルト、何事ニテモ、其行事ノ責ニ、任スヘキ者タルトハ、凡テ、少シノ破格モ無ク、人タル者ノ、尋常理會中ニ、具スル天命ニテ、吾人ノ性中ノ、第一元トシテ、視ルヘキ者ナリト見ユ、是外部ノ作用ニ於テモ、意ノ作用ニ於テモ、人皆カノ自在ヲ有スルカ爲ニ、何等ノ事モ、其責ニ任セサル可ラス、人皆、此地位ニ止マリ之ヲ以テ、本元ノ真理トナス、故ニ、苟モ是ヨリ離レムト思ヘハ、脚下ニ、其人タルノ存在ト同一トノ的證ヲ拋棄スルナリ、人皆、人ヲ認ムル事々ニシテ、然ルニ非レハ、人ハ唯其自在ナル所アルヲ以テ、道德上ノ有體ナリト、一團トシテ、之ヲ肯定スルナリ、而テ、此ノ如キ一致快明ノ證據ハ、天然

ニ具ハリ、印識題名ノ、改ム可ラサルカ如ク、純然欠ル所無クシテ、精密ナル論究ニ、屬スヘキナリト

學士來德モ亦此說ヲ取レルヲ論ス

學士來德モ亦本體上ヨリ、同一說ヲ取レリ、其說以謂ヘラク、カノ第一元理ニシテ、吾人ノ人タル存在同一、并ニ物質世界ノ存在ト、同一種ノ元理中ニ、列位スヘキハ、曰ク、吾人ハ、我カ行事ト、我カ意ノ決定トニ就テ、之ヲ左右スル權ノ、數分ヲ有スト、云フコトナリト、來氏、又此一理ノ、執意ノ各發動中ニモ、凡テ思慮中ニモ、又思慮ノ結果ニテ、作セル各決定、各目的中ニモ、含蓄セルヲ、固守シテ曰ク、世人皆、物質世界ノ存在ニ就テハ、其的證ヲ有ス、而テ自己ニ於テ、驗スルモ、他人ニ於テ、察スルモ、人皆其行事ト、其意ノ決定トニ就テハ、數分ノ勢力ヲ有シテ、之ヲ自在ニシ得ルノ的證ハ、物質世界ノ的證ヨリ、其明亮、劣レリト、謂フ可ラス、故ニ、此的證ハ、夙歲ニ顯ハレ、普通ニ涉リ、人間躬行ノ全體ト、相組織シテ、恰モ吾人有體ノ創造

反對ノ效驗ヲ論ス

者、吾人ノ行事ヲ導ク爲ニ、之ヲ設ケ、吾人稟性自然ノ、效驗タル如クナルニ、至リタルナリト

〔第三〕反對ノ見解ニテハ、其論ノ歸スル所、自在說ヲ取ル考ヘト、ナルナリ。若意ヲシテ、自在ナラサシメハ、若凡テ吾人ノ自由ヲシテ、唯我カ爲サムト、思フ所ヲナシ、我カ作セル執意ヲ、發陳スルノミノ、自由ナリトシテ、其執意ヲ、自己ニテ、管使スルノ勢力無シトセハ、則チ、吾人ハ、我カ爲スヨリ、別ニ之ヲ思ヒ、之ヲ發作スルノ勢力ヲ、有セサルナリ、是乃チ、宿命家說ナリ、凡テ宿命家ノ墨守スル所ハ、吾人ハ、我カ自己管轄外ノ境遇ニ因テ、管束セラレ、故ニ、今、吾人在ル所ノ境遇ニ處シテハ、唯我カ爲ス一路アルノミニテ、別ニ他道ニ由テ、作用スルコト、吾人ニ在テハ、爲スヘキノ事ニ、非スト云フニ、在ルナリ、此學理ヨリシテハ、凡百理由ノ責任ト、義務トハ、無キコトニ、屬スヘキコト、自然避ク可ラサルノ效驗タリ、何トナレハ、理

由、責任、義務ノ事ハ、既ニ上ニ云ヘルカ如ク、其基礎ヲ自在ノ上ニ立ツレ
 ハナリ、今汝、此基礎ヲ除却セハ、人ノ徳性ヲ滅却スル一撃ヲ致スナリ、此
 ノ如クナレハ、我ニ爲スヲ得ルノ勢力、全然有ル無シトス、然ラハ、其事ヲ
 爲サムト、思フ義務アリト、思フコトモ、莫カルヘシ、又避クルコトヲ得可
 ラサル事ヲ爲ストス、然ラハ、自ラ其理由ヲ説クコトモ、莫カルヘシ、是皆
 既ニ爲ス可ラサル事ニ屬スレハ、道德、本分、理由、責任ノ事ハ、皆只、幻想ト
 ナリ、腦中ノ空想トナリ、法師、虐主ノ、人ヲ恐嚇シテ、服從、屈服セシムルノ
 術計タラムト、スルナリ

此見解ヲ
 事實ニ據
 テ論ス

然ルニ、是胡說亂論ニハ、非スシテ、著明ナル事實アリ、カノ必至ノ學理ヲ、
 主張スル者ハ、余謂フニ、殆ト破格無ク、理由、責任、道義ヲ拒ミタル人タリ
 ト、蓋シ、此ノ如キ見解ヲ、主張スルハ、之ヲ他ノ學理ニ歸スルコトハ、爲ス
 可ラスト見ユ、而テ又、一方ニ就テハ、意ノ自在ヲ否定シテ以テ、殆ト下ノ

如キ斷言ニ至ルハ、亦必然ノ勢ナリ、伯拉深ベラシム曰ク、悔恨ハ、極痛至苦ノ感動
 タリ、是吾人、其境遇ニ、少シモ、差異ナキ時ハ、之ヲ釋ヒ、之ヲ發作スルニ、
 他道アルヘシト、信スルヨリ、生スル者ニシテ、此ノ如キ、虛假ノ感動ハ、必
 至ノ學理ヲ以テ、之ヲ看破スルニ、足レリト

士低瓦的チヂワ氏ノ援ケル如ク、的德樓ヂツトクノ往復書柬中ノ一章モ、亦同シク、明白
 ニ、此事ヲ論シタリ、即チ左ノ如シ、曰ク、今汝、精密ニ、此事ヲ講究セハ、自由
 ナル語ハ、意味無キ語タルヲ、知ルヘク、絶テ自由ナル有體ハ、有ルコト無
 ク、又有ルヲ得スシテ、吾人ハ、唯普通ノ次序ト、我カ形體官具ノ制ト、我カ
 教育ト、外部事件ノ相繼ク連絡トニ、一致スル者タルヲ、知ルヘシ、此等ノ
 者ハ、蓋シ、知ラス知ラス、我ヲ制スル者ニテ、吾人、動機無ウシテ、作用ヲ發
 スル有體アリト、理會シ得サルハ、猶重秤無キ秤稱ノ一臂ヲ、理會セムト
 スルカ如ク、畢竟有ル無キ事ナリ、而テ、其動機ナル者ハ、必ス、外部異體ノ

此說ニ據
テ凡テノ
必至學家
ヲ擊ツ可
ラサルヲ
論ス

者ニテ我ヨリ別ナル源由ニ依テ我ノ上ニ迫ル者ナリト云々又曰ク吾人ハ人ノ毀譽ヲ受ケタルコト屢ニシテ又人ヲ毀譽シタルコトモ屢ナリ是皆吾人ハ自在ニ思ヒ自在ニ作用スル者ナリト信シタル舊習ノ臆見ノ爲ニ固結セラル、故ナリ然レ所謂自由無キ時ハ亦毀譽スルニ足ル行事無ク善行モ無ク惡徳モ無ク賞スヘキ事モ罰スヘキ事モ無シト云々又曰ク善ヲ爲ス者ハ幸ヒニシテ然ルノミ故テニ有徳ナルニ非ス云々又曰ク何事ニ就テモ他人ヲ譏ラス何事ニ於テモ自ラ悔マス是睿智ニ進ムノ第一歩タリト

意ノ自在ヲ拒ム者ハ凡テ上ニ擧ケタル見解ヲ取ル者ナリト定ム可ラサルハ勿論ナリ然ルニ此ノ如キ否定說ハ合式ニ討究シテ其正真ナル斷言ニ至リタル時ニ此ノ如キ效驗ニ至ル可ラサルヤ否ヤノ論ハ別個ノ問題タリ

據證ニ他
法アルヲ
論ス

第二章 其直チナル據證

斯ニ至ルマテハ唯意ノ自在ヲ取ル考ヘヲ論ジタリ其考ヘハ其數許多アリテ且論理モ強シトス然レ此問題ハ之ヲ取捨スルノ考ヘノミニテ決スヘキニ非ス必スヤ此事例ニ於ケル性理上ノ事實ヲ細心ニ講究スル上ニ木ツキ直接ナル據證ニテ之ヲ決スヘキナリ故ニ今ハ斯ニ論進スヘシ然レ上ニ確定シタル如ク意ノ本體タル現象ハ何ナリヤ又既ニ定義ヲ示シタル如ク意ノ自在トハ其意味何如ト是進ムニ隨ヒ歩々心ニ存スヘキ所ナリ

當然ナル
行事障礙
ヲ受ルコ
非レハ意
ハ自在タ
ルヲ論ス

吾人自在ハ何如ト云フ觀念ヲ正シク作り得レハ意ハ本來的確ニ自在ニシテ我カ發陳セムト好ミ擇ヒタル執意ヲ發陳スルニ一物モ之ヲ遮キルコト無ク之ヲ抗拒スルコト無キ時ハ其自在タルコト著明ナリトス何トナレハ意ノ特別ニ固有シタル發作ハ上ニ云ヒシ如ク專ラ執意

偏倚ノ強
キハ、障
ナラサル
ヲ論ス

ヲ、發陳スルコトタレハナリ、然ル故ニ、其有スル自在ハ、何如ナリ、其執
意タケノ圈内ニ在ルヘク、其外ニ在ル可カラス、又其執意タケニ係ハル
ヘクシテ、他ノ所ヘ、係ハル可ラス、而テ又、意ノ自在ニ、何如ナル縛束、若ク
ハ、乏缺アル、亦其疆界内ニ於テセサル可ラス、余今、余カ好ム所ヲ正シ
ク爲サムト、思ヒ得ル時ニハ、余カ意ハ、自在ナルナリ
今若、此事タニ、然ル時ハ、第一偏倚ハ、強ク、是徒事ニシテ、絶テ意ノ自在
ヲ、減縮シ得サルハ、明カナリ、又偏倚ノ強カラサル時ハ、固ヨリ言フヘキ
無シ、蓋シ偏倚ハ、意ノ自在ヲ、遮キルニハ、非ス、意ノ本體ナル元行タルヲ
ヤ、故ニ、自在ト云ヘハ、其中預メ、偏倚アル意ヲ含メリ、何トナレハ、人若、願
ヒテ擇ヒ取レル所ヲ爲シ得ル時、其好ム如ク、爲サムト、偏倚スルハ、甚タ
強ケレハナリ、誰ニテモ、是ニ因テ、愈、自在ナルニ、非ルハ、莫シ、是意ノ發作
ニ於テ、眞ニ然ルハ、猶他ノ作用ニ、於ケルカ如シ

偏倚ノ源
由ハ、此講
究ニ、絶テ
屬セサル
ヲ論ス

遮障ハ外
部ニ在テ
擇取ヲ攪
動スヘキ
ヲ論ス

〔第二〕其他、意ノ自在ハ、偏倚ノ源由ト、絶テ關涉セサルハ、明カナリ、况ヤ、其
強弱ヲヤ、余之ヲ擇取スル源由ハ、何物ニ在ル、何物カ、能余ヲシテ、斯ニ
至ラシメシ、是總テ岐異ナキ事ニテ、余其一定ノ事ヲ、爲サムト、擇取ヲ
有シ、偏倚ヲ有シ、此ノ如キ性質ヲ有シテ、此一定ノ執意ヲ、發陳ス、余ハ、此
事ヲナスノ性質アリテ、之ヲ爲スヲ得ト、此ノ如クナレハ、余自在ニシテ、
余カ意ハ、自在ナルナリ、故ニ、余今、我カ偏倚若クハ、性質ニテ、何如ニシテ、
斯ニ至リシカハ、絶テ關係ナキ事ニテ、唯一問題ハ、之ヲ爲ルニ、自在ナリ
ヤト、云フ一句ニ在リ
且又、上ニ云ヒシ所ニ據レハ、若意ノ上ニ、何ニテモ、實ニ束縛アリ、其運行
上ニ、自在ノ缺乏アルカ、若キハ、此物外部ノ物ヨリ、發セサルヲ、得サルコ
ト、明カニシテ、其物ハ、意ノ外ニ居テ、外部ヨリ、來ル者ナルカ、上ニ、カノ選
擇ニ方リ、我ニ妨碍ヲ爲スカ、如ク、此ノ如キ方法ニ於テ、來ラサルヲ、得サ

ルナリ、何トナレハ、選擇ノ中ニ、自在ノ元行、在レハナリ、然レ、我カ選擇ヲ、妨碍スル者ハ、是全ク我カ爲サムト、思フ事ヲモ、妨碍スヘシ、故ニ、其作用ハ既ニ、有意ノ作用ニハ、非ルナリ、選擇ハ、執意ニ、少ク可ラスシテ、其眞個ノ元行タリ、上ニモ云ヒシ如ク、意ノ作用ヲ、發スルニハ、擇フト、思慮スルト現ニ、其一ヲ取ルトノ、自由無キヲ得ス、執意ト云ヘハ、預メ此事アリト定メ、此事ノ上ニ、基ツクナリ、故ニ、何ニテモ、此事ノ障礙タル者ハ、併セテ、執意ノ障礙タルナリ、今若、何物ニモセヨ、一定ノ事ニ就テ、余絶テ、選擇ヲ爲ス能ハス、絶テ其一ヲ取ルコト、能ハサル如ク、余カ心ヲ、此ノ如キ景況ニ、至ラシムレハ、是即チ余ハ絶テ、其事ニ就テ、執意ヲ有セサル景況ニ、至リタリト謂フヘシ、此ノ如キ事例ヲ以テ、自在ノ問題ヲ、臆測スルハ、亦過ラスヤ、蓋シ、執意ノ無キ處ニハ、勿論、執意ノ自在モ無ク、自在ノ缺乏モ、莫カルヘシ、意ノ自在ト云フハ、我カ好ム如ク、之ヲ思フ勢力ナルニ、斯ニハ、

諸種ノ假
定ヲ論ス

我カ好ム所ト、擇ヒ取ル所トヲ、有セサレハナリ、然ルニ、今余、選擇ヲナスニハ、障礙無ケレバ、唯我カ選擇シタル所ヲ、現ニ執意ニテ、成シ遂ルコト、即チ、我カ選擇ノ如ク、成サムト、思フコトニ、障礙アリト、假想セムニ、此時ハ、其作用モ、亦既ニ己ニ、本來ノ執意ニハ、非ス、意ノ作用ニハ、非ルナリ、何トナレハ、此ノ如キ作用毎ニ、必ス少ク可ラサル元行、即チ、選擇ハ、斯ニ存セサレハナリ、今若、余ハ固ヨリ、選擇ヲナス、然レ、是斯ニ存セス、所謂執意中ニハ、表ハレスシテ、他ノ方向ニ存スト、謂ハ、是其實、總テカノ吾人ノ所謂執意ト、相反スルナリ、余未タ曾テ、此ノ如キ執意アルヲ聽カス、人ヲシテ、皆此ノ如キ現象アルヲ、怪シマシメムトス、然リ而テ、果シテ此ノ如キ事アリトセハ、是執意ニハ、非ス、意ノ作用ニハ、非ス、有意ノ作用ニハ、非ルナリ、是ヲ以テ、何ニテモ、我カ選擇ヲ拒ミ、若クハ、余我カ選擇ノ如クニ、執意ニ發陳スルコトヲ、拒マムトスル者ハ、其實、

尋常視ル
所ノ如ク
其境界ヲ
立ルコト
其實一ナ
ラサルヲ
論ス

既ニ我カ爲サムト思フコトヲ全ク拒絶シタルナリ、此中ニ若意ノ作用
在リトセハ其意ノ作用ハ其眞性ニ於テ自在ニシテ自在タルヨリ外ニ
他事莫カルヘシ、今汝余ヲシテ選擇ヲナサシメ其選擇ノ如クニ執意ヲ
發陳セシメハ是汝我カ意ヲシテ自在タラシムルナリ、而テ是ニ反セハ
是汝全ク我ヲシテ爲サムト思ハシメサルナリ
カノ意ハ自在ナラスト争フ者ニ至リテハ其經界ヲ遙カニ選擇ヨリ前
ニ立テタリ其言ニ以謂ヘラク其選擇ハ偏尙ニテ管束セラレ偏尙ニ本
ツキ選擇スル者ナリ、而テ其偏尙ハ境遇ノ上ニ關ハリ教育禮俗風習等
ヨリ來ル者ニテ而テ此等ノ事ハ大率吾人ノ管轄外ニ在ル者ナリ、故ニ
此等ノ境遇同一ナル時ハ其人爲ス所ノ事即チ其境遇ノ勢然ラシム所
ニシテ他ニ從事スルノ道ヲ擇フコト能ハサルナリト余之ニ應ヘテ以
謂ヘラク是既ニ上ニ云ヒシカ如ク意ナル者ハ吾人之ヲ發陳セムト擇

ヒタル時一物モ其執意ヲ發陳スルコトニ障礙トナリ之ヲ拒絶スルコ
トタニ非レハ本來ヨリシテ正シク自在ナリ、然ルニ今我カ選擇ヲ管束
シ我カ自在ヲ克スト假定シタル者其境遇中ニ在ル時ハ即チ其境遇中
ニ我カ擇フ如ク之ヲ爲サムト思フ時障礙ナル者アリテ之ヲ拒絶スル
コト有リトスルカ其人偏尙ニ因テ強ク一定ノ選擇ニ向フ所ノ事實ハ
カノ施行上ノ執意ノ形狀ニ於テ其選擇ヲ發陳スルコトヲ拒絶セリト
謂フヘキカ蓋シ其事タル大イニ之ニ反シテ偏尙ハ其人ヲシテ之ヲ爲
サシムルノ眞個ノ境遇タルヲヤ故ニ凡テ其以テ争フニ足レリト爲ル
所ノ者ハ其假定セル偏尙一定ノ選擇上ニ注向スル時ハ他ノ別異ナル
選擇ヲ爲サムトスルモ之ヲ拒絶スルニ至ラムトスト云フニ在リ、然レ
是一モ我意ノ自在ト云フ問題ニ關スルコト無シ蓋シ意ノ自在ハ偏尙
スル所ヨリモ他ニ擇ヒ好ム所ヨリモ他ニ擇フヘシト云フ勢力ニハ關

偏尙ノ自在ハ意ノ
自在ナラサルヲ論ス

セス唯其好ム所ヲ擇フノ勢力ニ關スルコト前ニ云ヒシ如クナレハナ
リ余又再ヒ問ハムトス果シテ然ラハ其偏尙ト性質トヲ鑄造陶冶セム
トスル所ノ境遇中若クハ境遇ノ湊合セル中ニ何ノ力カアル而テ其力
タルヤ徒ニ境遇ニ存シテ其人ニ及フコト無シヤ其我ヲシテ擇フ所好
ム所偏尙スル所ニ從ヒテ之ヲ爲サスト思ハシムルコトヲ拒絕スルカ
ト偏尙トハ何如シテ其境遇中ニ存スルカ曰ク否若我カ意ヲシテ全ク
作用ヲ爲サシメハ既ニ云ヒシ如ク其作用タル唯此道ニ於テスヘク故
ニ其作用ハ自由ナラサルヲ得ス
曰ク然リト雖モ其人唯好ム所其時偏尙スル所ノ外別ニ好ミ別ニ偏尙
スルノ勢力無シト假想セハ何如余之ニ應ヘテ曰ク是此問題ニ一モ關
スルコト無シ子カ所謂假想ハ以テ意ノ自在ヲ除去ス可ラス又限局ス
可ラス是畢竟意ニ關セスシテ唯情ノ自在ニ關ス今ソレ我カ好マサル

感性ハ自
在ナルカ
ヲ論ス

所ヲ好ムヲ得ルカト云ヒ又我カ好ミ擇ヒタル所ノ執意ヲ發陳スルヲ
得ルカト云フ是二個別異ナル問題ナリ而テ余又再ヒ復言スヘキコト
アリソレ吾人意ノ自在ハ我此若クハ彼ノ選擇ヲ爲ス上ニハ關セスシ
テ何如ナル選擇ニテモ執意トナシ得ル時之ヲ發陳スルヲ得ル上ニ關
ス又我カ擇ヒタル所ヨリモ別ニ之ヲ爲サムト思ヒ得ル上ニモ關セス
又我カ今爲ス所ヨリモ別ニ之ヲ擇フコトヲ得ル上ニモ關セスシテ唯
我カ擇ヒタルニ從ヒテ之ヲ爲サムト思ヒ得ル上ニ關シ其擇フ所ノ何
如タルヲ論セサルナリ
然ラハ則チ吾人ハ實ニ情ノ自在ヲ有スルカ譬ヘハ一定ノ境遇中ニ處
シテ今受ル所ノ攪動ヨリモ他ノ攪動ヲ受ケ今感動スルヨリモ他ニ感
動スルヲ得ヘキカト余之ニ應ヘテ曰ク情ノ動ハ意ノ元行ニ非ス意ノ
直チニ管束スル者ニ非ス嚴ニ限定スレハ有意ニハ非ス故ニ一定ノ事

例ニ當リ、汝カ感動ト、汝カ偏尙トハ、何如ニ有リ得ルモ、皆是境遇ノ甚々
諸種ナルニ從ヒテ、差異アル者ニテ、汝ハ、情ノ發動ニ就テ、直チニ意ノ勢
力ヲ有セス、汝唯、汝自己ニテ、有意ノ行事ヲ制シテ、以テ能ク其情ヲ増減
縱制シ得ルノミ、然レ、是亦、情ノ生スルニ方リ、意之ヲ堪ユルノ度ニ、關ス
ルノミ、今ソレ、汝カ品性ハ、汝カ管轄内ニ在リトス、而テ、之ヲ制縱スルニ
方リ、少シモ、一様法ニ於テ、情緒ノ性質分量ヲ、限定シ得ヘシ、是何レノ境
遇ニテモ、汝カ胸懷中ニ、生スル所ナリ

然リ而テ、其事ノ何如タルニ、拘ハラズ、是此論題ナル疑問ト、少シモ、相關
セサルコトニテ、感動ノ自在ト、意ノ自在トハ、絶テ同一ノ事ニ非ス、前論
ニテ、既ニ、吾人ノ偏尙ト、選擇トノ中間ニハ、一定確立ノ連絡アルコトヲ、
論シタリ、是意モ亦、然ル者ナルヘキニ、意ハ、十分自在タリト、謂フヘキカ
ト謂フニ過キス、是論定スヘキ大事項ニテ、之ヲ固守スルニハ、其他ノ據

二問題ノ
全ク異ナ
ルヲ論ス

此見解ノ
上帝ノ治
理ニ關ス
ル何如ヲ
論ス

證ヲ要セサルコト、見ユ、今若、此事ヲシテ、果シテ、然ラシメハ、意ノ自在
ニ就テ、其問題ヲ、決スルニ足ルヘシ
上ノ見解ニテハ、其境遇ヲ構造シ、事件ヲ發起シ、之ヲシテ、其人心ニ、動機
ヲ生セシムル如クニ、之ヲ按排布置シテ、一定ノ流道ニ誘ヒ至リ、其偏尙
ヲ、管束結定シ、其選擇ヲモ、一定セシメ、竟ニ、其人ノ躬行ヲモ、管束確定ス
ルノ權力ハ、全ク、上帝ノ上ニ存シ、專ラ、上帝ニ、委シタルニテ、又同時ニ、人
ハ、其好ム所ノ執意ヲ發陳シ、其好ム所ヲ爲スハ、十分自在ナリト、觀タル
ナリ、此事項ニ就テハ、人意ノ自在ト、連絡スル上帝ノ勢力ニ就テ、再ヒ此
問題ヲ、論スル時ニ、余更ニ、論復スヘシ

第四篇 前論ト相係ハル、疑問ノ一説ヲ論ス

第一章 意ニ反スル選擇

前篇ニテ、余カ注意ハ、意ニ就テ、性理上ノ事實ト、并ニ又、意ノ自在ニ就テ、

疑問ヲ述

普通ノ問題ノ上ニ指定シタリ此一大問題ト密ニ連絡シ其講究ノ中ニ
 含蓄シテ同一性質ナル一事項アリ此研究モ全ク忽略ス可ラサルカ爲
 ニ其論題ニ就テ斯ニ道ヲ開クナリ曰ク吾人ハ此ノ如キ勢力ヲ有スル
 カ既ニ上ニ云ヒシ如ク自在ハ意ノ眞個ノ性タル者タレモ一定ノ境遇
 ニ處シテハ其時爲ス所ヨリモ別ニ選擇シ得ル如ク此ノ如キ自在ヲ有
 スルカ今凡テ周匝ノ事物ハ目前ノ如シトシ余苟モ執意ヲ發陳スル時
 ハ其瞬間ニ其執意ノ代リニ其處ニテ別ナル執意ヲ發陳スルコトヲ得
 〇〇ヘキヤ否ヤト云フ疑問ナリ

前論ト同一ナラサルヲ論ス

此問題ハ意ノ自在ニ就テノ問題ト同一ナル者ニ非ス蓋シ斯ニ論スル
 問題ノ如ク此ノ如キ勢力無シト雖モ意ノ眞ニ自在タルハ既ニ上ニ示
 シタルカ如ク我カ好ム如ク執意ヲ發陳シ得レハ其ノミニテ我カ意ハ
 自在ニテ現實ノ執意選擇ノ代リニ他ノ執意他ノ選擇ヲ交換スルノ勢

此ノ如キ勢力ハ恐
 ヲシハ發陳ス可ラ
 サルヲ論ス

力ハ有無共ニ此論内ニ在ラサレハナリ
 此ノ如キ勢力ハ吾人之ヲ有スルト有セサルトニ關セス其問題ハ切要
 少キ者タリ而テ之ヲ有スルト有セサルトニ關セス一事ノ的確ナルハ
 吾人恐ラクハ之ヲ發陳スルコト無キナリ今一定ノ事物皆其現ニ存ス
 ル如ク存ストナシ其中ニ我カ心ヲ傾注セシメ誘入スル者アリテ現ニ
 其心ノ爲ス如ク之ヲ擇ハシメ之ヲ作用ニ發セシメハ即チ是之ヲ爲ス
 ノ勢力アリテ意ニ反スルノ勢力ハ無ク其選擇ハ其有タル如クニ有リ
 テ此體驗ヲ反覆シテ千百度ニ及フモ同一タルヘシ何トナレハ選擇ハ
 其選擇ヨリ前ナル境遇ト誘引ト此心ノ偏尙トニ係ハレハナリ故ニ偏
 尙一タヒ定マリテ確立スル時ハ偏尙ニテ誘引シタル選擇ハ亦確立ス
 ルニ至ルヘキコト明カナリ是ヲ以テ其存在スル偏尙ニ反シ現在作用
 ニ誘引セラレタル所ニ全ク相反シテ選擇ヲナスモ是既ニ全ク選擇ニ

ハ非スシテ其語ノ上ニ反言對ヲ生スルナリ是ヲ以テ意ニ反スル選擇ヲ爲スノ勢力ハ其事例ノ性質ヲ審カニスル時ハ絶テ爲ス可ラサルノ事ニ屬シ其選擇ヲ爲サル前即チ偏尙ノ生セサル時ニ溯洄シテ之ヲ變スルニ非レハ曾テ之ヲ求ムヘキノ術無シトス

然ルニ此ノ如キ勢力ハ存在スルカヲ論ス

然ルニ此ノ如キ勢力或ハ之ヲ用ウヘキカト云フニ非スシテ此勢力ハ存在スルカト云フニ在リ其選擇ハ云々若クハ云々ニ在ルヘキカト云フニ非スシテ別様ニ有リ得ヘキカト云フニ在リ蓋シ以謂ヘラク今運用ノ流道諸種アリテ何レモ行フヘキ事トシ皆我カ選擇ニ供スル者タル時其全部中ニテ吾カ從事セムト思フ所ヲ唯一ツ選擇抽取シタル時ハ此境遇ノ未タ易ハラサル處恰モ其瞬間ニ於テ其選ヒタル流道ノ代リニ別ニ他ノ流道ヲ取ラムトスル勢力ハ吾ニ在テ之ヲ有スルヤ即チ吾カ選擇ハ其目前ニ在ル所ヨリ別ナルヲ得ルカト云フナリ

此ノ加キトスルハ其意味何如ヲ論ス

今余ハ抽象上ニテ此事有リ得ヘシト假想シ得ヘシ蓋シ勢力ト偏尙トハ二個ノ別異ナル者ニテ作用ヲナス勢力ハ其一トシ又其勢力ヲ陳發スル偏癖ハ他ノ一トス故ニ致知家ノ理ニテハ其一ツノ中ニ他ノ一ツヲ包含スル者ニ非スシテ勢力ハ偏癖ニ依ラスシテ存シ偏癖ハ勢力無クシテ存スヘシ故ニ致知家ノ理ニテ抽象シテ論スレハ偏尙無キ時ト雖モ選擇スル勢力ハ存セリトス今汝唯偏尙ノ要スル所ヲ充テムトスレハ勢力ハ同時ニ發陳シテ選擇ヲナシ而テ作用ハ依テ以テ成ルニ至ルヘキノミ然モ其偏尙ハ變ストモ依テ以テ新タニ意ノ勢力ヲ創造スルニハ非ス其偏尙ハ唯素ヨリ存スル所ノ勢力ヲ所要ノ方向ニ轉スル耳

第二章 吾人行フヘキ偏尙ナキ事ヲ行フ勢力

上ニ論シタル問題ト密ニ類似シテ又一ノ問題アリ是畢竟其實同一問

他ノ形狀

ノ問題ヲ
論ス

七十六

題ノ其形状ヲ異ニシタルコトヲ吾人事ヲ爲サムト思フ瞬間ニ於テ其瞬間ニ方リ之ヲ爲スノ偏尙無キ事ヲ爲サムト思ヒ得ルカト云フ講究ナリ吾人ハ之ヲ爲スノ志尙ナキ事之ヲ爲スヲ願ハサル事ヲ爲シ得ル如ク此ノ如キ勢力即チ自在ヲ有スルカ今我カ志尙ハ一定ノ流道ニ從ハムトスル時他ノ流道ニ從フコト實ニ我カ勢力内ニ在ルカト云フ問題ナリ

此事何如
ナル勢力
中ニ存ス
ルカヲ論
ス

今ソレ吾人我カ願フ所我カ爲サムトスル志尙アル事ヲ爲シ得ルハ人皆許ス所ナリ然ルニ此勢力ハ何如ニシテ存スルカト云ヘハ是其發陳スル勢力ハ何等ノ種類ノ作用ナリヤト云フコトニ係ハルナリ今其作用ハ形體上ノ事タリト假定スレハ其時我カ願フ所ヲ爲スノ勢力ハ我其事ヲ爲スニ應シタル形體上ノ官具ヲ有シテ之ヲ我カ意ノ命令ニ從ハシメ得ルノ上ニ存ス又其作用ハ靈智上ノ事タリト假定スレハ其時

然ル其志
尙今缺乏
セリト假
定シテ之
ヲ論ス

七十七

我カ願フ所ヲ爲スノ勢力ハ我其事ヲ爲スニ所要ナル心意ノ能力ヲ有シテ之ヲ我カ管轄ニ從ハシメ得ル上ニ係ハルナリ然レハ今余形體ニテモ心意ニテモ一定ノ作用ヲ爲サムトスルニ所要ナル能力ヲ有シテ此能力余カ意ノ管轄ニ屬スル間ハ其勢力斯ニ存スルニテ余好ム所ヲ爲サムトスルノ勢力障害無ク十全ナル間ハ余好ムニ從ヒテ其能力ヲ發陳シ得ルニテ譬ヘハ遊歩シ若クハ算題ノ點標ヲ加フルカ若キ皆自在ノ勢力ナリ

然ルニ今其志尙ハ缺ケテ有ル無シト假定セヨ由テ以テ勢力モ亦消滅セリトセムカハ猶存セリトセムカト云フニ余ハ以前ノ如ク同一ノ能力ヲ有シ其能力ハ十分ニ意ノ管轄下ニ屬スルコト前時ノ如クナルヘシ是即チ余カ從來ヨリ有シタル勢力ノ全量タルナリ此ノ如クナレハ余カ我ニ爲サムトスルノ志尙無キ事ヲモ爲スノ勢力ヲ有ス故ニ余

此勢力或ハ能之ヲ發陳スヘキカヲ論ス

然也吾人ノ作用ハ必至ニシテ避ク可ラサル者ニハ非ル

カ好ミテ爲シ得ル所ノ事ハ好マサル。時モ亦之ヲ爲シ得ヘシ。是ヲ以テ唯其勢力ノミニテ論スレハ事ヲ爲スノ勢力ハ之ヲ爲ムトシ之ヲ爲サハラムトスルノ偏尙ニモ志尙ニモ關セスシテ全然完備ナリト謂フヘシ。然レ此ノ如キ勢力ヲ發陳スルコト曾テ所要ニ屬スヘキヤト云ヘハ其偏尙ノ存セスシテ續ク間ハ其發陳無キコト的確ナリ何ニテモ事ヲ爲ス爲ニハ之ヲ爲スノ勢力有ルヘキ耳ニ非ス兼テ志尙有ルヘシ若偏尙ヲシテ缺ケシメハ勢力ハ存スト雖レ曾テ發陳スルニ至ラサルヘシ然ラハ則チ吾人ハ事ヲ爲サムトスル瞬間ニ偏尙ヲ生スルニ至ラサル事ヲ爲スニ實ニ乘スヘキノ勢力ハ有セサルナリ果シテ然ラハ其一定ノ時刻瞬間ニハ其現時ノ偏尙ト選擇トニ因テ我ヲ鎖定シタルニ非スヤ果シテ然ラハ吾人ハ避ク可ラサル必至ノ嚴法下ニ屬シ我カ爲ス如

ヲ論ス

現時ノ選擇ノ必至ナラサルヲ論ス

クニ爲シ我擇フ如ク擇ヒ我カ偏尙ノ在ル如キ偏尙有ルハ皆命數ノ然ラシムル所カ曰ク否我カ偏尙ハ確定ノ分量アルニ非ス是皆變易スルヲ得ヘク一ニハ是皆智ノ理會ニ係ハリ理會ハ變易スルヲ得ヘシ一ニハ心意ノ情狀ニ係ハリ神護ハ此心ヲ變スルヲ得ヘシ一定ノ瞬間ニ於ケル目前ノ選擇ハ絶テ必至ノ勢アリシニ非ス他ノ選擇ヲ以テ之ヲ換フルヲ得ヘカリシ偏尙ニ諸種アルヘキコトハ固ヨリ有リ得ヘキコトニシテ之ヲ理會シ得ヘシ故ニ諸種ノ偏尙アレハ諸種ノ選擇ニ誘引スヘキコト固ナリ今余一度提出シタル流通ノ利益タリ快樂タリト視テ其利益快樂ノ思慮ニテ響動セラルハ時ニ其代リニ正義ト義務トニ於テ之ヲ視タル時ハ我カ選擇ハ別ニ爲シタル者タルヘシ何トナレハ余ハ別ノ動機ニ由テ響動ヲ受ケタレハナリ今二個ノ別ナル目的譬ヘハ甲ト乙トノ如キ者我カ心ニ表現シタル時其時ハ余甲

勢力ト云
フ語ノ用
法、諸種
ア

ヲ擇ヒタレトモ、乙モ擇フヘカリシ、而テ果シテ、乙ヲ擇ヒタラハ、是余カ偏
尙ハ、乙ニ在リタルナリ、何故ニ、今甲ヲ擇ヒタリヤト云ハ、其時、其事、我
カ心ニ、表現シタルヲ以テ、我カ偏尙、然リシ故ナリ、然レ、其時、事ノ全體中
ニテハ、我ハ、別ナル見解モ、取り得ヘカリシ故ニ、我カ偏尙ト、選擇トハ、亦
別ナルコトヲ、得ヘカリシ、其時、思慮シ、感動シ、作用ニ發シタルコトヲ、別
様ニ爲シ得ヘキハ、皆我カ勢力内ニ、存セシコトニテ、尙一層嚴ニ言ヘハ、
我其時、別様ニ爲シ得シノミナラス、猶別様ニ、感動發作スヘキコトニモ、
屬スヘカリシ故ニ、我ハ、其時、我カ偏尙ニテ、邪マナル選擇ヲ、爲シタラハ、
其偏尙ノ責ニ任シ、我カ感動ヲ、響動シタル説ト、見解トノ責ニ任シ、其事、
我カ自己ノ管轄内ナル理由ノ、結果タレハ、我カ偏尙ノ責ニ任スヘシ
總テ、其時ニ用ウル、本首ノ語意、何如ト、之カ定義ヲ明カニスルハ、講究ニ
須要タルコトナリ、故ニ、斯ノ事例ニテ、勢力、能、能シ得ル等ノ語ニテハ、吾

ルヲ論ス

人、其意義ヲ、解スル何如ト、是明カニ、説述スヘキ所ナリ、斯ニテ、此等ノ語
ヲ、用ウルコトハ、二義アリ、故ニ、斯ノ問題ハ、一部分ニハ、此差異上ニ、轉スル
ナリ
〔第一〕吾人、勢力ト云フ語ヲ以テ、凡テ事ヲ、現○實○ニ○行○フ○爲○ニ、須○要○少○ク○可○ラ
サル者ヲ、徴スル爲ニ、用ウルコトアリ、是何ニテモ、其勢力無キ時ハ、其事
ヲ、爲ス可ラサル如ク、爲ス上ニ、相連絡シタル者ナリ
又〔第二〕一層限局セル意ニテハ、唯吾人、其事ヲ好ミ、之ヲ爲サムト、擇ヒタ
ル時ニ、其事ヲ爲スニ、須要ナル者ノミヲ、徴スルニ、用キタリ、是何ニテモ、
我カ好ミ願フ所ヲ、爲ス爲ニ、須要タル者耳
此後ノ意味ニテハ、能ト爲サムト欲スルトノ、區別アリ、前ノ意ニハ、勢力
ト云フ觀念内ニ、其兩意ヲ含メリ、故ニ、現○實○ニ○事○ヲ○爲○ス○爲○ニハ、兩者ヲ具
ヘサルヲ得サルナリ、然ルニ、此勢力ト云フ語ハ、本來、此兩者ヲ含メル者

カ平常ノ言語ニテハ、吾人、此兩者ヲ區別スルコト、明確ニシテ、吾其事ヲ爲シ得ルト、吾其事ヲ爲サムト、願フトハ、別ナル命題ニテ、曾テ互ニ相混スルコト無シ、唯言語ノ寛假ニ因テ、時トシテハ、吾人、唯之ヲ願ハス、偏尙モ無キヲ徵スル時、爲シ得スト、云フコト有リ、今勢力ト、偏尙トニ就テ、問題ナル差別ヲ爲ス時ハ、吾人、之ヲ爲スコトヲ、願ハサル事ヲモ、爲シ得ヘシ、而テ若、其差別ヲナサスシテ、勢力ト云フ語中ニ、其勢力ヲ發陳スル偏尙ノ意モ、含蓄セリトセハ、吾人、爲スヘキ偏尙ナキ事ヲ、爲シ得サルナリ

第三章 動機ノ響動

第一 意ハ、必ス、陽象ノ至善ニ、向フ者ナリヤ

此問題、唯吾人ノ心ハ、其全體ヲ舉リ、凡百ノ境遇ニ於テ、爲サムト、思フコトノ、偏尙資質アル如クニ、之ヲ思フコト、必常ナルカト、云フ意ナリトセハ、是余カ既ニ、其問題ニ、答ヘタル所ナリ、然ルニ、其意味タル、一層深遠ナ

此問題ノ意味ニ就テ、其答ヘヲ舉グ

リトシ、依テ以テ、カノ吾人ハ、執意ニ於テ、必ス、利益、即チ、利ノ思慮ヲ、目的トシテ、作用ニ發スル者ナリヤト、問フノ意ナリトセハ、余將ニ、否定シテ、是然ラスト、答ヘムトス、蓋シ、此問題中ニ、含メリト見ユルハ、即チ、カノ利ナル者ハ、一定ノ行事ヨリシテ、吾人自己ト、他人トノ中ニ、或、方法ニ於テ、進達スル所ノ善ナリト、云フ事ナリ、余既ニ、情ト欲トニ就テ、其性理上ノ事實ヲ、述ヘタル時、吾人、行事ノ動機ハ、二個ノ相異ナル大源、即チ、欲ト、本分ヨリ、發スルコトヲ、著ハシタリ、欲ハ、即チ、自愛ニテ、概シテ、自然單純ナル情ヲ、含メル諸愛ヲ、指シ、而テ、本分ハ、義務ノ意味ナリ、又且、吾人ハ、唯快樂ノ見解ヨリノミ、動作スルヲ、常トセスシテ、又、正義ノ見解ヨリ動作シ且、此兩者、固ヨリ、同一ナル者ニ非ルヲ、著ハシタリ、然リ而テ、今ノ所謂、陽象ノ至善ト云フ者ハ、必スシモ、正義ニモ非ス、又、陽象ノ正義ニモ非ルナリ、是吾人、其差別ニ於テ、自ラ意識ヲ、有スル所ニテ、一ハ、此ヨリ取り、一ハ

所哥羅垓斯ノ哲學ノ非ヲ論ス

彼ヨリ取りテ、此兩動機ヨリ、作用ニ發スルハ、亦自ラ意識ニ存スル所ナリ、然リ而テ、今意ハ必ス、陽象ノ至善ニ準スル者ナリト、謂フハ、是凡百ノ執意ヲ、解釋シテ、快樂ヲ趕フ者ナリトシ、凡百行事ノ動機ヲ、解釋シテ、自愛ヨリ發スル者ナリト、スルナリ、是義務ノ感動ヲ、欲ノ感動中ニ、混沒シテ、其行事ニ於ケル、自ラ別ナル動機タルヲ、知ラサルナリ
是所哥羅垓斯ノ弊倫模範中ノ、一大僻見タリ、其說以謂ヘラシ、人ハ、其自ラ視テ以テ、善トナス所ニ、從フヲ常トス、是ヲ以テ、其自ラ視テ、正ナリトスル所ヲ、行フヲ常トス、何トナレハ、善ト正トハ、同一タレハナリ、然レ、時トシテハ、實ニ、陽象ノ善ヲ以テ、眞ノ善ト、誤認スルコト、無キニ非スト、雖正、唯爲ス所ハ、知ル所ニ準スルヲ、常トスト、此言、一步ヲ進ムレハ、罪業ハ、其罪業タケノ愚タリ、善行ハ、其善行タケノ知識タリト、云フ斷言ニ至ルベシ、是今日ニ在テ、論題ナル學理ヲ、奉スル論者ハ、絶テ左袒セサル所ノ

斷言ナレハ、カノ巧詭ナル哲家ト、至當ナル致知家トニ、至リテモ、道ル、能ハサル所ナリ

第二 意ハ動機ノ最モ強キ者ニ因テ、定メラル、者ナリ

最○強○ノ○字、此○ノ○如○ク、用○ウ○ル○何○如○ク○論○ス

斯ノ連絡ニテハ、最○強○并ニ定ムルト云フ字ノ、意義何如ニ、關スルコト、許多ナリ、最モ強キ動機ト、云フ語ニテ、其時ニ方リ、旺スル動機ヲ指シ、其見解ニテ、此心ノ裁定發動スル者ヲ、徵スル時ハ、唯一問題ニテ、旺スル動機ハ、現ニ旺スルカト、云フニ外ナラサルナリ、其動機旺スト云フハ、猶是、直杖ハ直杖ナリト、云フカ如ク、同一ナリ、果シテ然ラハ、汝、最モ強キ動機ト云フ語ニテ、他ニ指ス所無キカ、今之ヲ定ムト欲シ、唯其生スル所ノ效驗ニ依テ、之ヲ辨定スルニ非サレハ、其動機ヲ量定シ、其強弱ヲ測量スルニ、汝、ハタ、何等ノ測器ヲ有スルカ、又今、兩動機アリト、假定シタル時、其時

定ムルト
云フ語ヲ
論ス

旺シタルハ強キ者ニ非スシテ、弱キ者タリシコト有ルカ

然ルニ又疑問ヲ轉シテ定ムルト云フ語ニ至リ、意ハ其時旺スル所ノ動機ニ因テ定メラル、者ナリヤ、凡テ何ニテモ、動機ニ因リ、外物ニ因テ定メラル、者ナリヤト、此ノ如ク問フ時、此語ニテ指ス所、即チ此語ノ含メル旨意、動機トハ、心ノ發作ヲ生スル源由ニテ、其心自己ヲ指シテ、動機トナサストセハ、余ハ則チ否定シテ、意ハ至強ナル動機ニテモ、又ハ他ノ物ニテモ、此ノ如クニ外部ヨリ定メラル者ニ非スト、謂ハムトス、蓋シ意ハ直チニ其心ニテ、即チ其靈魂ノ云々セムト、思フ者ナリ、故ニ其作用ハ自己ニテ定ムル所トシ、他物ヲ假ラス、自己ノミニテ定ムル所トス、今汝ノ旨趣、唯動機ハ意ヲ響動シ、能意ト共ニ旺シ、依テ以テ意ノ裁決ニ方リ、現ニ意ノ然ク爲スハ、何ノ道理ニ由レリト、云フ意ナリトセハ、是余カ既ニ其真タルヲ示シタルカ如ク、此意味ニテハ、動機ニテ執意ヲ定ムルコト、

源因ナル
語ノ不當
ナル用法
ヲ論ス

固ヨリ疑ヒ無シ、是猶林檎ノ其樹ヨリ落ルハ、初頭必ス重力ノ理法ニ生シ、依テ以テ斯ニ至ルト雖、其落ル時、取ル所ノ各自ノ方向ノ如キハ、偶然ナル境遇ニ係ハリ、其落下ノ時、遇フ所ノ障礙ニ因テ定マルカ如ク然リ、故ニ其障礙ハ、一ノ意味ニテハ、其動ヲ定ムル者ト、謂フヘク、是即チ其果ハ、現ニ落チタル如ク、落チテ他道ニ出テスト、云フ事實ノ理由解釋ナリ、然レ之ヲ以テ、其動ヲ生スル源由トハ、謂フ可ラス

第三章 動機ハ源因ニシテ執意ハ應效ナリヤ

一種ノ著述家ニ在テハ、動機ヲ以テ作用、即チ執意ノ源因トシテ、述ルヲ常トセリ、是縱ヒ全ク正當ニテ許可スヘキモ、此語ノ好用法ナラサルハ、確然タリ、今本來ノ用法ナラハ、起動者ハ作用ノ源因ト、謂フヘク、而テ執意ニテハ、靈魂、起動者タリ、故ニ嚴ニ、此心ノ作用ノ効力アル源因ヲ究ムレハ、即チ此心ノミ、動機ハ、此心ノ何故ニ作用ニ發シタリト、云フ道理ノ

誤解シ易キヲ論ス

源由ニテ此作用ヲ生スル源因ニハ非ス尋常ノ說話ニテハ此差別ヲ恒ニ遵用セサルナリ故ニ吾人云々ノ道理ヲ指シテ云々ノ事アル故ニ此事ヲ爲スト云フナリ然レバ哲家ノ論究ニ於テハ一層精密ヲ加フルヲ要ス

上ニ指ス所ノ語ノ用法ハ用意無キ讀者聽人ヲ誤解ニ誘ヒ易キヲ以テ殊ニ之ヲ避クヘシ何トナレハ是物理必至即チ抗拒ス可ラスト云フ觀念ヲ提起スレハナリ今重力ノ理法アリトスレハ支柱無キ物體ハ必定落チサルヲ得ヌシテ絶テ選擇ヲ得ル無ク又執意ヲ得ル無シ然リ而テ此心ノ執意ニ於ケル發作ニハ其本體少ク可ラサル性質ハ有意ニシテ直チニ強逼ノ觀念ト相反スル者ナリ蓋シ此語ヲ此ノ如ク用ウル人ハ此ノ如キ意味ヲ不是トシテ一般ニ慎重ナルハ固ヨリ論無シト雖モ尋常ノ用法ニテ吾人源因ト云フ語ト伴生ノ理法ニ因テ動モスレハカノ

心理必至ト云フ言句ヲ論ス

古昔尋常ノ考ヘタリシ純然タル物理必至ノ類ノ觀念中ニ知ラズ識ラズ陥入シテ之ヲ避ケムトスルモ硬難ナルニ至ルコトアリ是ヲ以テ動機ハ云々ノ作用ヲナス理由ナリト云フノ勝レルニ如カサルナリ是ヨリ深ク入りテ動機ヲ執意ノ源由ナリト呼フハ此語ノ用法ニ於テ正シキニモ非ス好キニモ非ス蓋シ依テ以テ或ハ響動ハ抗拒ス可ラス事件ノ生スルハ避ク可ラスト云フ觀念ヲ致スコト有ルヲ以テ汝カ意ニテ其誤解ヲ慎マサル可ラス

上ト同一ナル辨駁ハ此事ニ就テ用井タル心理必至ト云フ言句ニ就テ猶一層大イナル力ヲ有スヘシ蓋シ此語ヲ用ウル人ハ固ヨリ用意深ク多分ハ其意味ヲ限局シテ依テ以テ純全ナル必至ヲ指スニ非レバ唯其作用ノ發スル的確ナルヲ徴セムカ爲ニ其意ヲ示サムトナリ然ルニ此語タルヤ必ス恒ニ凡テ此ノ如キ開示ト相反シテ又必ス恒ニ他ノ一層

強キ意味ヲ提起スルナリ、本來ニテ言ヘハ、凡百ノ事、我カ意ト好ミト、關係スルコト無ク、之ヲ避ク可スシテ、必ス至リ、其存スル如ク存スルヨリ、他ニ法無キ者ニシテ、始メテ、必至ト謂フヘシ、今、意ノ作用ニ就テ、之ヲ必至ナリト、謂フコト、此意味ニ用ウル時ハ、自語ノ反言對ニテ、浹洽ノ意無シ、此二個ノ觀念ハ、固ヨリ、同立合一ナル、可ラサル者ナリ

人ノ執意ハ、某ノ方ニ向フヘキコト、的確ナルコト有リ、而テ、之ヲシテ、的確ナラシムル者ハ、動機ナリ、然レ、今指ス所、唯是ノミナラハ、之ヲ言フモ、是ニ限リテ、是ヨリ越エサルヲ、勝レリトス、故ニ指ス所、唯斯ニ止ラハ、執意ハ、其語ノ本來ノ意味ニテ、必至ナリト、指スニ非ス、果シテ然ラハ、必至ト云フ語ヲ用キテ、吾人必至ヲハ指サス、唯的確ヲ指スナリト謂フハ、無益ナリトス、蓋シ、此語ノ用法ノ、好カラサル上ニ基キテ、カノ動機ト執意トノ連絡ヲ論スル、眞個ノ學理ニ對シテ、至強ナル辨駁ヲ起スニ至リシ

眞ノ連絡
ヲ論ス

コト、明カニシテ、カノ方今必至學ノ大家ノ一人ナル、彌爾サヘモ、此語ノ用法ヲ擯斥シテ、之ヲ委棄セムコトヲ、慫慂セリ

然ラハ、則チ、動機ト執意トノ連絡ハ、何如、曰ク、ソレ執意ト、動機トノ中ニ、此ノ如キ連絡アルコト、動機無クシテ、執意ノ曾テ起ラサルコト、此兩者ハ、前唱後和トナリテ、相關スルコト、動機ハ、縦ヒ、執意ヲ生スル、源由ナラスト、雖レ、猶其理由ニシテ、依テ以テ、執意ヲシテ、現ニ存スル如ク存セシメ、他道ニ出テシメサル者タルコト、總テ此般ノ事ハ、皆余カ可トスル所ニシテ、動機ハ、執意ノ存在ニ機會ヲ假シ、依テ以テ、執意ノ品性ヲ解釋スヘシトス、然レ、性理學ニ於テ、此物ニ就テ、許ス所ハ、唯此ノ如キニ止マレ耳、此境界ヲ越ユレハ、一モ許サ、ル所ナリ、然リ而テ、今、動機ハ、源由タリ、執意ハ、效驗タリト、言ヒテ、以テ、之ヲ固守スルハ、此境界ヲ越ユル、一層ナリト見ユ、然ルニ、吾人、此ノ如キ意思ヲ、除キ去ルト雖レ、動機ハ、眞ニ生

スル源由タルカ如ク、心ハ其源由ヲラサル如ク、執意ノ動機ヲ繼クハ、抗拒ス可ラサルカ如ク、竟ニ心ヲ以テ、徒ニ機器ト見、動機ノ促カス所ニ從ヒ、執意ヲ發陳スト、見ルニ至ルナリ、是ヲ以テ、刀鑿ノ工匠ノ手裏ニ於ケル唯受動ノ一器械タルニ過キス、全ク其發達スル效驗ヲ生スル源由ニ、非サル者ト、同一視スルニ至ルナリ

然レ、此兩事例ノ中ニハ、大ナル差異アリ、鋸ヲ壓スル壓力ハ、抗拒ス可ラサル效驗ヲ生スト、雖レ、動機ハ、其壓力ノ如ク、然ルニ非ス、鋸ハ、受動ノ器械タリト雖レ、心ハ、鋸ノ如ク、然ルニ非ス、蓋シ孰レノ事例ニテモ、前唱ト後和トノ間ニ、一定ノ連絡アリ、然レ、其連絡ノ性質ハ、甚々異ナル者ニテ、其差異タルヤ、最大切要タリトス、是即チ、源由ト、理由トノ二語ニテ、指ス所ノ差異ナリ、今一定ノ事件起ル時、之ヲ解釋スルニハ、此別、截然混ス可ラス、其一ハ、物質ノ器力上ト、其運用ニ用ウヘク、他ノ一ハ、靈智理性上、有

兩事例ノ差ヲ論ス

然レ、此心ハ其自己ノ執意ヲ生スル源由タルカノ問題ヲ論ス

意ノ起動者ニ用ウヘシ、故ニ、林檎ハ、何ヲ以テ、落ツルト云ヘハ、源由アリ、而テ重力ナリトシ、此心ハ、何故ニ發作シ、思念スルト云ヘハ、理由アリ、而テ動機ナリトス
心理必至ノ説ヲ主張スル者ハ、之ヲ否定セリ、學士哇德瓦爾的エドワ曰ク、若吾人、此ノ如クニシテ、執意ヲ因縁スヘキ時、ハ、是因縁ノ作用ニ依ルヘキコト、疑ヒ無シ、何トナレハ、吾人、因縁ノ作用、無クシテ、何事ニテモ、之ヲ因縁シ起スコト、能ハサレハナリ、故ニ、今吾人、之ヲ自在ニ、因縁スルナリト、假定セハ、其因縁ノ作用ハ、自在ナル作用中ニ、存スヘク、即チ、意、所謂、執意ノ發用中ニ、在ルヘントシ、而テ、凡テ吾人、執意ハ、吾自己ニテ、之ヲ因縁シ起ストノ、假定ナリトセハ、其因縁ノ作用ハ、他ノ因縁ノ作用ニ、因縁セサルヲ得スシテ、此ノ如クシテ、無窮ニ至ルヘシ、是心ヲ以テ、起動ノ源由トスルハ、有ル可ラス、又理會ス可ラサルノ事タリト、是其意、以謂ヘラク、此心

必至ノ定
言過當ナ
ルヲ論ス

其自己ノ執意ヲ因縁シ起ストセハ、唯最初ニ、此執意ヲ因縁スル作用アリテ、始メテ得ヘシ、而テ、其因縁ノ作用ハ、即チ、是他ノ執意ニテ、此執意ヲ發生スルハ、又他ノ因縁ノ作用、無キヲ得スシテ、此ノ如クニセハ、竟ニ、休期莫カルヘキナリ
此有名ナル論證ヲ、必至ノ定言ト名クルハ、不當ナルニ非ス、其旨趣トシテ、取ル所ハ、以謂ヘラク、何如ナル源由ニテモ、初メニ、其作用ヲ生スル作用アルニ非レハ、作用ヲ生スル能ハサルナリト、今此説ハ、總テ源由ト云フ事ヲ、寰宇内ヨリ屏去シ、或ハ、然ラサレハ、吾人ヲ無窮ノ連鎖中ニ、包在スル者ナリ、何ニテモ、一ノ源由ニ、此論辨ヲ適用シテ、其然ルヤ否ヤヲ觀ヨ、即チ今、動機ハ、執意ヲ生スル源由ニテ、心自己ハ、其源由ニ非スト、假定スヘシ、乃チ此定言ニ據ル時ハ、動機ハ、初メニ、其作用ヲ生スル作用アルニ非レハ、作用ヲ生スル能ハスト爲ヘシ、而テ、其前時ノ因縁タリシ作用

此定言ヲ
心ニ適用
シテ論ス

ニハ、又一層前ノ源由、有ラサリシヲ、得サリシナリ、此ノ如クナレハ、前時ノ因縁タリシ作用、連續スルコト、無窮ニシテ、何時マテ推スモ、此ノ如クナルヘシ
然ルニ、此定言ハ、唯此心、即チ、有意ノ作用ニノミ、當レリト謂フヲ得ヘシ、果シテ然ラハ、此心、初メニ、發作スルノ作用ナシニ、發作スル能ハスト云フハ、何ヲ以テ、之ヲ知ルヲ得ヘキ、果シテ、此説ニ從ハ、畢竟、此心ノ作用ヲ、總テ屏去絶滅スルニ非スヤ、此心ノ思惟ハ、其思惟スルニ先ダチ、初メニ、思惟セサルヲ、得サルカ、此心、論辯シ、辨決シ、知覺シ、想像スルハ、其論辯、辨決、知覺、想像ノ爲ニ、初メニ、論、辨、辨、決、等無キヲ得サルカ、若以テ然ラストセハ、何ヲ以テ、心ハ、其意ノ爲ニ、初メニ、意アル無クシテ、思ヒ得サルカ
今又、心ヲ以テ、其自己執意ノ源由ト爲サ、ル時ハ、カノ無疆遠永ナル心ニ於テ、意アルハ、之ヲ何如其意ハ、因縁スル所アルカ、ハタ、因縁スル所ナ

此定言ヲ
神ニ適用
シテ論ス

キカ、若因縁スル所アル時ハ、果シテ何ニ由ルカ、若神自ラ、之ヲ因縁スル
 トセハ、カノ定言ノ如ク、又再ヒ無窮ニ循環スル連鎖中ニ入ルナリ、若其
 源由他物ニ在リトスルモ、其連鎖ヲ免ル、コトヲ得サルヘシ、何トナレ
 ハ、各自因縁アル作用ハ、必ス、其一層前ノ因縁ニ由ラサルヲ得サレハナ
 リ、果シテ然ラハ、神意ハ、因縁スル所無キカ、果シテ然ラハ、寰宇ノ間ニ因
 縁源由ト云フ者無キコト、明確ニシテ、乃チ動機モ、之ヲ名ケテ、因縁ト爲
 ス可ラス、上帝モ、其實ハ、カノ其意一ツニテ、萬物ヲ造化スルト云フ意ノ
 源由タラサレハ、之ヲ物ノ因縁スル所ト爲ス可ラス、既ニ神意ヲ以テ、因
 縁スル所ナラストセハ、萬物ハ、神意ノ功力效驗ノ發スル所ニ非ス、此ノ
 如クナレハ、此定言ヲ、心理ニ適用シ、運動ニ人ニ、上帝ニ、適用シテ、孰レニ
 テモ、因縁スル所無シトセハ、是源由ト云フ事ヲ、天地間ヨリ、屏去スルナ
 リ、若然ラサレハ、汝ハ、カノ無窮ナル連鎖ノ、慘苦ナル旋渦内ニ、陥リタル

性理學ト
 神理學ト
 ノ關係ヲ
 論ス

ナリ
 故ニ、此定言ヲ、拋棄スルハ、即チ、此心ハ、其自己ノ執意ヲ、生スル源由ナリ
 ト、許容スルコトナリ

第五篇 教門中、一定ノ真理ト、一連絡ニ於テ、觀タル意ノ説ノ
 一派ヲ論ス

意ヲ論スル哲學ト、神理ノ科學ト、甚タ密ナル連絡アルハ、上ニ既ニ、表章
 シタリ、然ルニ、斯ニ至ルマテハ、此事ノ問題ヲ、專ラ、性理學ニ基ツキテ、講
 究シ、其神理學ニ於ケル關係ヲ、觀サリシナリ、然ルニ、今、吾カ哲學ニ於テ、
 神理ノ科學疆域ニ係ハル、一層高キ真理ヲ、全ク忽略ニ屬スルハ、其不正
 タル、是ヨリ、較著ナルハ、莫カルヘシ
 蓋シ、人意自在ト云フ、問題ノ全體ハ、カノ天然天啓ノ教理ト、連絡ニ於テ、
 觀タル時、更ニ一段ノ切要ヲ、觀ルニ至リ、斯ニ至リテハ、此問題、唯觀察上

ニ屬セスシテ、實用上問題ノ最タルナリ
此連絡ヨリ、觀タル時ハ、特ニ人ノ注意ヲ要スル事、二項アリ、其一ハ、上帝
ノ人ニ於ケル勢力、其一ハ、人ノ自己ニ於ケル勢力ナリ

第一章 人ノ心意上ニ、上帝ノ及ホス所ノ力

人ノ造物主ニ於ケル、純全ナル服屬ノ關係中ニ在ルハ、理性ノ開示スル
所、教門ノ啓導スル所ニ劣ラサルコト、見エ、其一ハ、臣民ニシテ、其一ハ、
君主タリ、ソレ上帝ノ管轄ハ、唯カノ天然ノ元行勢力ニ及ブノミニ非ス
シテ、又凡百ノ靈智理性ヲ具ヘタル有體ニ達セリトス、蓋シ、天然ノ物體
ニ於ケルハ、其造化中ノ首要タル部分ニハ、非レナリ、此理ハ、獨リ上帝ハ、
萬物造化ノ主タル耳ニ非ス、又且、心理ノ總管ニシテ、照臨監視ノ主タル、
事實中ニ存セリ、今若、人々ノ躬行、靈智アル有體ノ心意ヲシテ、此管轄ニ
屬シテ、有ラサラシメハ、人間ニ於テ、人心ノ管轄ト、世事ノ總理ト、ノ如キ

人ノ服屬
ヲ論ス

事ハ、有リ得サルコト、明カナリ、是徒ニ人ノ理性ニテ、造化主ノ最上タル
コトヲ引證シタル證據ニ、依ルノミナラス、又天然教門ノ道理ニ、基ツク
ノミニ非ス、并ニ又天啓ノ真理ニ於テ、明白ナル學理ノ一タリ、カノ聖經
ニ在リテハ、極メテ丁寧明白ナル語ヲ以テ、上帝ノ、人ノ躬行、人ノ心意ニ
就テ、最上權ヲ執レルヲ、開示セリ、是靈智ヲ具セル有體ノ、思惟志意ヲ、管
轄スル勢力ハ、極高ナル勢力タラサルヲ、得サル所以ナリ

且ソレ、其管轄ハ、完全有力ノ者タル爲ニ、現在ニ存スルノミナラス、又過
去ニ反リ、而テ、未來ニ至ラサルヲ得ス、將來悠久ノ全脈ヲ貫キ、苟モ有ル
事ハ、皆之ヲ包括セサルヲ得スシテ、一物ト雖モ、其先知ニ、漏ルコト無ク、
其容許ニ非レハ、成ルコト無シ、極メテ細事件、一雀ノ死モ、秋獲ノ葉數モ、
吾人頭髮ノ數モ、此普通ノ法ニ、漏ル、コトヲ得ル無キナリ、
吾人姑ヲ、最上ノ有體ハ、徒ニ造物者、主宰タルノミニ非ス、又兼テ、至智

其管轄ノ
無疆ナル
ヲ論ス

神意ハ圖

略ヲ含ミ、
圖略ハ人
ノ躬行ヲ
包括スル
ヲ論ス

其難問ヲ
述フ

之カ爲ニ
執レル諸
種ノ位地
ヲ論ス

全睿ノ者タリト、觀察スル時ハ、其運用ミ於テ、一ノ圖略アリト、假定セサルヲ得ス、蓋シ、天祐、天眷ト云フ觀念ニハ、其真意ニ、此義ヲ含メリ、而テ此圖略ニハ、將來ノ事件凡百ノ事件、細大ノ事件ヲ包括シテ、浹洽ナラサル莫シト、假定セサルヲ得ス、何トナレハ、事ノ細大ハ、皆連絡シ、時ノ現在未來ハ、皆連絡シ、其圖略管轄ニテ、一人ニ向テ、爲ス所ノ事ハ、衆人ニ向テ、爲ス所ノ事ト、皆相連絡シ、一人ノ躬行ハ、其餘ノ躬行ト、相連絡スレハナリ、是亦道理上ノ學理ニテモ、天啓上ノ學理ニテモ、均シク、著明ナル事タルナリ、

然ラハ則チ、人ハ、何如ナル自在ヲ、有スルモ、其自在ハ、上帝ノ完全ナル管制ト、其管轄トニ、相適合スル者タラサルヲ、得サルナリ、然ラハ、人ノ現在ノ躬行モ、未來ノ躬行モ、其思惟モ、其感動モ、其志圖モ、皆上帝ノ志圖管轄ノ及ハサル處ニ、在ルヲ得ヘカラストス、果シテ然ラハ、人ノ全キ自在ト、

上帝ノ全キ管制ト、其管轄ノ間ニ在テ、何如カ、之ヲシテ、相和諧セシムルヲ、得ヘキカ

是兩ツナカラ、事實ナリ、故ニ、兩ツナカラ、真ナリトス、孰レモ、能十分ニ、理會曉解シ得ヘキ事ナレト、唯之ヲ同一次ニ、考フレハ、相合セサル事ト、見ユルナリ、故ニ、人多ク、之ヲ言フヲ、難カル者無シ、然レト、其兩ツナカラ、真ナリトシテ、取ル人ニ至リテモ、之ヲ視テ、以テ、猶解釋ス可ラス、理會ス可ラサルノ事トナセリ、又他人ニ至リテハ、其一ヲ肯シテ、他ノ一ヲ、擯斥スルニ至リ、少クモ、最後ニハ、此真理ノ中ニテ、其一ヲ、斥クルニ、至ルノ地位ヲ、占メタリ、故ニ、カノ宿命學家ノ若キハ、唯人ノ自在ヲ、損毀シテ、上帝ノ最上權ヲ、保護セリ、是ヲ以テ、縱ヒ、人ノ理由ニ、任ズル基礎ヲ、毀壞スルニ、至ラサルモ、之ヲ懦弱ナラシムルニ至レリ、又他ノ諸家ハ、宿命家タルヲ恐レテ、上帝ノ權力ト、圖略トヲ、損毀シ、人ノ自在ト、理由ノ任トヲ、護シ

此問題ニ
前ノ性理
學ノ論理
ヲ適用シ
テ論ス

自在ハ何
處ニ存ス
ルカヲ論

タリ、是ヲ以テ、竟ニハ、人ヲハ上帝ノ權力管轄外ニ置クニ至レリ
然ル時ハ、此二個ノ大事實ハ、何如シテ、之ヲ和諧セシムヘキカ、余カ説ク
所、誤謬無カラシメハ、眞ノ性理學ニテ、意ノ性質ニ、正シキ見解ヲ有スル
者ハ、之カ爲ニ、道ヲ開クコト、難キニ非ス、カノ執意ヲ、立ル時ニ方リ、此心
ノ運用、何如タルハ、余既ニ、之ヲ開示シタル所ニテ、其運用ノ各種ノ進歩
ハ、下條ノ如キナリ、即チ、第一場ニ於テハ、何ニテモ、成就スヘキ目的、直チ
ニ、悟性ニ表現スルナリ、而テ、此ノ如ク、表現シタル目的、或ハ、我ガ欲ニ感
動シ、或ハ、本分ト云フ義ニ、感動シテ、此心ヲ響動シ、其一方ニ、偏向セシム、
此ノ如キ偏向ヨリ、選擇ニ及ホシ、選擇ヨリ、執意ニ及ホシ、執意ヨリ、作用
ニ及ホスナリ

然ラハ、則チ、此全運用中ニ、自在ノ元行ハ、何處ニカ存スル、曰ク、其自在ハ、
最後施行ノ作用、即チ、爲サムト思フ如ク、爲ス上ニハ、在ラス、何トナレハ、

ス

此自在ハ
上帝ノ管
轄ト何如
シテ相合

其作用ハ、唯形體ニ屬シテ、物質上ノ事トシ、心ノ勢力ニハ、非レハナリ、然
レ又、カノ我ヲ、響動偏向スル動機ノ、管束中ニモ、在ラス、何トナレハ、動機
ハ、多分、我カ勢力外ニ、在レハナリ、故ニ、其自在ハ、人意ニ屬スル所ノミニ
テハ、我カ好ム所ノ、執意ヲ造爲シテ、之ヲ發陳スル、勢力中ニ存セルコト、
著明ナリ、乃チ、他語ニテ言ハ、我カ好ムマ、ニ擇ヒ我カ擇フマ、ニ爲
サムト思フ際ニ在リ、是我カ偏向ノ、何如タルニ拘ハラズ、我ハ之ヲ擇ヒ、
之ヲ擇ヒタルマ、ニ爲サムト思フハ、我ニ於テ、自在タル可レハナリ、是
即チ、之ヲ理會シ得ヘキ、自在ニシテ、實用上至高ナル自在、人心ニ屬スル
自在ハ、斯ニ盡ルナリ

斯ニ至リ、此自在ハ、上帝ノ、吾人ニ置ケル管轄管制ト、並ヒ行ハレテ、十分
相戻ラサルヤ否ヤヲ、示スヘシ、此吾人ノ執意ト選擇トハ、必ス縱肆偶然
ナル者ニハ、非ス、必ス之カ爲ニ理性アリテ、何ヲ以テ、我カ爲スマ、ニ擇

フヤト云フ道理アリ、吾人ノ擇フ所云々タルハ、吾人其全體ヲ舉リテ言
ヘハ、此ノ如キ資質アリ、此ノ如キ偏尙アル故ナリ、而テ此偏尙資質ハ、境
遇ノ諸種ナル上ニ、表現シタル、動機ノ性質強弱ノ上ニ、我カ形體心意ノ
資質習慣ノ上ニ、我カ自己管束ノ強弱、我カ好欲ト本分ヲ守ル意ト、相關
スル強弱ノ上ニ、其挑起スル物體ノ存不存ノ上ニ、關スルナリ、約シテ言
ハ、預メ資質トナリタル源由ト、境遇ト、其混同諸種ナル上ニ、關シ、而テ
若、何故ニ、我此ノ如ク擇ヒテ、他道ニ由ラサリシカト、問題ヲ設ケタル時
ハ、此等ノ事ヲ皆悉取リ盡シテ、其理由ト爲サ、ルヲ得ス、是ヲ以テ、此等
總テ我カ偏尙ヲ定メテ、以テ遂ニ、我カ選擇執意ヲ決定スルニ、至ラシム
ル境遇ハ、過半皆、我カ直チナル管束外ニ、在ルナリ、故ニ、我カ形體心意ノ
資質、我カ外部ノ景況、我カ心ノ情狀、一定ノ時ニ當リテ、其處ノ境遇等ハ、
其動機トナリ、誘因トナリ、何如ナル形狀ニテ、此心ヲ挑動スル勢力トナ

リテ、表現スルハ、皆是、吾人ヲ、彼此ノ流道ノ一ツニ導ク者ニシテ、是我カ
自己ノ管轄内ニ存スルヨリモ、一層甚シク、上帝ノ管制中ニ存スル者ナ
リ
然レハ、此處ニ、カノ上帝ノ、人心ニ入りテ、之ヲ占有シ、其作用ヲ響動造構
スル所ノ、近接ノ通路アリト、敬言セサルヲ得ス、是ニ依テ以テ、毫モ其完
全ナル自在ヲ損スルコト、無キナリ、故ニ、上帝ハ、唯人心ニ、緊要十分ナリ
ト、見ユヘキ所ノ、動機ヲ表現セシメ、唯人心現實上ノ選擇ヨリ、遙カニ前
程ニ於テ、其偏尙ノ大源ヲ定メ、唯吾人ノ心中ニ、一定ノ流道ヲ、好ムノ資
質ヲ、安定シテ以テ、我カ選擇モ、我カ執意モ、我カ作用モ、的確ニ、之ニ踵カ
シムルナリ、而テ、其作用ト、執意トハ、其極ヲ論スル時、吾人ノ選擇ハ、自在
ナルカ故ニ、其自在タルニ、外ナラスト、雖モ、吾人ノ作用ハ、我カ好ム所ニ
從ヒ、我カ偏スル所ニ從フナリ

同一理ノ
比喩トシ
テ人其同
人ニ於ケ
ル響動ヲ
論ス

乃チ此理ハ正シク吾人我カ同人ニ就テ常ニ爲ス所ト其方法ノ限局セ
ルト其疆界ノ狭少ナルトハ異ナリト雖モ其理ハ同一ナリトス吾人同
人ニ於ケル一定ノ流道ニ動機誘因ヲ假シ其偏尙ヲ動カサムトシ其感
性其人欲其本分ノ義ニ響動ヲ起サムトス而テ其心ニ通スルノ度ニ準
シテ其躬行ヲ管制構造スルノ成功ヲ見ル蓋シ人ヲ管轄スル術ノ大イ
ニシテ且難キハ斯ニ存スルナリ最上權ヲ有スル主治者并ニ事件ノ管
制者ニ在テ執リ行フヘキ權力ハ同一ナルモ完備十全ナリト假定セサ
ルヲ得ス而テ依テ以テカノ迂回ニシテ的確ナラサル方法ニ依ラス直
チニ正路ニ由テ人心ニ通スルヲ得テ人々ノ偏尙ヲ指定スル爲ニ時下
ノ景況ヲ構造指揮シ以テ其管下ニ在ル人心方向ノ大源ヲ定メ而テ後
ニ其意ノ如ク之ヲ鼓舞シ之ヲ指揮スルナリ蓋シ人ハ十分ニ上帝ノ管
制下ニ在リト雖モ猶能自在ニ作用シ其偏尙ノマヽニ正シク作用スル

聖經ニテ
上帝ニ歸
スル勢力
ヲ論ス

ノ事實ハ唯此事ニ依テ之ヲ理會スヘク又其事實ノ完全ナル解釋トナ
シテ之ヲ見ルニ足レリト余ニ見ユル所ハ此ノ如キ耳
而テ余ヲシテ誤解ナカラシメハ此事正シクカノ聖經ニテ恒ニ上帝ニ
歸スル所ノ上帝ノ人ニ君臨スル管制勢力ノ種類ナリトス其勢力ハ人
々ノ偏尙情感資質ノ上ニ行ハル所ニシテ此三ツ者ヨリ吾人凡百有
意ノ行事ハ發出スルナリ故ニ人ノ心腸ハ上帝ノ掌握ニ在リテ上帝ハ
川河ノ水ノ轉流スルガ如ク之ヲ轉回シ得ルナリ
上帝或ハ人ヲ惡ニ響動スルアリト假定スルハ要用ナラサル事ニテ此
假想ハ上帝ノ品性ト相容レス吾人凡テ上帝ニ於テ知得シ理會スル事
ト相合セス且ソレ禍惡ヲ遂ケムトシテ人ノ上ニ此ノ如キ響動ヲ起ス
ハ固ヨリ要セサル所タルノミナラス之ト相反シテ人ヲ控勒預防シテ
罪咎ニ陥ラサラシムルハ深ク要スル所ナリ人ヲシテ迷路ニ就カシム

此考定ハ
上帝ノ響
動惡ニ及
フト假定
セサルヲ
論ス

ルニ偏セル動機ト響動トハ十分ニ備ハリ之ヲシテ其生ヲ善ニ進マシムルノ誘因ハ軟弱ニシテ力無シト然ルニ今人ヲ禍惡ニ濱セシムル爲ニ此ノ如キ種類ノ響動ヲ人ノ上ニ發陳セラレハナリト假想スルモ猶此ノ如キ響動十分ニ上帝ノ完全ナル自在ト何如シテ相容ルヘキヤ之ヲ觀ルニ由無シ此ノ如キ假想ヲ禁スルハ人ノ自在ノ義氣ナラサルモ上帝ノ品性ノ正經タリ

曰ク人ノ躬行ニ就テ今最上有體ニ歸セシ如キ勢力アリトセハカノ人自ラ其行事ノ理由ニ任スヘシト云フ責任ト相撞着スルユト無シヤ曰ク否是少シモ相關スルコト無シ理由ノ責任ハ其好ムマニ自在ニ作用ニ發スル人ニ存ス是其人ハ其正タリ邪タル事ヲ自己ノ許諾ヲ以テ爲シ又其人ハ之ヲ爲スノ心ヲ有スレハ其爲ス所ノ事ヲ知リテ之ヲ爲セハナリ故ニ人ノ神ノ響動中ニ在ルハ何如ナル度ニ在リト假想スル

人ノ理由ニ任スル事ト相抵衝セサルヲ論ス

モ其人自ラ作用スト云フナリ

第二章 人己カ身上ニ及ホスカ

人ハ恒ニ必ス上帝ノ意ノ要スル所ノ事ヲ爲スノ勢力ヲ有スルカ即チ正義ヲ爲スノ勢力ヲ有スルカト云フ問題アリ然ルニ今他人ニ向ヒテ眞ニ絶テ其人ノ勢力外ニ在ル所ノ事ヲ要スルハ不正トシ此ノ如キ要求ハ若之ヲ爲ス者アルモ絶テ義務ヲ蒙ラシムルコト無シ何トナレハ之ニ服従スルコトハ爲ス可ラサルナリト云フハ理性ノ誥命ニシテ人間通常ノ理會タリト見ユルナリ吾人ハ上帝ノ此ノ如キ著明ナル不正ヲ以テ人ヲ罪スルコトハ假想シ能ハサル所ニテ上帝ノ命ハ正シトシ其命ハ其命ト共ニ人ノ理性辨決ヲ降シ獨知ハ此命ヲ嘉シ義務ハ此命ヲ重ス是ヲ以テ其命令ハ吾人ノ服従シ得ヘキ命令タラサルヲ得サルナリ今若余ニ向ヒテ之ヲ爲スニ現實ニ絶テ余カ勢力内ニ在ラサル事

行フ可ラサル事ヲ要スルノ不正ヲ論ス

偏尙無キ
ヲ假想シ
テ論ス

宿命學家
ノ地位ヲ
論ス

ヲ以テ之ヲ要セハ、是較著ナル、不正邪曲タルヘシ
然ルニ、余今、絶テ正義ヲ爲スノ偏尙資質ヲ實ニ有モスト、假想セヨ、然ル
時ハ、余カ情感ト、人欲トハ、總テ悖戾ニシテ、余ヲ惡ニ偏尙セシメ、余カ本
分ヲ盡スノ意即チ、道義ハ、極メテ脆弱ニシテ、我カ人欲ト、惡癖トニ、克ツ
コト、能ハスト、假想セヨ、悲イ哉、是亦、屢、有リ得ル所ナリ、然ラハ、余カ正義
ヲナスノ勢力ハ、果シテ何如、此ノ如クニシテ、其勢力ハ、猶存スルカ、此時
余ハ、其情感偏癖ハ、依然トシテ、存スレ、余之ニ、抗抵スル勢力ヲ、有スル
カ、是一ノ問題ニテ、哲學上深遠ノ問題タルノミナラス、同時ニ又、實用上
ニモ、切ナル問題ナリ

宿命學家ニ在リテハ、此問題ニ、否ト答ヘ、少シモ難カルコト、莫カルヘシ、
人ハ、其自己ノ偏尙ニ於テ、其流道ヲ變スル勢力無シ、又其流道ニ、逆抗ス
ル勢力モ無シ、其人ハ、全然動機ノ響動ニ、管セラレ、動機ハ、其人ヲ、彼此ノ

此地位ハ、
性理學ノ
眞理ト、異
ナルヲ論
ス

其勢力ト、
偏尙ト、
混スルヲ

流道ニ、誘入ズ、故ニ、其人ハ、其爲ムト思フ如ク、爲スノ勢力ヲ、有スレ、其
執意ノ所ノミニハ、絶テ勢力無シ、唯其心ニテ、爲サムト思フ事ヲ、爲スノ
勢力ヲ、有スレ、其心ト爲ス者、即チ、正義ヲ爲サムトスル偏尙ヲ、有セサ
レハ、亦正義ヲ爲スノ勢力モ、有セサルナリ

余輩、既ニ上ニテ、見タル如ク、カノ正シキ性理學ニ於テハ、別ニ答辭アリ、
人心ノ哲學ニ在テ、事實ヲ論スレハ、人ハ、之ヲ爲スノ資質ナキ事ヲ、爲ス
ノ勢力ヲ、有セスト云フハ、眞ナラストシ、又其偏尙ト、情感トハ、全ク其人
ノ勢力外ニシテ、管制ス可ラ、スト云フモ、眞ナラストス、此兩目的ニ於テ
ハ、宿命學家ノ說、衆人ノ通常理會ト、相戰フコト、猶其眞正ノ哲學ト、相容
レサルカ如シ

人ハ、之ヲ爲スノ偏尙無キ事ヲ、爲スノ勢力ヲ、有セスト、云フハ、是勢力ヲ
以テ、偏尙ト混シタルナリ、此二者ハ、各、別ナル者ナリ、故ニ、其一ハ、他ノ者

無シト雖存スルヲ得ヘシ今余ハ之ヲ爲サムトスル資質無キ事ヲモ、
 爲スノ勢力ヲ有シ又一方ニハ我カ勢力内ニ無キ事ヲモ爲サムト爲ル
 ノ資質ヲ有ス余今吾カ自己ノ家屋若クハ鄰人ノ家屋ニ火ヲ放チ若ク
 ハ吾カ右臂ヲ斫リ去ルニハ其勢力ヲ有ス是勢力ナリ然レ絶テ資質偏
 尙ニ非ルナリ今又一動機ノ十分ニ吾カ心ヲ變スルニ足ル者ヲ以テ吾
 ニ表ハシ吾ヲシテ其作用ニ偏セシメヨ此ノ如クナレハ汝能此ノ如ク
 シテ新タニ吾カ偏尙ヲ起スヘシト雖別ニ新タナル勢力ヲ生スルコ
 ト無シ此事項ハ十分ニ前篇ニ論究シタル所ナレハ斯ニ反覆論證スル
 ニ及ハス其章ニ現ニ事ヲ爲サムトスレハ二事ヲ要ス即チ之ヲ爲ス勢
 力ト發陳スル偏尙ナル事ト又其勢力ト偏尙トハ曾テ互ニ相含蓄スル
 コト無キ事ヲ示シタリ其勢力ノミ存スル處ニテハ其事之ヲ爲スヲ得
 ヘシト雖存曾テ之ヲ爲サムト思ハサルヘシ故ニ兩者ノ存スル處ニテ

吾人ノ偏
 尙ハ全ク
 我カ管制
 ノ外ヲラ
 サルヲ論
 ス

之ヲ得ヘクシテ爲サムト思フナリ然ラハ則チ此語ノ本來ノ意味ニテ
 ハ偏尙ノ無キハ勢力ノ無キナリト云フハ眞ナラサルナリ
 吾人ノ偏尙ト情感トハ全ク我自己ノ管制外ニ在リト謂フ地位モ亦均
 シク不正ナリ是一定ノ界限ニ至ルマテハ之ヲ變化スルコト我カ勢力
 内ニ在ル者ナリ偏尙ハ確定ノ分量アル者ニ非ス是固ヨリ變シ得ヘキ
 者トシ又變スヘキ事ニ屬シ又諸種ノ目的ニ於テ觀テ常ニ變化スル者
 ナリ吾人事ニ就テ諸種ノ見解ヲ取リ而テ隨ヒテ以テ我カ感動モ偏尙
 モ變スルナリ境遇モ變シ事件ノ形勢モ變シ而テ吾人ノ資質モ是ニ隨
 ヒテ以テ變形スカノ情感ト偏尙トハ恒ニ必ス我カ意ノ直接直管ナル
 制克下ニ屬セスト雖存猶頗ル之ヲ變形シ之ヲ制約スルハ我カ勢力内
 ニ在ルコト然リ而テ此等其有ル如クニ依然トシテ存スルハ我カ爲
 ス所ヲ爲サムトスルハ全然的確ナル事ニテ此等其有ル如クニ依然

レハ將ニ然ルヘシト謂ヒ、然ラシムト謂フハ、必要ナラス、且的確ナラサル事ナリ

眞實ノ答
辭ヲ舉ク

然ラハ、今人其偏尙、惡ニ向ヒ、其心腸邪曲ナル者、正義ヲ爲シ得ルカト、云フ問題ニ於テ、眞實ナル性理學ノ答辭ハ、唯然リト謂フニ在リ、其人、之ヲ爲スニ、偏尙無キ事ヲモ、爲シ得ヘクシテ、其惡キ偏尙ハ、是確定ノ分量アル者ニ、非ルナリ、故ニ、其人ハ、他道ニモ、偏尙シ得ヘク、又他道ニ、偏尙スルコトヲ、得ルナリ

勢力ノ外
ニ他物ヲ
要スルヲ
論ス

然リト雖ヒ、其心腸ノ邪曲ナルニ方リ、其惡キ資質ノ、旺存スルニ方リ、其人ノ意ニ、惡ヲ爲ルコト、旺スルニ方リ、其勢力ハ、全ク、其反體ニ在ル、此時ニ當リテハ、是ニモ拘ハラズ、其人、自ラ省悟スルニ、任セタラハ、能自ラ省悟シテ、善ニ向ヒ、其質ノ變化ヲ、起スハ、誠ニ蓋然ニモ、至ラサルハ、固ヨリ、許サル可ラサル所ナリ、是カ爲ニ、外部ヨリノ響動ヲ要シ、又上天ヨ

福音ハ此
短所ヲ補
フヲ論ス

リノ響動ヲ、要スル所ニシテ、其響動ハ、其人ヲ、服從ニ偏セシメ、之ヲシテ、服從セムト、思ハシムヘキナリ

是正シク、人性ノ短所ニシテ、上帝ノ惠賚、正ニ之ヲ補定シ、以テ其人ノ内
部ニ、清潔ナル心腸ヲ造リ、其内ヲ洗滌シテ、正シキ精神ヲ具ヘシム、是此
世界ヲ復生スル至高ノ秘妙ニシテ、此ノ如ク、上帝ニ依テ、生ル、靈魂ハ、
正義ヲ爲サムト、思フヘク、構造セラレ、其偏尙ハ、既ニ惡ニ向ハスシテ、善
ニ向ヒ、人ハ、猶其好ム所ノ事ヲ爲セ、其好ム所、上帝ノ意ニ忤スルコト
無ク、其資質モ變化シ、依テ以テ、情感モ變化シ、心腸モ變化ス、是聖經ノ常
ニ表出スル所ニシテ、是カノ服從ヲ、得ムヲ要シ、上帝ノ惠賚ニ浴スルハ、
蓋シ斯ニ在ルナリ

神理學ノ問題ヲ、直チニ講究スルハ、斯ノ疆域ニ属セス、唯聖經中ニ、啓示
セル眞理ノ模範ニ、眞ノ性理學ノ、關涉セル所ヲ、著ハスコト、吾徒ノ目的

タリ、此二者ノ、十分ニ相適合スルハ、各自ノ爲ニ、有益ナル論證アリ

第六篇 意ノ強弱ヲ論ス

意力ノ強弱ニ就テハ、之ヲ心ノ發動中ノ、他ノ部分ト、比較シタル處ニテ、人々ニテ、大イナル差異アリ、此差異ハ、意ノ上ニ就テハ、猶他ノ心裏諸能力ノ如ク、恐ラクハ、甚シキ者タルヘク、衆人、總テ均一ノ想像力ヲ、賦セラレス、均一ナル記性ノ強弱、均一ナル論辯ノ能力ヲ以テ、賦セラレスシテ、其心裏ノ、施行力ノ強弱モ、亦均一ナラサルナリ、人或ハ、意ノ脆弱ト、決斷剛毅ノ乏キト、品性志念ノ果敢ナラサルヲ、示ス者アリ、此等ノ人ハ、疑惑、若クハ、偶然急速ノ際ニ、動搖シテ、決斷ト、敢爲トヲ、要スル時、殊ニ苦澁ナリ、此等ノ人ハ、確定セル志念ヲ以テ、管束セラレスシテ、今日取ル所ノ流道ヲ、明日ハ拋棄シテ、其反對ニ就テ、唯境遇ノ爲ニ、管制セラレテ、抗抵アレハ、其流道ヲ轉シ、艱險ニ遇ヘハ、志氣沮喪ス、此等ノ人、之ヲ勸奨教導ス

此目的ニ於テノ差異ヲ論ス

ルニ、容易ナレトモ、其人ヲシテ、衆人ノ首唱タラシムルニハ、甚タ適當セサルナリ

又他ノ一種ノ人ハ、意ヲ持スル堅剛、岩石ノ屈撓ス可ラサルカ如シ、此等ノ人ハ、自ラノ流道ヲ擇ヒテ、之ヲ踵キ、其事ノ硬難ナルト、效功ノ何如ヲ、省ミサルナリ、此ノ如キ人ニハ、抗抵ハ却テ、其決斷ト、志尚トヲ、固ウスルニ足リ、一タヒ、心ヲ決スルニ及ヒテハ、之ヲ勸勵スルコト、固ヨリ硬難ナリ、況ヤ之ヲシテ、其所見ヲ、變セシムルノ、難キヲヤ、此等ノ人ハ、自家ノ地歩ヲ占メ、之ニ抗スル者、多シト雖モ、怕ル、コト無ク、カノ苾師、惹米斯ハ、ソリック洛的利加德虛ノ、蕃人ヨリ、不意ニ攻撃セラレテ、之ニ圍マレタル時、

千萬ツノ寇ハ、來ルモ、我レ退カシ、

退カハ、嚴モ、共ニ飛ハナム

ト、叫ビケルトナリ

意ノ強剛
ノ例ヲ舉

弁破崙ノ如キ、猛烈憤勇ノ人ハ、意ヲ持スルコト、強ニシテ、力アリキ、其障礙硬難ニシテ、他人ニハ、曾テ踰越ス、可ラサルノ事ト雖モ、其意力ニハ、敵スル者無ク、立定セル風習、禮俗、軍旅、王位ノ若キモ、皆其豪壯ナル意力ノ、抵抗ス可ラサル勢ト、其決定セル志氣トニ因テ、之ヲ一掃セシコト、猶颯風雨ニ、驅激セラレタル洪濤ノ、陸上ニ散在セル貝殼沙礫ヲ、一掃シテ、遺了無キカ如シ、其弟ナル是班牙王、約瑟ノ品性ニ於テハ、之ト反對ノ例ヲ見ルナリ、溫柔ニシテ禮アリ、風格高クシテ、愛スヘク、嫺雅清秀ニシテ、文學ニ達シ、幽閑清退ヲ愛セシカ、其品性ニ於テ、有力果決ニ乏シトス、是戰中、若クハ、朝廷ニ在テ、其首揆タルニハ、適セサルナリ、又格朗空ノ剛毅ニシテ、氣力ノ怕ルヘキハ、其嗣子力查ノ和柔、氣力無キニ比シテ、上ト同一ノ例ナリ、英吉利顛覆ノ亂ニ、巴利丹宗派ノ首唱ハ、嚴正堅忍ノ氣力アリシ人ヤナリキ、羅馬人ノ中ニテ、該撒ハ、意ノ強力ノ、著シキ例ヲ表セリ、是

屢之ヲ
武將中ニ
見ルヲ論
ス

同一ノ性

大謀略アル人ニ、適セル所ナリ、而テ、羅馬說術ノ大家ナリシ、西賽魯ハ、諸學術ニ通達シ、哲學ニ深ク、辯論ノ妙、人ヲ愕カセシモ、志氣ノ剛堅ハ、乏シカリシナリ、
一般ニ指目スルニ、足レルハ、武將中ノ英傑ハ、此種ノ品質、格別ニ顯レタリ、蓋シ、其氣力決斷ノ徳ト、志念ノ堅固ナルトニ因テ、此等ノ人ハ、他人ナラハ、誤ルヘキ處ニ於テ、幸ヲ得テ、大事ヲ襄成セシナリ、漢尼波拉弗利的^{ハンニバルフレア}、^{エロント}里加大王、空林登、并ニ吾ガ華盛頓ノ若キハ、皆是ナリ、此等ノ人ハ、天性ニ因テ、カノ大艱難ノ地位ニ立ツ爲ニ、之ニ適セル形質ヲ以テ、賦セラレタルナリ、而テ、其之ヲ喚起セシ功業ト、其遭逢セシ境遇トハ、同時ニ又、其天稟ノ奇拔ナル所ヲ、發達セシメ、就中、他ノ心力ヨリモ、殊ニ此力ヲ強クセシナリ、
然ルニ又、意力ノ強剛ナルハ、生業ノ中、他ノ關係地位ニモ、顯ル、コト、猶

質ハ他ノ
生業中ニ
存スルヲ
論ス

武將ニ於ケルカ如シ、カノ政事黨中ノ大首唱ノ若キ、譬ヘハ内政事務ノ長若シハ、英吉利ノ國會ニテノ敵黨ノ若キハ、強剛ニシテ、志念ノ氣力アルコト、屢之ヲ見ルヘシ、又所哥羅垓斯ノ意ヲ決シテ、世間ノ嗷々ト、其同僚判官ノ持論ニ拘ハラヌ、カノ敗績ノ將帥ヲ、罪ニ擠スヲ拒ミ、其處決ノ己レカ手裏ニ、在リシ日ニ、之ニ抵抗セシハ、固ヨリ、道義ノ本元ニ、本ツク者ナリト雖、意力ノ強モ、亦之ニ劣ラスト、謂フヘシ、又德利烏斯ノ戰後、退軍ノ時ニモ、同一ノ徳性ニ出テ、軍衆潰亂遁走ノ際ニ當リ、獨歩シテ、徐ヤクニ、疆場ヲ退キ、自ラ恃ミテ、氣宇泰然、平常ニ異ナラサリケレハ、敵一人モ、敢テ之ニ、近ツクコトヲ、得サリシト、是伯拉多カ、詳カニ、記載セシ所ナリ、又其獄ニ在ルヤ、諸友ノ諒諍指導ニ、力ヲ盡セルニモ、拘ハラヌ、獄ヨリ、逃逸スルヲ拒ミ、冤枉不正ナル罪狀ヲ受ケテ、死ニ就キシハ、其意力ノ強、亦知ルヘキナリ

説術家ノ
意力ノ強
ヲ論ス

眞ニ説術ノ大家ニ至リテハ、其意力ノ強ニ因テ、沈靜ニシテ、意識一定シ、自己ノ情ト、自己ノ勢力ヲ、控制スルヲ以テ、人民會合中ニ立テ、其熱情ト、志趣トヲ、左右スルコトヲ、得能其敵手ノ攻撃ヲ、反衝シテ、其臆説ヲ、壓服スルハ、亦同一理ノ比譬ト、スルニ、足レリ、是カノ維丕期多カ、卑如ニ對ヘムトシテ、長老院ニテ、起立セシ時ニ、觀ルカ如ク、此人ノ英華發越セルハ、眞ニ其勢力ノ大イナルヲ、窺フニ、足リ、唯其巨大ナル智力ノ、強キノミナラス、又必勝ヲ定メタル、果決ナル意力ノ、強キヲ表ハセリ

此同一理ハ、又時トシテ、種々ナル様法ト、種々ナル境遇トニ於テ、表見スルコトアリ、蓋シ、意ノ強力、武勇ノ功業ヲ、開導スレハ、武勇ノ耐忍ト、難行トニ、開導スルモ、亦同一ナリ、カノ利及勒斯ノ、其敵ヲ、加爾達額ニ送付シ、之ヲシテ、憤恨ヲ、極メシメテ、之ニ堪エシカ如キ、其意ノ剛強ヲ、見ルヘシ、又伯羅額ノ、惹羅馬カ、死ヲ守リテ、反言ヲ肯セサリシカ如キ、其意ノ強ヲ、

意力ノ強
キハ、艱難
ノ耐忍ニ
顯ル、ヲ
論ス

知ルヘク、又哥蘭墨兒カ、右手ヲ火ニ投シ、全ク燒化スルマテ、堪ヒシカ如キモ、其強ヲ稱スヘシ、又カノ耶蘇教諸師ノ、身ヲ殺シテ、道ヲ守リシカ如キハ、古今ノ紀年曆ニ、歴々トシテ、千百ノ例ヲ、舉ケタルハ、其志氣ノ強堅ナル、豈前諸人ニ、均シカラスト、謂ハムヤ、カノ軟脆柔弱ノ性ヲ以テ、其一大本ニ抗言シテ、平素ヨリ、融會貫通シタル、靈魂ノ的證ヲ、棄置セムヨリハ、寧ロ、死ニ就クノ、勝レルニ、如カスト、其剛毅勇烈ト、堅忍ノ、勢力ヲ以テ、恬然トシテ、至大艱險ヲ、冒セリ、是一物モ、之ヲ動カシ、之ヲ屈スルコト、能ハサル所ナリ

何如シテ
斯ニ達ス
ヘキヤヲ
論ス

多ク例ヲ援クモ、無益ニ屬ス、然ルニ、品性ノ真ニ、大且高ナル爲ニハ、此ノ如ク欲スヘク、此ノ如ク、少ク可ラサル質ナルニ、其意ノ強キニ、達スルハ、何如シテ、得ヘキト云フ問題アリ、蓋シ、是一部ニハ、天稟ニ由ルコト、疑ヒ無シ、即チ、其人、一層幸ヒニ、此ノ如キ天賦ヲ、稟ケ、其形體ト、心意ト、性質

ヨリ、發スル、效驗ナリトシ、又一部ニハ、他ノ心意形體ノ、才能ノ如ク、合當ナル注意ト、練熟トニテ、得ヘキ德性ナリ、特ニハ、此類ノ事ニ、何ニテモ努力シ、生平許多切要ナラサル小事件ニ於テ、如何ニ瑣細ナル事ニモ、敏速ニ決定シ、精力ヲ入レテ、之ヲ作造シ、一度思慮シテ、了シタル志念ハ、持重シテ、之ヲ成就スル事ニ、己レヲ慣習スルハ、有益ナル事タリ、此ノ如ク習熟シタル慣習ハ、後來漸次ニ、一層高キ作用ノ局ニ當リ、一層大イナル障礙難ノ境遇ニ臨ムニ、足ルニ至ルヘシ、然レ又、一方ニハ、此ノ如クニシテ、頑固ノ極度ニ、至ル可ラヌ、頑固ハ、過チヲ改メ、失錯ヲ悔認シ、他人ノ勝レテ、智慮アル評議ヲ、聽クコトヲ否ム者ナリ

第七篇 記傳ノ略 意ノ自在ノ說ニ就テ、爭論ノ概略

人ノ自在ニ就テノ問題ハ、古昔ヨリ、講明論究ノ一題目タリキ、是特ニ、萬國ノ哲學ニ、存スル所ニテ、余カ知ル所ニ從ヘハ、其中ニ、哲學モ、神理學モ、

昔時講論
セル問題
ヲ論ス

地位ヲ占メサルハ莫シ、是亦徒ニ耶蘇宗ノ諸國ト、教育アル諸國トニ限ルコトニ非スシテ、印度并ニ東方諸國ニ於テモ、今日ニ在リ、神理學ノ模範中ニ拔群ノ地步ヲ占メ、爭論ノ一項タリ、耶蘇宗ノ弘教使、蓋シ至遠ノ地域ニ於テ、教育無キ種族ノ中ニテモ、此問題ヲ聽キ、驚愕ヲ喫スルコトアリ、是固ヨリ、深遠ナル道理ノ問題ニシテ、同時ニ又、人々行實上ニ關スル切要ナル問題タレハ、何レノ國ニテモ、何レノ世ニテモ、人間世界ニ在リ、思慮深キ省察ヲ知ル心ニ於テハ、直チニ此項ニ、意ヲ注クコトヲ免カレサル所ナリ

希臘ノ哲學ヲ舉ク

希臘人ノ中ニテハ、此事項ニ就テ、抗衡セル諸說、諸學派共ニ盛ナリキ、埃比古列晏派ニテハ、普通不變ノ命數ト云フ學理ニ、反抗シテ、人意ノ自在ヲ肯定シタリト雖、リユク今盧可列叔斯ノ書ニ據リテ、之ヲ判スレハ、亦必至學家タルヲ免カレス、盧可列叔斯ノ自在ノ觀念ハ、士低瓦的氏ノ指目セ

猶太ノ派ヲ舉ク

ル如ク、至極ノ必至ト相合シ、人ヲ以テ、全ク受動機械性ノ一物トナスコト、コル哥拉林斯、ホベス霍畢寺ノ假想セシカ如シト、其言ニ以謂ヘラク、自在ハ、自ラ是、或源由ノ必至ナル效驗ナリト、而テ此見解ヨリ、推擴シタル道理ハ、即チ、方今必至學ノ徒ノ、憑憑セル所ト、一モ異ナルコト無クシテ、以謂ヘラク、之ヲ他道ニ假想スルハ、是源由無キ效驗アリト、假想スルナリト、又一方ニ就テハ、士德衣加派ハ、命數ノ學理ヲ、固守シタレ、却テ、意ノ自在ノ極ニ至レリ、此見解ノ合否ニ就テハ、今余カ論スル所ニ非ス、埃比古列多斯ハ、士低瓦的氏ノ指シテ、宿命學ト、意ノ自在ト、結合セル例ト、セル所ニテ、是非常ノ事ニテハ、非ルナリ

此埃比列晏派ト、士德衣加派トノ、相反セル如ク、猶太人ノ中ニテモ、三個ノ相敵セル宗派アリ、噉吐噉人、サド噉吐噉人、ホリ噉吐噉人ニテ、噉吐噉人ハ、人ノ自在ノ學理ヲ奉シ、噉吐噉人ハ、命數ノ學理ヲ奉シ、少クモ、真ノ自在トハ、相和ス可

亞刺比亞
ノ諸學派
ヲ論ス

ラサル度ニ至レリ

恐ラシハ、亞刺比亞人ノ如ク、一層ノ熱心ヲ以テ、廣ク此問題ヲ講究セシ
國民ハ、莫カルヘシ、蓋シ其哲學ハ、其神理學ヨリ、講明セル者ト見ユ、カノ
哥蘭ト云フ有名ノ書始メテ、亞刺比亞人ノ眞率ナル心ヲ、提醒シテ、其朦
朧タル夢想ヲ喚起シ、之ヲシテ、一層高キ眞理ノ意識ヲ、煥發セシメシ時
ニ方リ、カノ講究觀察ノ、最第一ノ題目トシテ、依テ以テ、其哲理ノ思惟ヲ、
用非シ者ハ、人ノ能力、意ノ自在ト云フ、從來ヨリ存セル問題ヲリシト見
ユ、哥蘭ハ、必至命數ノ學理ヲ、教示セリ、然ルニ、速カニ又、加的里低斯ト、號
スル一派起レリ、此名號ハ、亞刺比亞語ノカドル、即チ、勢力自在ト云フ義
ニ、據ル所ニテ、人ノ行事ハ、善惡ニ、其自己ノ意ノ管轄下ニ屬スト云フ、
相反セル學理ヲ、主張セル者ナリ、是ヨリシテ、漸次ニ、異說ヲ立ル者多ク、
竟ニ一團ヲナスニ至リ、自ラ名號ヲ立テ、一方ニハ、此見解ヲ主張シ一方

士哥羅斯
埜加ノ派
并ニ、耶蘇
新教ノ見
解ヲ論ス

ニハ、他ノ見解ニ、抗衡シテ、其爭論、漸々哲學ノ一部トナリ、殆ト三百年間、
諸種ノ學力才能ヲ盡シ、亞刺比亞ノ學者、哲家、熱心以テ、此無形理學上ノ、
至難深奧ナル問題ニ、就テ、爭論セリ、然ルニ、竟ニ宿命學、盛ニナリタリト
見ユ、是實ニ、教門模範ノ中、紕謬虛偽ト、其趣ヲ同ウスル學理ニシテ、此ノ
如キ模範ヲ、立ル處ニハ、此學理ヲ立ルコト、極メテ、容易ナルヘシ
中世ノ、士哥羅斯埜加派ノ、諸牧師ノ中、或ハ、意ノ自在說ヲ、取ル者アリケ
レト、多クハ、唯、其情動ノ自在ト、名クル義ヲ、許容セリ、即チ、我カ爲サムト、
欲スル如ク、爲スノ勢力ナレト、理性ノミニテ決スル、中立不偏ノ自在、即
チ、其意ヲ決定スル勢ト云フ義ニ、相反セルナリ
今人ノ中ニテ、新教ノ諸師ハ、自在ノ說ニ就テ、人々說ヲ異ニシ、路得派ノ
諸人ハ、墨蘭昆共ニ、必至ノ學範ニ、抵抗シタルト、加爾榮并ニ、丕洒爾ハ、上
天預定ト云フ見解ヲ、取レルカ故ニ、論勢ノ至ル所、之ヲ固守セリ

近日有名ナル必至學ノ主張者

近世并ニ方今哲學諸家ノ中ニテ、大名家ノ陳列ハ、必至學ノ方ニ在リトス。霍畢寺、祿可、然ルニ、此二人ハ、雙方ニ跨カル者トシ、萊武尼多、哥拉林斯、義德瓦的、普利斯多列、伯拉深、甲謨斯公、豪多列、彌爾、皆侃然トシテ、必至ノ學理ヲ主唱セリ。

霍畢寺ノ學理ヲ論ス

霍畢寺ノ見解ハ、其以後此考定ヲ主張セル人々ノ說ニ模範ヲ假シタリト見エ、其取ル所ノ自在ノ說ハ、唯人、其爲サムトスル所ヲ爲スノ自在ニテ、即チ、士哥羅斯埜加派ニテ、情動ノ自在ト稱スル者ナリ、今ツレ、水ハ、一物モ、其流道ヨリ流下スルヲ防ク者無キ時ハ、自由自在ナリ、之ニ由テ、其義ヲ定解シテ、曰ク、自在トハ、其作用ニ總テ障礙無キコトニテ、其障礙ハ、主者ノ性質内部ノ形質中ニ含蓄セル者ヲ謂フニ非スト、故ニ、人其手ヲ縛セラル、時ハ、是行動ノ自在ヲ失フナリ、何トナレハ、其障礙内部ニ在ラスシテ、其手ニ在レハナリ、而テ其人、疾病若クハ、麻痺ニ因テ、行動スル

コト能ハサルハ、自在ナリト謂フ可シ、何トナレハ、其障礙自己内部ニ在レハナリ、是ヲ以テ、其爲サムト思フ所ヲ爲シ得ル者ハ、自在ナル主者ト謂フヘシ。

此說實ニ後來必至學ノ主張者ノ取レル自在ノ見解ニテ、哥拉林斯、普利斯多列、并ニ義德瓦的ノ見解モ、殆ト同一語ニ出テタリ。

祿可ノ學理ヲ論ス

是亦祿可ノ自在ノ觀念ナリ、其言ニ曰ク、自在トハ、其主者、其心ノ思惟決定スル所ニ從ヒ、何ニテモ、一行事ヲ爲シ、若クハ止ムルノ勢力ニシテ、其心ノ思惟決定ニ因テ、或ハ行ヒ、或ハ止ムルコトヲ決シ、此ヲ彼ヨリ擇ヒタルナリト、此自在ハ、唯我カ執意ヲナシタル時ニ、之ヲ發陳スル所マテ、及ヒ、之ヲ爲サムト思ヒ、若クハ、選擇スル上ニハ、關セス、其意自己ノ決定ヲ管轄スル勢力ハ、此定義中ニ含蓄セサルナリ。

祿可ノ說

此說ニテハ、祿可自己ノ所說ト、相合セル所アリ、是其勢力論ノ篇中ニ、人

ノ、不合當ナルヲ論ス

ノ自在ト云フ學理ヲ固守セリト見ユレハナリ、是不列的曾カ、正サシク摘示セル如ク、斯ニ舉ケタル自在ハ、意ノ自在ニモ非ス、又爲サムト思フ心ノ自在ニモ非ス、唯形體ノ自在タルナリ、是唯形體ノ運動ニ就テ、指ス所ニテ、心ノ作用ニ關セサルナリ

祿可明カニ言ヘルコトアリ、曰ク、絶テ自在ノ無キ所ニモ、執意ハ存スル者ナリト、而テ、其比譬トシテ、毀橋ヲ越エル時、墮ツル人ノ事例ヲ援ケリ、其人ハ、必ス墮チサルヲ擇ヒ、其執意ヲ有スト、雖也、其墮落ヲ、何如也、爲ルコト、能ハサレハ、絶テ自在ハ無キナリ、此說ニテモ、祿可、又合當ナリト、謂フ可ラス、蓋シ他ノ所ニテハ、祿可執意ト、欲ト、選擇トヲ、區別シテ、斯ニテハ、之ヲ區別セサレハナリ

蓋シ、祿可自ラ、人ノ自在ヲ、主張スト、思ヒシハ、疑ナキ所ナリ、何トナレハ、其書ノ全論中、殊ニハ、第二十一篇ノ精神ハ、斯ニ存スレハナリ、然也、同時

萊武尼多ノ見解ヲ論ス

ニ又其定義ノ不十分ニシテ、其措語ノ不合當ニ、且纏覆不定ナルハ、其過ト爲サルヲ得ス、是ヲ以テ、普利斯多列ノ如ク、カノ必至ノ、何物タルヲ知ラス、之ヲ取ルノ意、無ウシテ、實ニ、其範圍中ニ入リシ諸人ト、一列視スヘキノ理由アリ

萊武尼多ハ、其總概ノ考定ニテ、道理十全ト云フ說ヲ、立テタリ、即チ物ノ云々タルト云々タラサルトハ、悉ク其理由アリテ、一物モ、此理由無シニ、存スル者無シト、云フ考ヘナリ、此考定ヨリ、必至ノ學理ヲ取ルコト、ナレリ、萊氏ハ、此元理ヲ充擴シテ、神ト雖也、全然同一ナル二物ヲ、造ルノ勢力無シ、又神モ、人モ、全然同一ナル二物ナレハ、中ニ就テ、其一ヲ擇フノ勢力無シト、云フニ至レリ、此元理ニテハ、此心ハ、必ス、其物、陽象ノ至善ニ因テ、定メラル、者トシ、此著家ノ假定セシ如ク、自在ナル主者ハ、絶テ有ル可ラサル者ナリト、確乎タル論明ニテ、之ヲ立論セリ